

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 25 号 (2019 年度)

KPMNH Yearbook
No. 25

2019. 4-2020. 3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN
Jun. 2020

ごあいさつ

常日頃より当館の運営と活動について、ご理解とご支援、ご協力をいただいていること、あらためてお礼申し上げます。

2019年度の事業をまとめた、本誌「神奈川県立生命の星・地球博物館年報 25号」を発行いたします。昨年度も館の設置目的と使命に基づいて諸活動を継続してきましたが、ここでは特に注目に値することをご紹介します。

資料収集活動では、博物館収蔵資料登録システム（ミュージズテーク）への標本登録点数が約90万点に達したこと、日本-オーストリア友好150周年記念事業の一環としてオーストリア国立ウィーン自然史博物館に当館所蔵の相模湾産サメ類標本を寄贈できたことなどがあります。

調査研究活動では、日本学術振興会科学研究費をはじめとする外部研究補助金を継続的に獲得できたこと、当館発行の「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」と「神奈川県立自然誌資料」を完全電子出版化して、科学技術振興機構（JST）が運営するJ-STAGEに登録したことなどがあります。当館研究報告の完全電子出版化に際して、国際動物学命名規約が規定する電子ジャーナルの出版要件を満たすことができたことは、国内では他に先駆けての取り組みとして画期的なことです。

展示・普及活動では、特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」を、30年以上もアオバトの観察を続けてこられた自然観察グループ「こまたん」と共催したことがあります。地域の観察グループと学芸員とのコラボは、新しい活動の展開を生み出しました。また、この特別展を機会に新たな広報手段としてTwitterを始め、博物館利用者への情報発信の強化に努めました。しかし、年明けからの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大変残念ながら当館も3月4日から臨時休館となりました。例年3月の開館記念事業であるミュージズ・フェスタをはじめ各種の行事の中止や延期、企画展「 Gondwannerock が語る大陸の衝突と分裂」も会期中途から観覧休止となりました。臨時休館や学校休校、外出自粛という状況下となりましたが、自宅でも博物館を楽しんでいただくために、ホームページを活用した話題提供を行うことにしました。

当館は、今年の3月で開館25年が過ぎました。建物・設備の長寿命化、収蔵庫の拡大、展示の改修、そして火山噴火や河川氾濫などの自然災害対策など、解決すべき課題が山積みです。それらの課題解決に向けて、さらに検討と対策を進めていかなければなりません。

今後も、当館の運営と活動につきまして、ご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2020年6月
神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 **平田 大二**

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ		5.5. 学習指導員による学習支援活動	59
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命		5.6. 博物館のボランティア活動	61
シンボルマーク・ロゴタイプ		5.7. 広報	64
I 沿革	4	6. 刊行物	65
1. 沿革	4	6.1. 定期刊行物	65
2. 2019年度の主な出来事	5	6.2. 刊行物販売状況	67
3. 災害等による措置	5	7. 情報システム	68
II 機能	6	7.1. システムの概要	68
1. 運営管理機能	6	7.2. サブシステムの紹介	69
1.1. 事業体系	6	7.3. インターネットの利用	70
1.2. 組織	7	7.4. 情報提供	70
1.3. 職員名簿	8	8. 連携機能	71
1.4. 利用者	9	8.1. 友の会	71
1.5. 歳入歳出決算	9	8.2. サロン・ド・小田原	73
2. 情報発信機能	10	8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	73
2.1. 常設展示	10	8.4. 館内施設等の状況	75
2.2. 特別展示	13	III 資料	76
2.3. その他の展示	16	1. 条例・規則	76
2.4. SEISA ミュージアムシアター	17	1.1. 神奈川県立の博物館条例	76
2.5. ミューズ・フェスタ 2020	19	1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	77
2.6. 臨時休館時の Web 情報発信	19	1.3. 神奈川県立の博物館の利用に関する規則	78
3. シンクタンク機能	19	2. 館年表	80
3.1. 調査研究事業	19	2.1. 再編整備決定から開館まで	80
3.2. 研究助成金による研究	20	2.2. 開館から 2019 年度末まで	80
3.3. 著作活動・学会発表等	21	3. 資料統計	82
3.4. レファレンス対応人数	33	3.1. 利用者状況	82
3.5. 各種委員・役員・非常勤講師	34	3.2. 年度別利用者数の推移	83
3.6. 講師依頼等	37	3.3. 特別展・企画展開催実績	84
3.7. 学術交流	39	3.4. 資料登録実績	86
3.8. 他施設・団体への協力	39	3.5. ウェブサイトアクセス実績	88
3.9. 外部研究者の受け入れ	40	3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	88
3.10. 名誉館員	40	3.7. FishPix のアクセス実績	89
4. データバンク機能	41	3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録	89
4.1. 資料概況	41	3.9. 来館者アンケート	94
4.2. 図書資料収集状況	48	4. 調査研究関連資料	97
4.3. 資料利用状況	49	4.1. 研究成果	97
4.4. 資料燻蒸	50	5. 施設概要	105
5. 学習支援機能	51	5.1. 土地・建物	105
5.1. 生涯学習への対応	51	5.2. 設備	106
5.2. 学校教育への対応	55	5.3. 面積表	108
5.3. 博物館実習	58	5.4. 平面図	109
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	59		

I 沿革

1. 沿革

1986年	12月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988年	7月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名誉教授））から提言
1989年	3月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990年	3月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10月	建築基本設計着手
1991年	3月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10月	第一期造成工事着手
1992年	4月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4班体制となる
	10月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994年	12月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995年	1月 1日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
	3月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3月 8日	平成6年度第1回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3月 20日	開館記念式典実施
	3月 21日	一般公開開始
	5月 7日	入館者10万人到達（41日目）
	9月 24日	入館者30万人到達（158日目）
1996年	4月	シンボルマーク製作
	4月 17日	入館者50万人到達（321日目）
1997年	7月 23日	入館者100万人到達（705日目）
1998年	3月 30日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11月 3日	入館者150万人到達（1,090日目）
2000年	3月 31日	濱田隆士館長退任
	4月 1日	青木淳一館長就任
	8月 6日	入館者200万人到達（1,613日目）
2001年	3月 27日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002年	7月 19日	入館者250万人到達（2,206日目）
2004年	5月 25日	入館者300万人到達（2,770日目）
2006年	3月 31日	青木淳一館長退任
	4月 1日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。 斎藤靖二館長就任
	7月 8日	入館者350万人到達（3,409日目）
2008年	8月 12日	入館者400万人到達（4,062日目）
2010年	10月 21日	入館者450万人到達（4,863日目）
2012年	8月 3日	入館者500万人到達（5,183日目）
2013年	10月 8日	天皇陛下下行幸
2014年	1月 13日	入館者550万人到達（5,716日目）
	3月 31日	斎藤靖二館長退任
	4月 1日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015年	8月 29日	入館者600万人到達（6,190日目）
2017年	5月 3日	入館者650万人到達（6,667日目）
2018年	10月 26日	入館者700万人到達（7,104日目）
2020年	3月 4日	～31日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

2. 2019 年度の主な出来事

2019 年	(3月)	(2日)	～	5月	12日	2018 年度 企画展「箱根ジオパーク展 ～身近な火山と友だちになる～」
	5月	1日				天皇御即位慶祝事業 無料公開
	5月	18日				第 134 回 サロン・ド・小田原「海底の地質はどのように調べるのか?～近年の調査航海の経験から～」
	6月	1日				定期人事異動
	6月	8日	～		9日	日本動物分類学会第 55 回大会開催
	6月	17日	～		21日	燻蒸
	7月	17日	～	8月	31日	夏休み期間中無休閉館期間
	7月	20日	～	11月	10日	特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」
	8月	3日				第 135 回 サロン・ド・小田原「アオバトと照ヶ崎周辺の地形」
	10月	12日	～		13日	台風 19 号により臨時休館
	10月	18日				オーストリア国立ウィーン自然史博物館へサメ標本を贈呈
	10月	22日				即位礼正殿の儀 無料開放
	11月	10日				第 136 回サロン・ド・小田原「海中のスターたち～棘皮動物学ことはじめ～」
	12月	21日	～	1月	13日	子ども科学作品展
2020 年	2月	23日				第 137 回 サロン・ド・小田原「テフラって何?～なぜ調べるのか、何がわかるのか～」
	2月	29日	～	5月	31日	企画展「ゴンドワナ ～岩石が語る大陸の衝突と分裂～」
	3月	4日	～			新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
	3月	20日				『神奈川自然史資料』(同日発行) 完全電子ジャーナル化
	3月	31日				『神奈川立博物館研究報告』(同日発行) 完全電子ジャーナル化
	3月	31日				魚類写真資料データベースへのアクセスが 5000 万件突破

博物館の再編整備の決定以降、2019 年度までの出来事の概略
 に関しては、Ⅲ 資料の項 (80～81 ページ) に掲載した。

3. 災害等による措置

[日時]

- ① 2019 年 10 月 12 日 (土)・13 日 (日)
- ② 2020 年 3 月 4 日 (水)～31 日 (火) ※2020 年 4 月 1 日以降も継続中

[災害等の種類]

- ① 台風。2019 年 10 月 12 日から 13 日にかけて、令和元年東日本台風 (台風第 19 号) の通過による強風と記録的な大雨により、神奈川県に特別警報が発令された。この台風により、土砂災害や浸水等による被害、公共交通機関の運休が発生した。
- ② 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大に伴い、2020 年 2 月 25 日に神奈川県が「神奈川県新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を決定し、3 月 2 日に県民利用施設の臨時休館を発表した。

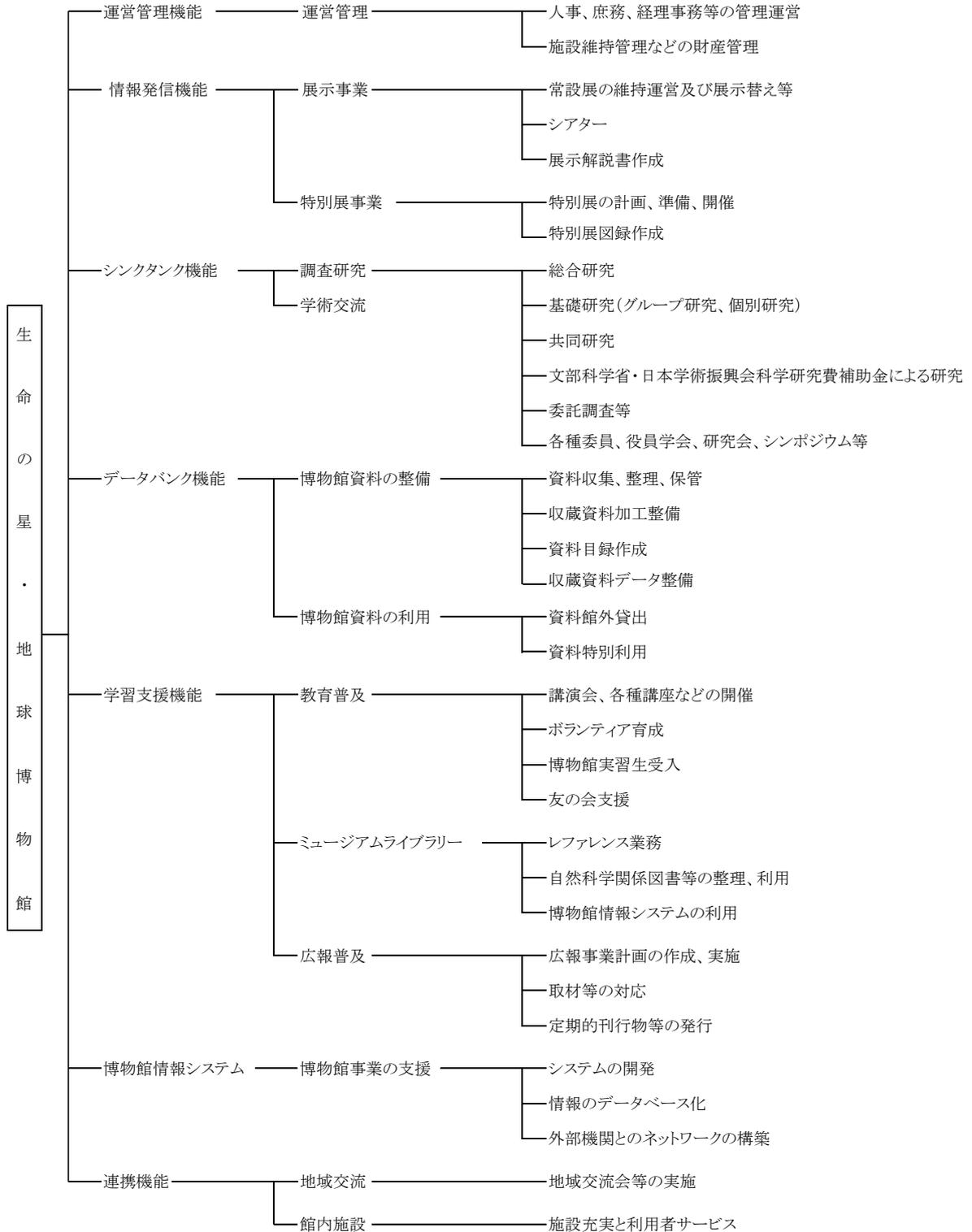
[災害への対応]

- ① 2019 年 10 月 12 日・13 日を臨時休館とした。館外で実施予定だった博物館主催事業も中止とした。小田原市の要請に基づき、当館を市の土砂災害避難場所として開設した (12 日 6 時 30 分開設・13 日 6 時 00 分閉鎖)。
- ② 2020 年 3 月 4 日から臨時休館とした。ミュージズ・フェスタ 2020 をはじめとする博物館主催・共催事業も中止とした。

Ⅱ 機能

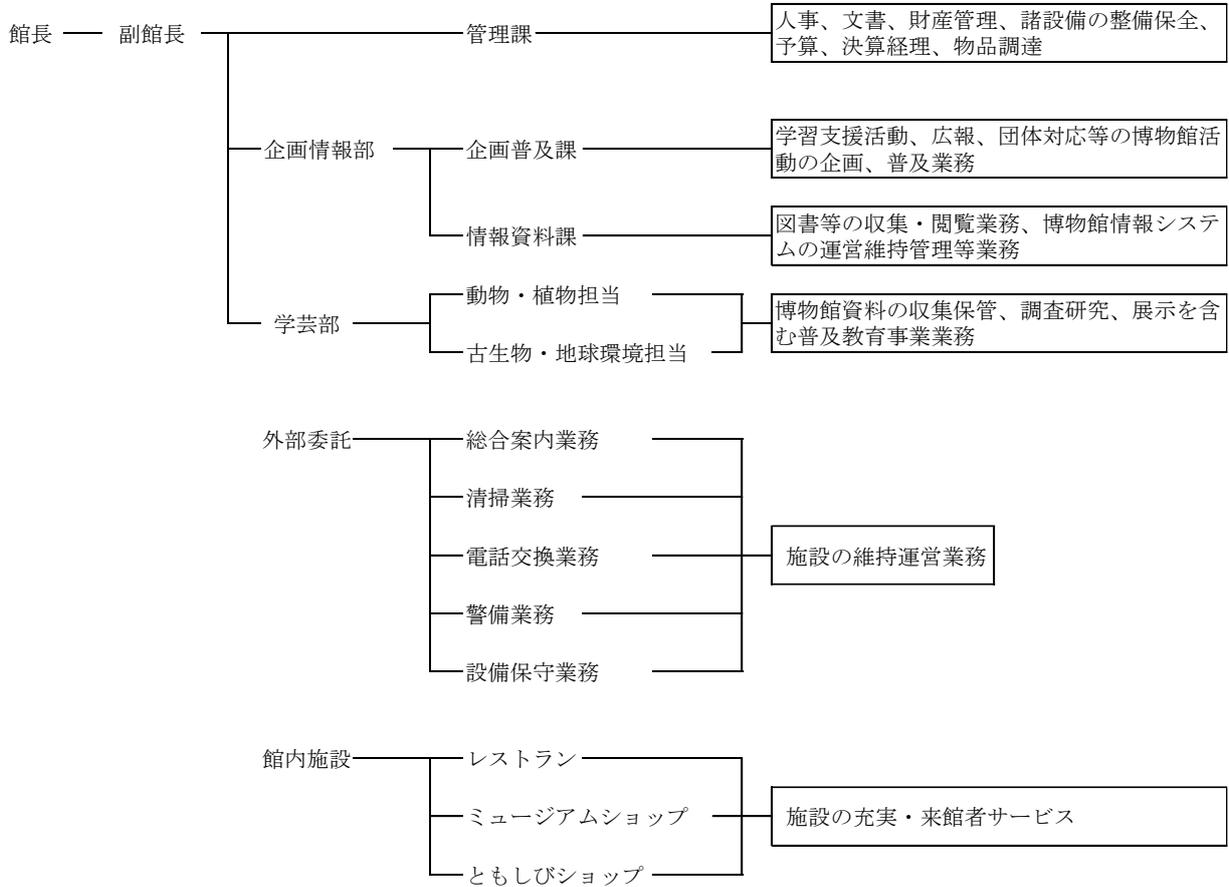
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

令和元年6月1日現在									
区分	常勤			非常勤					合計
	事務職	学芸員	司書	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	
名誉館長						1			1
館長		1							1
副館長	1								1
管理課	8			1	1				10
企画情報部	部長	1							1
	企画普及課	3	4		1			5	13
	情報資料課	1	2	1	1	1	1		7
	小計	5	6	1	2	1	1	5	21
学芸部	部長		1						1
	動物・植物		7						7
	古生物・地球環境		5						5
	小計		13						13
合計	14	20	1	3	1	2	1	5	47
			35					12	

指導員＝博物館学習指導員、再任用職員は常勤に含む

1.3. 職員名簿

[平成31年4月1日～令和2年3月31日]				
職名		氏名	担当分野/備考	
名誉館長（非常勤）		斎藤 靖二	地学（堆積学）	
館長（再任用）		平田 大二	地学（鉱物）	
副館長		萩生田 美穂子	～R元.5.31	
副館長		吉岡 貞一	R元.6.1～	
管理課	課長	保坂 浩志	R元.6.1～	
	副主幹	原 良治		
	主査（事務）	鈴木 泉		
	〃	稲見 浩太郎		
	主事	黒澤 こと美	～R元.5.31	
	〃	高橋 一晴	R元.6.1～	
	〃	工藤 麻衣		
	〃（再任用）	田村 哲		
	〃	内田 功		
	非常勤技師	井川 博文		
非常勤事務補助	藤森 京子			
企画情報部	部長	田邊 勉		
	企画普及課	課長*	佐藤 武宏	動物（無脊椎動物）
		主任学芸員*	苅部 治紀	動物（昆虫類）
		〃	石浜 佐栄子	地学（地球化学）
		学芸員*	松本 涼子	動物（両生爬虫類）
		主事	中村 友美子	
		主事（再任用）	芝山 一彦	
		〃	平賀 保彦	
		非常勤事務補助	本杉 弥生	
		非常勤学芸員*	下出 朋美	H31.4.11～R元.5.12
		非常勤博物館学習指導員	杉崎 均	
	泉 在道			
	市川 美紀子			
	森泉 誠司			
	柚原 章			
	情報資料課	課長*	山下 浩之	地学（岩石）R元.6.1～
		学芸員*	鈴木 聡	動物（哺乳類）
		主事	鈴木 まり絵	
		主査（再任用）	土屋 定夫	
		非常勤学芸員*	大坪 奏	アーカイブズ
非常勤事務補助		佐藤 恵		
非常勤司書		小林 瑞穂		
学芸部	部長	田中 徳久	植物（植物生態）R元.6.1～	
	動物・植物担当	チームリーダー・主任学芸員	加藤 ゆき	動物（鳥類）
		学芸員	渡辺 恭平	動物（昆虫類）
		〃	大西 亘	植物（維管束植物）
		〃	折原 貴道	植物（菌類）
		〃	石田 祐子	植物（維管束植物）
		主任学芸員（再任用）	広谷 浩子	動物（霊長類）
		〃	瀬能 宏	動物（魚類）
	地球古生物・環境担当	チームリーダー・主任学芸員	新井田 秀一	環境科学（海洋光学）
		主任学芸員	大島 光春	古生物（哺乳類）
		〃	樽 創	古生物（哺乳類）
		〃	田口 公則	古生物（貝類）
		学芸員	西澤 文勝	地学（火山地質）

*学芸部を兼務

1.4. 利用者

2019年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は33ページ、それ以外の利用者状況詳細は82～83ページ、開館以来の入館者数統計は83ページを参照のこと。

◆博物館利用者 312,298人

2019年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「学芸員への質問・相談者」の合計。

◆入館者 294,286人（1,115人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

◆常設展入場者 218,659人（828人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

◆ライブラリー利用者 90,877人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

◆講座・観察会・講演会・研修等参加者 14,171人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、学芸ボランティア・ライブラリーボランティア・展示解説ボランティア、大学生の博物館実務実習の参加者数。

◆特別展・企画展等入場者 66,673人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

◆学芸員への質問・相談者 3,797人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、出前などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

1.5. 歳入歳出決算

令和元年度歳入

科目	金額(千円)	内訳	
教育財産使用料	1,611	レストランほか 建物使用料	
博物館使用料	45,044	観覧料収入	
		常設展	42,694
		特別展	2,350
立替収入	1,362	レストランほか 電気・ガス・水道料	
図書等売払収入	1,295	展示解説書等販売収入	
雑入	20	ライブラリー複写代	
合計	49,332		

令和元年度歳出(社会教育費のみ)

科目	金額(千円)	内訳
維持運営費	175,023	館の維持管理及び事業運営
博物館事業費	14,666	総合案内業務・特別展の開催 総合研究・基礎研究・調査研究報告 書の作成・博物館資料収集・収蔵展 示資料修繕・加工・各種講座・講演 会等の開催・図書等資料整備・広報 資料作成
情報システム 整備費	2,088	データ入力等
合計	191,777	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トゥプクスアラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006年7月から日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日から展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2019年度の展示変更及び更新

① 総合展示室 展示照明更新

【展示期間】 2019年9月9日～

【展示概要】 展示資料を照らすスポットライトを、ハロゲン電球からLEDを使用したものに更新した。また、解説や写真などの内照式パネルを蛍光灯からLEDを使用したものへ更新した。

【更新内容】 シンボル展示「チンタオサウルス」展

示ステージ内部照明4基、導入展示「生命の星の条件」ダウンスポットライト2基、地球展示室「展示室サイン」2基、「内照式解説パネル」45基、「熱放出のメカニズム」のフットライト9基、生命展示室「展示室サイン」2基、「光ファイバー照明光源」2基、「恐竜の世界」スポットライト15基、「ステノプレリギウス」のラインライト2基、「再び海へ」

スポットライト8基、「地球環境に広がる生命」壁面ラインライト2基、「板根」スポットライト17基、「内照式解説パネル」40基、神奈川展示室「日本列島の岩石」アップライト3基、「相模湾の行きている化石」「相模湾に生きる多様な生物種」壁面アップライト14基、共生展示室「展示室サイン」2基、ジャンボブック展示室「展示室サイン」1基、「本型ケース」背面スポットライト4基、ミュージアムライブラリー「友の会コーナー」スポットライト4基。

[担当] 新井田秀一

② 総合展示室 展示グラフィックパネル等更新

[展示期間] 2020年3月10日～

[展示概要] 展示グラフィックパネルに表示されている点字が破損したものや誤字が8点あり、同じ内容のものを制作し更新した。また、2018年度に展示解説書改訂作業においてデータを更新した「約260万年前以降の環境の変遷」について、既存のパネルからサイズを変更して新規に作成した。

[展示内容] 点字破損・誤字修正：地球展示室「縞状鉄鉱層」、「プレートテクトニクス」、生命展示室「イワダヌキ目」、「頭の上を飛んでいる鳥たち」×2、「霊長類の鳴き声スイッチプレート」、「昆虫の世界」、「種分化」

データ更新による新規作成：神奈川展示室「約260万年前以降の環境の変遷」

[担当] 新井田秀一

③ 「タイムスケールの壁」展示項目更新

[展示期間] 2020年3月24日～

[展示概要] エントランスホールに設置されている導入展示「タイムスケールの壁」において、該当する時代に起きた「イベント」の表記が摩耗して読めない個所が21ヶ所あるため、切り文字によって再設置する。

[展示内容] 修正内容：世界最古の鉱物、日本最古の岩石、スノーボールアース、カンブリア紀の始まり、魚類の出現、オルドビス紀の始まり、シルル紀の始まり、デボン紀の始まり、石炭紀の始まり、三疊紀の始まり、恐竜の出現、鳥類の出現、ジュラ紀の始まり、白亜紀の始まり、被子植物の出現、第三紀の始まり、ホモ・サピエンスの登場、大型哺乳類の狩猟、新石器時代、鉄器時代の始まり、産業革命

④ 特別展示室ハイケース内スポットライト増設

[展示期間] 2020年3月26日～

[展示概要] ハイケースは、内部の可動壁によって展示スペースを変更できるが、あまり手前に壁を設置したり、上部照明を絞ると暗くなってしまう欠点があった。そこで、磁石で吸着する可搬式のスポットライトを作成した。

[展示内容] LEDスポットスポット(外形色：白色、Ra83)4台を磁石の取り付け加工を施した配線ダクト(外形色：白色、長さ：1350mm)に取り付ける。配線ダクトには、電源供給部(外形色：白色)を接続する。

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。2019年度の変更・展示替え等については以下の通りである。

① 第17巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』

[展示期間] 2020年2月14日～以降継続展示中

[展示内容] ツツジのなかま、スマイレ!

一部模型(○付)を新規追加(展示替え)

原色標本：ヤマツツジ・サラサドウダン・ミツバツツジ

模型：(サツキ)・ゴヨウツツジ・エゾノタチツボスマイレ・タチスマイレ・マルバスマイレ・ナガバノスマイレ・サイシン・ヒナスミレ・(アカネスマイレ)・(アケボノスマイレ)・(エイザンスミレ)

写真：エイザンスミレ・ヒゴスマイレ・タチツボスマイレ・アケボノスマイレ・サクラスマイレ・キスマイレ・コミヤマスマイレ・ヤクシマスマイレ

[担当] 田中徳久・大西 亘・石田祐子

② 第18巻 相模川溪岸の植物

[展示期間] 2020年2月14日～以降継続展示中

[展示内容] 溪岸をいろいろ植物

相模川の溪岸を代表する植物を模型と標本で紹介
サツキ模型を撤去(ジャンボブック第17巻に移動)

[担当] 田中徳久・大西 亘・石田祐子

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

情報展示パネル

① 友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介
[展示更新] 随時、とくに活動報告など
[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

② 博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコースおよび解説1～9の紹介

ミニ企画展示コーナー

最長3ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的としてつぎの8タイトルの「ミニ企画展示」を開催した。(2018年度計画で、開催期間が2019年度に及んだものを含む)

① 友の会会員430名と共に一学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんかー

[展示内容] 前年度年報に記載のため省略
[開催期間] 2019年3月3日～5月6日
[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

[開催期間] 2019年8月13日～9月8日

[担当] 荻部治紀

② 足あと、だれのあと、どんなあと?ー動きを読みとく足がかりー

[展示内容] 博物館の前庭の黒いタイルに様々な動物の足あとが刻まれています。この動物たちの足あとは、35種類の本物の動物たちの足あと(原寸大)で、来館者を博物館の正面玄関まで案内しています。今回のミニ企画展示では、足あとで分かる動物たちの動きを、はく製や足あとの標本などを使ってわかりやすく解説した。

[開催期間] 2019年5月12日～7月31日

[担当] 下出朋美、田口公則

④ 箱根登山鉄道と箱根火山

[展示内容] 2019年で箱根湯本-強羅間が開業から100年を迎えた箱根登山鉄道沿線を中心に、箱根湯本-強羅間の箱根火山の特徴的な地形と地質について、説明パネルと岩石標本により解説した。また、箱根登山鉄道株式会社の協力により、過去の駅舎や工事に使われた岩石の採取露頭、大正関東地震の被害状況などの写真を展示し、地学現象と箱根登山鉄道の関わりを紹介した。

[開催期間] 2019年9月23日～10月27日

[担当] 西澤文勝

③ Wanted! 新たな外来昆虫たち

[展示内容] 日本の生態系に脅威となる外来種の新たな侵入・定着は後を絶ちません。この展示では、近年問題になっている新たな外来昆虫の中から、とくに侵略性が強く生態系への影響が懸念される昆虫や、農業にも影響を与えつつある昆虫たちを紹介した。展示物としては、神奈川県では未記録だが、近々県内への侵入が予測される種(クビアカツヤカミキリ、タイワンタケクマバチ)、昨年県内で初めて記録された種(タケオオツクツク:鳴き声も聴けます)、県内数か所に定着し、在来種に影響を与えつつある種(ムネアカハラビロカマキリ)と、これらの種の多くに共通する侵入源として注目されている中国産竹ぼうきの問題に焦点をあてて展示した。

⑤ 芦ノ湖畔の景観の成り立ち

[展示内容] 箱根火山の地形、また芦ノ湖と駒ヶ岳といった箱根地域の主要な自然景観の成り立ちを説明パネルと岩石標本により解説した。特に芦ノ湖は逆さ杉と断層・地震履歴との関係を、駒ヶ岳については、新鮮な溶岩地形やその地形に特徴的な植物との関係について紹介した。また、伊豆箱根鉄道株式会社の協力を得て、湖畔の景観を見渡せる箱根駒ヶ岳ロープウェイの開業当時の写真を紹介し、箱根地域の自然景観に親しむ展示を行った。

[開催期間] 2019年11月2日～11月24日

[担当] 西澤文勝

⑥ 日本-オーストリア友好150年記念「ウィーンに渡ったミツクリザメとラブカ」

[展示内容] 今年は日本とオーストリアが国交を樹立してからちょうど150年になる。条約調印の記念日

となる 10 月 18 日にオーストリア国立ウィーン自然史博物館の講堂において、当館から寄贈した 2 個体のサメ（ミツクリザメとラブカの液浸標本）の贈呈式が行われた。贈呈式には当館の平田大二館長と瀬能 宏主任学芸員が出席した。今回の寄贈は、李 清グラーツ国立音楽大学元教授と、教授の奥様でミツクリザメの名前の由来となった箕作佳吉（1858-1909；東京帝国大学動物学教授）を輩出した一族の箕作温子氏の仲介により実現した。

今回の展示では贈呈式の様子やウィーン自然史博物館の概要のほか、「生きている化石」として有名なミツクリザメとラブカについて当館所蔵の液浸標本や剥製、化石を使って紹介した。

[開催期間] 2019 年 12 月 4 日～2020 年 1 月 13 日

[担当] 瀬能 宏

⑦ ウメ ー花のつくりと形ー

[展示内容] 梅と小田原は深い関係を有し、令和になって初めての梅の開花を迎えた。梅の花には、白い

花、紅い花、一重、八重など、いろいろな種類がある。本展示では、ウメの花のつくりの解説のほか、ウメの栽培品種（十郎、八重野梅、紅粉台閣など 8 種類）の花の写真を展示した。また、バイカウツギなど、名前に「梅」がつく植物についても紹介した。

[開催期間] 2020 年 1 月 22 日～3 月 8 日

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館につき 3 月 3 日で終了）

[担当] 石田祐子

⑧ 友の会会員 440 名と共に ー学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんかー

[展示内容] 友の会では分野別に数々のグループが活動しています。今回の展示では、7 つの活動の様子をポスターで紹介した。

[開催期間] 2020 年 3 月 19 日～8 月 31 日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館につきウェブサイトを提供した）

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2019 年度は特別展を 1 回、企画展を 1 回開催した。なお、2018 年度企画展は、開催期間が 2019 年度におよんでいるため、2019 年度の開催日数、入場者数を掲載した。

2.2.1. 特別展

アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～

[開催期間] 2019 年 7 月 20 日(土)～11 月 10 日(日)
100 日間

[会場] 1 階 特別展示室

[共催] こまたん

[後援] (公財) 神奈川県公園協会、日本野鳥の会神奈川県支部、神奈川県新聞社、tvk (テレビ神奈川)

[協力] 相川 稔、飯島瑛梨、岩佐昌夫、遠藤順一、大坂英樹、太田真二郎、加賀玲子、加藤千晴、金子典芳、川合英利、川本 孟、木村洋子、久野公啓、黒谷祐介、小坂井千夏（農研機構中央農業研究センター）、小島興一、斎藤常實、桜井明璃、佐藤友記、重永明生、重原美智子、柴田美奈子、高桑正敏、高橋律子、西ヶ谷修一、樋口広芳（慶應義塾大学／東京大学）、広谷 彰、松林尚志（東京農業大学）、味埜真理、山田洋子、吉田宣子、渡辺かをり、我孫子市鳥の博物館、出水市ツル博物館クレインパークいずみ、大磯町、大磯町郷土資料

館、神奈川県立秦野ビジターセンター、環境省生物多様性センター、京都国立博物館、京都大学大学院理学研究科、国土地理院、国立国会図書館、酒田市立光丘文庫、相模原市立博物館、栃木県立博物館、神奈川県立秦野ビジターセンター、荻内正幸美術館、(公財) 山階鳥類研究所

[特別展実行委員会] 加藤ゆき、大島光春、松本涼子、新井田秀一、田口公則、広谷浩子、鈴木 聡、田中徳久、大西 亘、大坪 奏、黒澤こと美、稲見浩太郎、中村友美子

[資料点数] 解説パネル 43 点、標本 92 点、文献等 20 点、模型 6 点、バードカービング 3 点、レプリカ 3 点、写真 105 点、動画 4 点、音声資料 7 点、郷土玩具等 28 点

[解説パネルイラスト]
加藤恵美、中村友美子

[展示内容]
ハト類の一種である「アオバト」の特異な生態に着目し、共催団体である野鳥観察グループ「こま

たん」の長年の調査により解明されたアオバトの海水吸飲や森林での子育ての様子、冬期の採食行動といった生態をはじめ、羽の構造や内臓の機能を紹介した。さらに、生きもの全般での「不思議な行動」をテーマとし、多様な環境を季節ごとに移動、利用している生きものの生態を写真や標本等を用いて紹介した。導入展示として、エントランスにて恐竜から鳥類への進化、現生鳥類の分類とハト類について、標本や図を用いて紹介した。関連行事として、アオバト観察会や子ども向けワークショップ、一般向け講演会を実施したほか、サテライト展示として小田原合同庁舎1階エントランスにおいて、写真等でアオバトの生態と飛来地である大磯町照ヶ崎海岸を紹介した。

◎エントランス展示 恐竜から鳥へ

(2019年7月13日(土)から先行開催)

- ・恐竜から鳥への進化
- ・現生鳥類の分類とハト類
- ◎導入展示
 - ・「こまたん」の活動について
 - ・アオバトの道をたどろう
 - ・アオバトの海水吸飲とどんぐり(バードカービング)
- ◎世界のハト・日本のハト
 - ・世界に生息するハト類
 - ・絶滅したハト類
 - ・日本で確認されているハト類
- ◎アオバトのくらし
 - ・アオバトとは?
 - ・夏と冬のくらし
 - ・照ヶ崎海岸の地形と地質
 - ・丹沢山地から照ヶ崎海岸までの飛行ルート
 - ・アオバトを待ち受ける捕食者
- ◎アオバトのふしぎにせまる
 - ・海水吸飲の謎
 - ・アオバトの飛行ルート
 - ・鳴き声の聞き比べ
 - ・新種?ノドアカアオバト
 - ・季節ごとに変わる食べ物
 - ・オスは早起き、メスはゆっくり?
 - ・羽と内臓
- ◎生き物のふしぎ
 - ・トンボの移動あれこれ
 - ・ハチクマの奇妙な生態と渡り
 - ・旅する哺乳類たち
 - ・野生動物と塩
 - ・森のクマの食べ物と行動
- ◎アオバト保全にむけて
 - ・アオバト観察の手引き

- ・アオバトを守ることは森を守る
- ◎体験コーナー
 - ・アオバトの一日すごろく
 - ・比べてみようハト類3種の鳴き声と翼の形
 - ・ハトをモチーフにしたグッズいろいろ
 - ・ハトさんへのお手紙

◎アオバト写真館

- ・アオバトの生態写真13点

[特別展図録] 2019年7月18日発行・96pp.

編集:松本涼子

執筆:大西亘、加藤ゆき、金子典芳(こまたん)、小坂井千夏(農研機構中央農業研究センター)、苅部治紀、田口公則、樋口広芳(慶應義塾大学/東京大学)、広谷浩子、松林尚志(東京農業大学)

イラスト提供:藪内正幸美術館

表紙デザイン原案:加藤ゆき

[ポスター、チラシ、招待券]

藪内正幸(イラスト)、重永明生(写真)、本杉弥生(デザイン)

[入場者数] 41,116人

[関連行事]

◎紙芝居「アオバトたちの大冒険—アオバト湘南物語—」

アオバトの生態を紙芝居で紹介した。

《日時》2019年7月27日(土)、8月10日(土)、8月24日(土) 各日とも11時~11時20分

《場所》当館特別展示室

《講師》大坪 奏、広谷浩子

《参加者数》各日28名、43名、27名

◎観察会「海辺の野鳥観察会」

海水を飲み飛来するアオバト、海辺に生息するカモメ類やミズナギドリ類などを観察した。

《日時》2019年8月3日(土)、9月7日(土)、10月5日(土) 各日とも8時~10時

《場所》大磯町照ヶ崎海岸

《講師》加藤ゆき、広谷浩子、こまたん

《対象》小中学生とその保護者

《参加者数》各日13名、16名、18名

◎講演会「アオバトのふしぎ—ようこそアオバト楽会へ—」

アオバトの特異な生態を紹介いただいた。

《日時》2019年8月10日(土)

13時30分~16時

《場所》SEISA ミュージアムシアターおよび特別展示室

《講師》金子典芳(こまたん)、斎藤常實(こまたん)

《参加者数》185名

◎講演会「生き物のふしぎ」

様々な生きものの不思議な生態を紹介いただいた。

《日時》2018年10月19日(土)13時30分～16時20分

《場所》SEISA ミュージアムシアターおよび特別展示室

《講師》樋口広芳(東京大学名誉教授)、松林尚志(東京農業大学教授)、秋山幸也(相模原市博物館学芸員)

《参加者数》121名

◎第135回サロン・ド・小田原(友の会との共催)

アオバトの生態と海水吸飲のためにアオバトが飛来する照ヶ崎周辺の地形、地質について紹介した。

《演題》「アオバトと照ヶ崎周辺の地形」

《日時》2019年8月3日(土)14時から16時20分

《場所》講義室および特別展示室

《講師》加藤ゆき、田口公則、石浜佐栄子

《参加者数》68名

◎サテライト展示

小田原合同庁舎において、アオバトの生態とその飛来地である大磯町照ヶ崎海岸をパネルで紹介した。

《開催期間》2019年7月1日(月)～8月30日(金)61日間

《会場》小田原合同庁舎1階エントランス

《協力》こまたん

《資料点数》解説パネル2点、写真30点

※個人、団体の敬称略

2.2.2. 企画展

2018年度 企画展 箱根ジオパーク展

～身近な火山と友だちになる～

[開催期間] 2019年3月2日(土)～5月12日(日)

開催日数60日(2019年度は36日)

[入場者数] 37,991人(2018年度は16,174人、2019年度は21,817人)

2019年度 企画展 ゴンドワナ

～岩石が語る大陸の衝突と分裂～

[開催期間] 2020年2月29日(土)～5月10日(日)

開催日数60日(年度内は26日を計画、ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館により、年度内は2月29日(土)から3月3日(火)までの3日間の開催となった。)

[会場] 1階 特別展示室

[後援] 神奈川新聞、tvk(テレビ神奈川)、一般社団法人日本地質学会

[協力] 独立行政法人 国立科学博物館、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所、学校法人 成城学園、栃木県立博物館

[監修] 有馬 眞(第1章と第2章)

[展示協力(個人)] 荒谷邦雄、川田伸一郎、木村由莉、河野重範、白石和行、谷健一郎、外田智千、

矢部 淳、山田泰史

[展示協力(ボランティア)] 秋田 収、飯嶋 晃、磯崎 誠、井上 昭、岩崎友子、岩崎やすえ、蛭子貞二、大前 寛、長田和磨、加賀玲子、加藤桃子、木村洋子、草山清美、児玉正彦、駒井敏雄、酒井明子、志村真尋、新藤誠一郎、末永葉子、高橋里恵、高橋律子、谷 圭司、富田道恵、中村俊文、長山武夫、長山高子、林 弘章、山田洋子、渡邊かをり、渡邊拓巳

[資料借用] 独立行政法人 国立科学博物館、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所、学校法人 成城学園、栃木県立博物館、荒谷邦雄

[企画展実行委員会] 山下浩之、新井田秀一、石浜佐栄子、西澤文勝、平田大二、大島光春、田口公則、松本涼子、高橋一晴、中村友美子

[展示担当] 山下浩之、新井田秀一、石浜佐栄子、

西澤文勝、大島光春、田口公則、松本涼子、加藤ゆき、瀬能 宏、苅部治紀、石田祐子

[入場者数] 827 人

[資料点数] 標本 300 点、解説パネル 77 点、写真 14 点、入生田なかよし子ども会提供習字作品 18 点

[展示内容] およそ 6 億年前、現在のアフリカ、南アメリカ、インド、オーストラリア、南極が 1 つに結合した、ゴンドワナ大陸という巨大大陸が南半球にあった。その後、ゴンドワナ大陸はユーラシアや北アメリカ大陸と衝突して、1 つの超大陸「パンゲア超大陸」となった。約 1.8 億年前からパンゲア超大陸は分裂し、現在の姿に至った。このように、地球上の大陸は、結合と分裂を幾度も繰り返してきてきたことがわかってきた。では何故そのようなことがわかるのか？それは、大地を構成する岩石に記録が残されているためである。本展示では、大陸の衝突によってできた岩石や、分裂の証拠となった岩石、大陸が一続きであった証拠となる化石を紹介することで、太古の昔にあったゴンドワナ大陸を紹介した。あわせて、日本では見られない大陸由来の岩石や、ゴンドワナ大陸で生き、現在は絶滅した生物なども紹介した。

◎10 億年の大陸移動の履歴

岩石や鉱物、そして化石を通して、ゴンドワナ大陸を生み出した地球規模の大陸の衝突分裂、さらには大陸移動の履歴を紹介した。

- ・理論編：ゴンドワナとは、陸の誕生、大陸の衝突と分裂、岩石の年代を測る、古地磁気が解き明かした大陸移動、大陸がぶつかる何が起るのか、変成岩の形成
- ・ストーリー編：ゴンドワナ大陸を構成する 10 億年以前の岩石、ロディニア超大陸の形成、ロディニア超大陸の分裂、ゴンドワナ大陸の形成、ゴンドワナ大陸の誕生でできた岩石、ゴンドワナ大陸の誕生を物語る鉱物、大陸の衝突に伴う大規模花崗岩類の形成～ペグマタイト鉱物、パンゲア超大陸の形成、パンゲア超大陸の分裂、大陸の移動説と根拠となる化石
- ・トピックス：日本とゴンドワナ、インドの衝突、伊豆・丹沢の衝突、大陸の移動と生物の大絶滅

◎ゴンドワナ大陸の岩石

大陸の地下深くの高温・高圧の条件でできる岩石や、大陸の厚い地殻を貫いて噴出した溶岩など、日本では見られない岩石を紹介した。

- ・大陸の地下深くの高温・高圧の条件でできた変成岩類：コンダライト、レプチナイト、ミグマタイト、石灰珪質岩、グラニュライト、チャーノカイトなど
- ・特殊な火成岩類：チャーノカイト、金雲母岩、サクニー岩、カーボナタイト、キンバライト、ランプロアイト、コマチアイト、輝岩、斜長岩、尖晶石岩、アルカリ花崗岩

◎ゴンドワナの生物たち

かつてゴンドワナ大陸で生き、現在では絶滅した生物や、現在も各地で見られる生物を標本や写真パネルなどで紹介した。

- ・かつてゴンドワナ大陸にいた生物：古生代ゴンドワナの三葉虫、中生代ゴンドワナの生物、新生代に生息した哺乳類
- ・現在も各地で見られる生物：ゴンドワナ植物、ゴンドワナ起源の昆虫、ゴンドワナの魚類、ゴンドワナの爬虫類、ゴンドワナの鳥類

◎パズル ゴンドワナ

◎入生田なかよし子ども会提供習字作品

[ポスター・チラシ] 本杉弥生 (デザイン)

[関連行事] 企画展関連講演会

・「ゴンドワナ大陸を語る」

日時：2020 年 3 月 22 日 (日) 14:00～16:30

場所：SEISA ミュージアムシアター

講師：有馬眞氏 (横浜国立大学名誉教授)

白石和行 (元国立極地研究所所長)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020 年 5 月 6 日に延期

[サテライト展示]

小田原合同庁舎の展示コーナーにて、企画展「ゴンドワナ」の概略を、パネルと標本で紹介した。

期間：2020 年 2 月 3 日 (月)～5 月 1 日 (金)

場所：小田原合同庁舎 展示コーナー

展示物：パネル 3 枚、岩石標本 6 点、鉱物標本 1 点

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

[開催期間] 2019 年 12 月 21 日 (土)～2020 年 1 月 13 日 (月・祝) 開催日数 13 日間

[会場] 1 階 特別展示室

[企画担当] 石浜佐栄子 (企画普及課)

[展示担当] 杉崎 均、泉 在道、市川美紀子、森泉誠司、柚原 章 (学習指導員)

[入場者数] 2,913 人

[内 容] 児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みを支援・奨励して発展させることを目的に、自然科学分野における研究作品（夏休みの自由研究など）を集め展示を行った。

作品の募集は、県西地区の公立小・中学校に対して行った。応募作品数は18校38点で、内訳は小学校10校20点、中学校8校18点であった。また分

野別で見ると、動物16点、植物13点、地学6点、地球環境3点であった。各校教諭の指導・協力により選考されたものである。

すべての作品には当館学芸員からの講評コメントを添えて、児童・生徒の取り組みを支援・奨励を図った。また「交流会」を開催して、児童・生徒と学芸員が、質問や助言などを直接交わせる場とした。

2.3.2. 子ども自然科学作品展交流会

[日 時] 2019年12月21日（土）

[会 場] 1階東側講義室および特別展示室

[参加者数] 40人（出品した児童・生徒15人、保護者等25人）

[内 容] 作品展初日に、出品した児童・生徒及び保護者を含む関係者と当館学芸員とが直接交流できる場を設けた。平田大二館長の挨拶、佐藤武宏企画普及課長の講評の後、特別展示室に場所を移し出品者と学芸員が懇談した。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

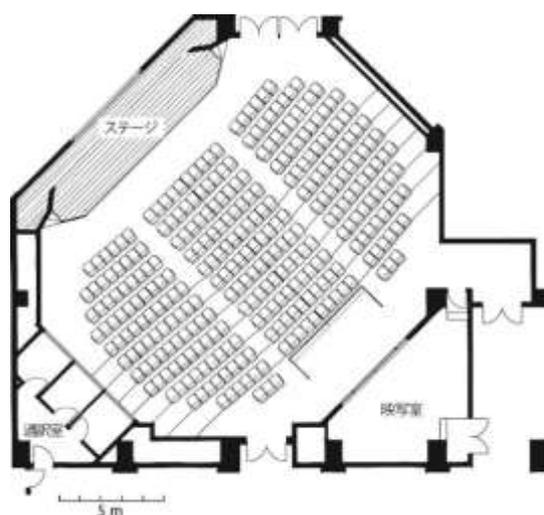
展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011年4月1日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席（車椅子用5席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置している。照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については2013年にデジタルハイビジョン対応機器に更新した。音響機器については、2016年に更新した。



シアター見取り図

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を3本と、インタラクティブ・クイズ映像を1本の計4種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は15分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。

「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013年8月3日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界で紹介されてきた。火山活

動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は20分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。最初に、どのテーマを行いたいかわれ館者が選択し、1位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。2019年度の上映は次表のとおりである。

	選択者数	選択率	選択により1位になった数=上映回数													上映割合	
			合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	地球は生きている	2,919	13.8%	13	0	3	0	0	6	1	0	1	0	0	1	1	3.1%
2	植物は変身の天才だ!	2,093	9.9%	3	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0.7%	
3	魚のサバイバル	5,950	28.2%	178	18	15	9	24	34	15	12	13	11	14	11	2	41.9%
4	動物の足跡捜査隊	5,867	27.8%	179	16	13	6	27	36	16	13	15	10	14	13	0	42.1%
5	ヒトの謎を科学する!	4,260	20.2%	52	6	5	3	3	12	3	6	5	4	2	3	0	12.2%
	合計	21,089	100.0%	425	40	36	18	55	89	35	31	34	26	30	28	3	100.0%

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（2019年4月1日～7日、4月27日～5月6日、7月20日～9月1日）についてはインタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

SEISA ミュージアムシアター上映プログラム

	時間	タイトル
	通常期	9:30～9:45
10:00～10:15		生命の星・地球 生命の輪舞
10:30～10:50		躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
11:30～11:50		インタラクティブ・クイズ映像
13:00～13:20		インタラクティブ・クイズ映像
14:00～14:15		生命の星・地球 奇跡の旅立ち
14:30～14:45		生命の星・地球 生命の輪舞
15:00～15:20		躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

	時間	タイトル
	多客期	9:30～9:45
10:00～10:15		生命の星・地球 生命の輪舞
10:30～10:50		躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
11:30～11:50		インタラクティブ・クイズ映像
12:30～12:50		インタラクティブ・クイズ映像
13:30～13:50		インタラクティブ・クイズ映像
14:30～14:45		生命の星・地球 奇跡の旅立ち
15:00～15:15		生命の星・地球 生命の輪舞
15:30～15:50		躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2020

「開かれた博物館」としての活動の充実といっそうの発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を 2002 年度から実施している。

2019 年度は、2020 年 3 月 14 日・15 日の実施計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

2.6. 臨時休館時の Web 情報発信

① 台風 19 号関連

2019 年 10 月 10 日 (木) : 台風 19 号の接近に伴い、
10 月 12 日 (土) に開催予定の講座の中止の案内
10 月 11 日 (金) : 台風 19 号の接近に伴い、10 月 12
日 (土)、13 日 (日) の臨時休館の案内
10 月 13 日 (日) : 10 月 14 日 (月・祝) から、通常
通り開館の案内

② 新型コロナウイルス感染症関連

2020 年 2 月 21 日 (金) : 2 月 23 日と 3 月開催のよ
ろずスタジオの中止の案内
2 月 27 日 (木) : 3 月 14、15 日のミューズ・フェス
タの中止と、3 月 15 日 の JAMSTEC 共催 第 8 回
海と命と地球をめぐる公開講演会「なぜ大規模噴
火は起きるのか?—「陸の火山」と「海の火山」
から探る—」中止の案内
2 月 28 日 : 当館の新型コロナウイルス感染症への
対応についての案内
2 月 28 日 : ミュージアム・リレー 第 274 走の実施
に関する案内 (3 月 6 日 (金) 午前 (松永記念館)
は中止、午後 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
は開催の予定)
3 月 2 日 : 3 月 4 日 (水) から 15 日 (日) まで臨時
休館し、17 日 (火) から再開館の予定の案内。3

月 6 日 (金) のミュージアム・リレーの午後 (神
奈川県立生命の星・地球博物館) の中止の案内。
ミニ企画展示が臨時休館により 3 月 3 日 (火) 終
了の案内

3 月 3 日 : 県立の社会教育施設の情報のリンクを提
示

3 月 6 日 : 3 月 22 日 (日) 企画展関連講演会「ゴン
ドワナ大陸を語る」延期の案内

3 月 11 日 : 3 月末まで臨時休館の案内。さらにこの
期間における開催予定の催し物は中止または延
期の案内、同日、TOP パナーの制作

3 月 12 日 : 「ウェブで楽しむ地球博」を公開。

3 月 24 日 : 4 月 1 日以降、当分の間、臨時休館の案
内

3 月 26 日 : 4 月 1 日以降、当分の間、臨時休館の案
内。よろずスタジオ 4 月 5 日、12 日の中止と、4
月 11 日 (土) 講座「春の里山の植物」の中止の
案内

3 月 28 日 : 4 月 17 日 (金) の友の会イベント植物
観察会「春の花を訪ねて」の中止と、4 月 18 日
(土) の講座「植物図鑑の使い方—春の花編—」
の中止、4 月 19 日 (日) の講座「化石講座—ゾ
ウ化石を調べよう」の延期の案内

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館は、県内はもとより国内外のシンクタンクとして、学芸員が様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的に当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。そのため取り上げていない活動も多い。2019 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて、Ⅲ資料の項 (97~98 ページ) に成果報告を掲載した。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 3 テーマ、個人研究 20 テーマに関する研究を行った。以下

「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

田口公則・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子・西澤文勝・大島光春・樽 創・河尻清和・柴田健一郎・野崎 篤・笠間友博・山口珠美・高橋直樹・川手新一：現代的な視点による神奈川県地質史の構築
折原貴道・大坪 奏・出川洋介：『入生田菌類誌資料 第2巻』刊行に向けた菌類調査
苅部治紀・加藤英寿・千葉 聡・川上和人・鈴木 創・佐々木哲郎：小笠原諸島火山列島における動植物相と島嶼での進化

個別研究

瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における魚類の分類および生物地理学的研究
広谷浩子：水辺の哺乳類相をもとにした早川水系の環境評価
佐藤武宏：イボキサゴ *Umboonium moniliferum* に対する在来種ツメタガイ *Glossaulax didyma* と導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* の捕食の変遷について
苅部治紀：神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について 5
加藤ゆき：神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現状
渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究 (III)

松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の首の運動機能の進化
鈴木 聡：丹沢地域における哺乳類の分布調査
田中徳久：神奈川県の維管束植物相の長期的モニタリングとその変遷
大西 亘：博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築
石田祐子：神奈川県の半自然草原の特性と構成種の分布
折原貴道：「空飛ぶ地下生菌仮説」の検証-無性胞子に着目した、トリュフ型菌類の島嶼系統地理
樽 創：*Stegodon miensis* (ミエゾウ) の大きさに関する研究
大島光春：島根県の古浦層から産出したイノシシ科臼歯化石の分類学的研究 (2)
田口公則：相模層群以降の温暖期における貝化石群の比較 一下末吉層産の貝化石一
新井田秀一：デジタル標高モデル (DEM) や地球観測衛星画像を用いた南関東地域の地形解析
山下浩之：四国海盆のマドメガムリオンに産する斑れい岩類の岩石学的研究
石浜佐栄子：大磯丘陵の新第三系～第四系層序と堆積環境の復元に関する再検討
西澤文勝：神奈川県に分布する後期更新世指標テフラの火山ガラスの主成分化学組成
大坪 奏：今関コレクションのアーカイブ・システムの確立

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）をはじめとする外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者を除く当館の分担者＊、研究協力者＊＊）：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、III 資料の項（103～104 ページ）に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究 (A)

前藤 薫（渡辺恭平＊）：次世代技術と自然史財を高度に活用した広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築

基盤研究 (B)

鈴木寿志（田口公則＊）：変動帯の文化地質学

基盤研究 (C)

佐藤武宏（田口公則＊）：学校・幼稚園の先生を自

然観察の名人にする学習プログラムの開発研究
加藤ゆき（広谷浩子＊・大島光春＊・大坪 奏＊）：外来生物問題を教える博物館－動物園ネットワークの構築に関する研究
松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の頸の運動機能の進化
田中徳久：博物館資料の潜在的価値の顕在化 - 海を渡った植物標本からの生物多様性情報の発掘 -
広谷浩子（加藤ゆき＊）：博物館で「自然財」をまもる - 哺乳類標本の作製技術・情報管理の体系化

と継承 -

田口公則 (大島光春*・広谷浩子*) : 感情と観覧行動からの展示文脈:何をどのように見て、感じ、思考しているのか

新井田秀一:歴史的な鳥瞰図に対する博物館学的な視点から観た数値標高モデルによる再構築

丹治雄一 (山下浩之*・田口公則*) : 岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発

田上 響 (松本涼子*) : 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元

挑戦的研究 (萌芽)

大和政秀 (折原貴道*) : アーバスキュラー菌根菌胞子果の同定分類と有性生殖の探索

3.2.2. 各種助成金による研究

公益信託乾太助記念動物科学研究助成基金

鈴木 聡:小型イタチ科動物の種間関係の解明を目指した毛形態による種同定法の開発

環境研究総合推進費

荻部治紀:危機的状況にある奄美・琉球の里地棲希少水生昆虫類に関する実効的な保全・生息地再生技術の開発

3.3. 著作活動・学会発表等

平田大二 (ひらた だいじ) 地学 (鉱物)

[普及的著作等]

平田大二, 2020. 表紙写真・説明 サルミエント化石の森, 地学雑誌, 129(1).

平田大二, 2019. 書評 内田悦夫・高木秀雄編「地球・環境・資源—7 地球と人類の共生をめざして—第2版」, 地学雑誌, 128(6): N75-76.

平田大二, 2019. 紹介 加藤昭著「鉱物各説 Mineral description」, 地質学会 News, 22(5): 5.

[学会発表等]

平田大二・菅野 健・田辺和泰・泉水友裕・瀬戸大暉・間嶋隆一, 2019年9月24日. 神奈川県三浦半島北部に分布する前弧海盆堆積物(三浦層群、上総層群)の後背地の推定—古流向と礫種からの検討—. 日本地質学会第126年学術大会, 山口大学, 山口市.

若手研究 (B)

大坪 奏:自然史博物館に残された絵画資料「標本画」の活用と共通課題克服のための実践的研究

折原貴道:空飛ぶ地下生菌仮説の検証 - 菌類の分生子に着目した, 島嶼系統地理の新たな展開

渡辺恭平:菌食性昆虫捕食寄生蜂の多様性と寄生蜂 - キノコ相互作用系の解明

大西 亘:博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築

若手研究

西澤文勝:南九州カルデラ地域の前-中期更新世火砕流堆積物の層序と爆発的火山噴火史の解明

多摩・島しょ広域連携活動助成

並木 心 (樽 創*): 多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト

放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究 (重点共同研究)

折原貴道 (受入機関: 福島大学 石庭寛子): 福島原発事故後の森林環境における地下生きのこ類発生状況調査

瀬戸大暉・間嶋隆一・清水秀倫・平田大二, 2019年9月25日. 古流向解析に基づく津波堆積物の推定—神奈川県の上部鮮新統中津層群中部の例—. 日本地質学会第126年学術大会, 山口大学, 山口市.

田中徳久 (たなか のりひさ) 植物学 (植物生態)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久, 2019. 横浜のラシヨウモンカズラ. Flora Kanagawa, (87): 1029-1030.

[普及的著作等]

田中徳久, 2019. 2018 臺中世界花卉博覧會 (2018 台中フローラ世界博覧會). 自然科学のとびら, 25(2): 9.

佐藤武宏 (さとう たけひろ) 動物学 (無脊椎動物)

[学会発表等]

田口公則・佐藤武宏, 2019年9月23日. 貝殻を用いた科学的遊び—巻貝の螺旋を実感させる—. 日本理科教育学会第69回全国大会, 静岡大学.
中山健太郎・近藤康生・佐藤武宏, 2020年2月28日. 相模湾産現生種キサゴ *Umbonium (Suchium) costatum* に記録された酸素同位体比プロファイル. 令和元年度共同利用研究成果発表会, 高知大学海洋コアセンター.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[論文]

加藤ゆき・秋山幸也・重永明生, 2019. 小田原市早川漁港におけるコクガン幼鳥個体の観察記録. *BINOS*, (26): 61-62.
宮地知之・藤原幸子・萩藤有紀・加藤ゆき・楨埜正治, 2019. 神奈川県立境川遊水地公園におけるシベリアジュリン *Emberiza pallasi* の観察記録. *BINOS*, (26): 57-60.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき・広谷浩子, 2020. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 地域博物館の取り組み. 第27回全国科学博物館協議会 研究発表大会資料, pp. 103-109. 全国科学博物館協議会.
加藤ゆき, 2019. W13 標本を作って残すってどういうこと? —実物証拠としての標本. 日本鳥学会誌 68(1): 121-123.
大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 展示学, (58): 26-27.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2019. アオバトのふしぎ. 自然科学のとびら, 26(2): 10-11.
加藤ゆき, 2019. アオバトのふしぎ. 有隣, (564): 2.
加藤ゆき, 2019. 第 I 章世界のハト・日本のハト. 松本涼子編, 2019年度特別展展示解説書 アオバトのふしぎ—山のハト、海へ行く—, pp. 1-10. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 第 II 章アオバトのくらし, *ibid.*, pp. 11-36.; 第 III 章アオバトの不思議にせまる, *ibid.*, pp. 37-55, p. 62; 第 V 章アオバトの保全にむけて *ibid.*, pp. 90-95.
加藤ゆき, 2019. 海水を飲む若草色のハト. 神静民報, 2019年7月20日.

[学会発表等]

Kudo-Hirofumi, H., Suzuki, S. & Kato, Y., 4-5 September 2019. The local network of museums

facilitating preparation and utilization of bird and mammal specimen. Network of Natural History Museums as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions, Kyoto, Japan.

加藤ゆき・広谷浩子, 2020年2月14日. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 地域博物館の取り組み. 第27回全国科学博物館協議会 研究発表大会. オーテピア・高知みらい科学館, 高知.
加藤ゆき・重永明生, 2019年9月14日-15日. カワラバトの海水吸飲事例について. 日本鳥学会 2019年度大会. 帝京科学大学, 東京.
小林さやか・岩見恭子・加藤ゆき, 2019年9月13日. 第3回 収蔵庫は宝の山! —標本の収集と保存を考える—. 日本鳥学会 2019年度大会自由集会. 帝京科学大学, 東京.
大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019年6月29日. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 2019年度第38回日本展示学会研究大会, 大阪芸術大学芸術情報センター.

苧部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)

[論文]

苧部治紀・寺山隼人・坂部 貢, 2019. 岐阜県東濃地方のマダラナニワトンボの減少要因はネオニコチノイド系農薬か? *Tombo*, 61: 1-7.
Karube H., & N. Katatani, 2019. Rediscovery of the genus *Dubitogomphus* - description of a new species from Laos and new combination of *D. bicornatus* - (Odonata: Gomphidae). *Tombo*, 61: 8-16.
Kompiers, T. & Karube, H., 2019. A new species of *Helio gomphus* from Vietnam (Odonata: Gomphidae). *Zootaxa*, 4555(1): 113-120.
苧部治紀・武田俊介・筒井浩俊・永野 裕・小山田佑輔・戸田光彦, 2019. 小笠原諸島における2016-2017年の大干ばつが固有昆虫にもたらした影響—固有トンボ類、固有甲虫類、固有半翅類のモニタリングデータから—. 小笠原研究年報, 42: 31-43.
松本涼子・諏訪部 晶・苧部治紀, 2020. 神奈川県厚木市中荻野地区で捕獲されたアフリカツメガエルとウシガエルの胃内容物について. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), pp. 85-99.
北野 忠・神田雅治・井上太之・苧部治紀, 2019. 西表島における2010年代後半のコフキオオメトンボの記録. 西表島研究, 2018: 78-80.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

- 苧部治紀・橋村正雄・森 英章, 2019. 小笠原諸島兄島の絶滅危惧種オガサワラハンミョウ –その生態と域内・域外保全の実践について–. 日本のハンミョウ, pp. 289–315, 北隆館.
- 佐野真吾・苧部治紀・吉崎真司, 2019. 2006年以降に確認された横浜市および三浦半島における水生半翅類の生息状況 その1 –タイコウチ科、コオイムシ科、ミズムシ科、マツモムシ科、マルミズムシ科–. たたらはま, 23: 1–7.
- 森 英章・岸本年郎・寺田 剛・永野 裕・苧部治紀・川上和人, 2020. 西之島の陸上節足動物. 平成31年度西之島総合学術調査業務報告書, pp. 83–99.
- 苧部治紀・林 正美・北野 忠, 2019. 与那国島からコフキショウジョウトンボを初確認. Tombo, 61: 55–56.
- 苧部治紀, 2020. 相模川でアオサナエの生息を確認. 神奈川虫報, 200: 10.
- 苧部治紀, 2020. 足柄平野からのカマキリの記録. 神奈川虫報, 199: 73.

[普及的著作等]

- 苧部治紀, 2019. 神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの拡散状況とその移入経路. 自然科学のとびら 25(2): 15–16.

[学会発表等]

- 苧部治紀, 2019年11月17日. 「明らかになってきた希少水生昆虫生息地におけるネオニコチノイド系農薬の汚染実態」. 2019年度日本トンボ学会大会 公開シンポジウム 「沈黙の春再来! –深刻化するネオニコチノイド系農薬の環境影響–」, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 苧部治紀, 2019年11月16–17日. 「神奈川県におけるホソミイトトンボとタイワンウチワヤンマの拡散状況」. 2019年度日本トンボ学会大会 ポスター発表 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 苧部治紀, 2019年11月30日. 「やればできる? 絶滅危惧昆虫の域内保全」. 日本甲虫学会公開シンポジウム「環境保全と昆虫研究の関わり」, 九州大学.
- 苧部治紀, 2019年8月31日. 「~水生生物の変化から見る~ 今、田田んぼの中で起こっていること」. 秦野市文化講座 秦野市立図書館.
- 苧部治紀, 2019年1月21日. 「南硫黄島の虫たち新事情」. NACS-J市民カレッジ, 三菱商事 MC FOREST.

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

- Watanabe, K., 2019. New distribution records of the

subgenus *Fugatrix* Rossem, 1987 of the genus *Plectiscidea* Viereck, 1914 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25(1): 49–52.

Morishita, S. & K. Watanabe, 2019. *Diplazon koreanus* Balueva & Lee, 2015 (Hymenoptera: Ichneumonidae: Diplazontinae) New to Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25(1): 73–74.

Watanabe, K., 2019. Review of the genera *Aniseres* Förster, 1871 and *Catstenus* Förster, 1868 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25(1): 81–85.

Watanabe, K., 2019. A review of the Japanese species of the genus *Xanthocampoplex* Morley, 1913 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Campopleginae), with description of a new genus. Zootaxa, 4661 (3): 579–586.

Watanabe, K., 2019. Revision of the genus *Pyraemon* (Insecta: Hymenoptera: Ichneumonidae) from Japan, with description of a new species. Species Diversity, 24: 281–285.

向井裕美・北島 博・渡辺恭平, 2019. 菌床シイタケ栽培施設におけるナガマドキノコバエ類天敵寄生蜂の分布. 関東森林研究, 70–1: 125–126.

Watanabe K. & R. Matsumoto, 2019. Review of the genus *Pimpla* Fabricius, 1804 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 25(2): 217–224.

Watanabe, K., 2020. Taxonomic study of the tribe Banchini (Hymenoptera: Ichneumonidae: Banchinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, Supplementary Series, in press.

Watanabe, K., 2020. Taxonomic and Zoogeographic Notes on Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of 12 new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (49): 29–66.

川島逸郎・渡辺恭平, 2020. 名古屋市博物館所蔵「吉田翁虫譜 (第一巻)」に描かれたハチ. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (49): 67–83.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

森下俊介・渡辺恭平, 2019. 愛知県豊橋市におけるヒメバチの採集記録. 三河の昆虫, (66): 945–948.

渡辺恭平, 2019. 日本産ヒラタヒメバチ亜科の同定について (追補とまとめ). 神奈川虫報, (198): 27–38.

長瀬博彦・渡辺恭平, 2019. 神奈川県昆虫誌 2018 (ハチ目) の訂正. 神奈川虫報, (198): 39–42.

渡辺恭平, 2019. 昆虫相の解明はどこまで進んだ

- か? 神奈川虫報, (198): 53-55.
- 渡辺恭平, 2019. 南足柄市で2月にウラナミシジミ成虫を目撃. 神奈川虫報, (198): 72.
- 渡辺恭平, 2019. 南足柄市でキマダラカメムシを採集. 神奈川虫報, (199): 68.
- 天野 匠・渡辺恭平, 2019. 秦野市名古木で採集されたヒメバチ. 神奈川虫報, (199): 10-14.
- 渡辺恭平, 2019. 神奈川県産シリアゲムシ目昆虫の調査手引き. 神奈川虫報, (200): 11-21.
- 渡辺恭平, 2019. 神奈川県産ラクダムシ目とアミメカゲロウ目の調査手引き. 神奈川虫報, (200): 33-46.
- 渡辺恭平, 2019. クロホソコバナカミキリの低標高地での採集記録. 神奈川虫報, (200): 61.
- 渡辺恭平, 2019. マンションの9階に飛来したキマダラカメムシ. 神奈川虫報, (200): 62.
- 渡辺恭平, 2019. 小田原市・真鶴町・大井町で採集したハチ類5種の記録. 神奈川虫報, (200): 95-96.
- 宇津木滉生・渡辺恭平, 2019. 山北町三国峠でジョウザンナガハナアブを採集. 神奈川虫報, (200): 97.
- 渡辺恭平, 2019. ヤナギに多数飛来したヒメバチ. 神奈川虫報, (200): 97-98.
- 渡辺恭平, 2020. Family Aulacidae セダカヤセバチ科. 日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録 第9巻 膜翅目 (第2部 細腰亜目 寄生蜂類). pp. 186-188. 権歌書房, 福岡; Family Evaniidae ヤセバチ科, *ibid.*, p. 188; Family Gasteruptidae コンボウヤセバチ科, *ibid.*, p. 189; Family Stephanidae ツノヤセバチ科, *ibid.*, p. 190.
- 渡辺恭平・山根正気, 2020. Family Trigonalidae カギバラバチ科. 日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録 第9巻 膜翅目 (第2部 細腰亜目 寄生蜂類). pp. 191-193. 権歌書房, 福岡.
- 渡辺恭平・川島逸郎・関 悦子, 2020. 川崎市立日本民家園における調査で得られたハチ目昆虫. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (49): 119-143.
- [普及的著作等]
- 渡辺恭平, 2019. トンボエダシャク. 広報おおい (大井町広報誌), 644: 20.
- 渡辺恭平, 2019. 新種のヒメバチが見つかるまで① ~野外で採集する~. 群馬県立ぐんま昆虫の森 第16回企画展「新種昆虫発見」展示解説書, p. 11; 新種のヒメバチが見つかるまで② ~博物館で発見する~, *ibid.*, p. 12.
- 渡辺恭平, 2019. カブトムシ. 広報おおい (大井町広報誌), 647: 16.
- 渡辺恭平, 2019. 落ちたカキの実はごちそう. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, (105): 10.
- 渡辺恭平, 2019. カワチマルクビゴミムシ. 広報おおい (大井町広報誌), 650: 24.
- 渡辺恭平, 2019. アマゾンで見つけた便利なもの. 花蝶風月 (神奈川昆虫談話会連絡誌), 174: 7-8.
- 渡辺恭平, 2020. セミとは? 早雲寺ヒメハルゼミの会編. ヒメハルゼミブッカー早雲寺林の自然一, p. 21. 早雲寺ヒメハルゼミの会, 箱根; セミのからだ, *ibid.*, p. 22; セミの体にみられるくふう, *ibid.*, pp. 23-25; コラム: 「オオセミ」伝説, *ibid.*, p. 24; セミはなぜ鳴くか, *ibid.*, p. 26; セミはどうやって鳴くのか, *ibid.*, p. 27; セミの一生, *ibid.*, pp. 28-31; コラム: 箱根の昆虫, *ibid.*, p. 31; 神奈川県 of セミ, *ibid.*, p. 32; 身近なセミ, *ibid.*, pp. 33-36; 箱根のセミ, *ibid.*, pp. 37-41; コラム: ヒメハルゼミの名付け親, *ibid.*, p. 39; 姿を消すセミ, *ibid.*, p. 42; セミを探しにいこう, *ibid.*, pp. 43-44; セミを調べよう, *ibid.*, pp. 45-48.
- 渡辺恭平, 2020. ナナホシテントウ. 広報おおい (大井町広報誌), 653: 16.
- [学会発表等]
- 向井裕美・北島 博・渡辺恭平・末吉昌宏, 2019年9月6日. 菌床きのこ害虫ナガマドキノコバエ類の天敵寄生蜂の国内分布と寄主範囲. 日本きのこ学会第23回大会, 武庫川女子大学, 兵庫県. (優秀ポスター賞受賞)
- 渡辺恭平, 2019年9月16日. 博物館における参照標本コレクションの構築と活用 -ゼロから始めてわかったこと-. 日本昆虫学会第79回大会, 弘前大学, 青森県.
- 大西 亘・渡辺恭平, 2020年3月8日. 生態学者こそ、博物館標本を利用しよう!. 中濱直之・岩崎貴也・長太伸章企画, シンポジウム S29 分子生態学における博物館標本の活用. 日本生態学会第67回全国大会. 名城大学, 名古屋 (現地開催中止・講演要旨発表のみ).
- 松本涼子(まつもと りょうこ) 動物学(両生・爬虫類)**
[論文]
- 松本涼子・諏訪部 晶・苅部治紀, 2020. 神奈川県厚木市中荻野地区で捕獲されたアフリカツメガエルとウシガエルの胃内容物について. 神奈川

県立博物館研究報告（自然科学），49: 111-125.

[普及的著作等]

松本涼子, 2019. 擬態するヤモリ. 自然科学のつとめ, 25(4): p. 25.

[学会発表等]

松本涼子・藤原慎一, 2020年2月8日. 四肢動物における後頭顆の形態と可動性の進化について. 日本古生物学会第169回例会, 東京大学駒場キャンパス.

大塚健斗・平山 廉・伊左治鎮司・真鍋 真・松本涼子・大倉正敏・酒井佑輔・藪本美孝・山口一男, 2020年2月8日. 石川県白山市白峰地域の手取層群北谷層から発見された脊椎動物化石含有層に関する予察的報告. 日本古生物学会第169回例会, 東京大学駒場キャンパス.

Matsumoto, R., Fujiwara, S., & Evans, S.E., 22nd July 2019 日付. Feeding behavior and the neck mobility in the long-snouted Choristodera *Champsosaurus* (Reptilia: Diapsida) vs Crocodilia *Gavialis*. 12th International Congress of Vertebrate Morphology, Prague, Czech Republic.

Urano, Y., Sugimoto, Y., Tanoue, K., Matsumoto, R., Kawabe, S., Ohashi, T., & Fujiwara, S., 24th July 2019. The tri-layered keratinous sheath on the upper beak bone of chicken and its relevance to the form and growth orientation of the beak. 12th International Congress of Vertebrate Morphology, Prague, Czech Republic.

Nakajima, Y., Matsumoto, R., Sander, P. M., Sasaki, O., Kano, H., Hayashi, S., & Evans, S. E., 12th October, 2019. Mineralized notochord-associated tissues preserved in fossil centra suggests a unique developmental pattern in the axial skeleton of Choristodera. 79th Annual Meeting of the Society of Vertebrate Paleontology, Brisbane, Australia.

鈴木 聡 (すずき さとし) 動物学 (哺乳類)

[論文]

Suzuki, S. & Matsumoto, M., 2020. Geographic skull variation of the Japanese weasel, *Mustela itatsi* in islands adjacent to southern Kyushu. *Mammal Study*, 45: 27-39. DOI: <https://doi.org/10.3106/ms2019-0023>

鈴木 聡・山本冬馬・小山夏晴海・広谷浩子, 2020. 神奈川県周辺におけるタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の体サイズに与える疥癬症の影響について. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 49: 127-131.

香川正行・田淵千鶴子・北川博正・鈴木 聡, 2020. 越前町立福井総合植物園プラントピアに生息する哺乳類. *Ciconia* (福井県自然保護センター研

究報告), 23: 23-30.

[普及的著作等]

鈴木 聡, 2019年10月19日. 自動撮影カメラで調べる地域の哺乳類. 神静民報.

鈴木 聡, 2020. 早雲寺林の哺乳類. 早雲寺ヒメハルゼミの会編. ヒメハルゼミブックス早雲寺林の自然一, pp. 11-12. 早雲寺ヒメハルゼミの会, 箱根.

鈴木 聡. 2020. 書評: 『動物園巡礼』. 哺乳類科学, 60: 150-152.

[学会発表等]

Kudo-Hirofumi, H., Suzuki, S. & Kato, Y., 4-5 September 2019. The local network of museums facilitating preparation and utilization of bird and mammal specimen. Network of Natural History Museums as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions, Kyoto, Japan.

鈴木 聡, 2019年9月16日～18日. イタチ属2種の毛色の定量的評価. 日本哺乳類学会2019年大会. 中央大学後楽園キャンパス, 東京.

広谷浩子 (ひろたに ひろこ) 動物学 (哺乳類)

[論文]

鈴木 聡・山本冬馬・小山夏晴海・広谷浩子, 2020. 神奈川県周辺におけるタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の体サイズに与える疥癬症の影響について. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 49: 127-131.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき・広谷浩子, 2020. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 地域博物館の取り組み. 第27回全国科学博物館協議会 研究発表大会資料, pp. 103-109. 全国科学博物館協議会.

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 展示学 (58): 26-27.

[学会発表等]

Kudo-Hirofumi, H., Suzuki, S. & Kato, Y., 4-5 September 2019. The local network of museums facilitating preparation and utilization of bird and mammal specimen. Network of Natural History Museums as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions, Kyoto, Japan.

加藤ゆき・広谷浩子, 2020年2月14日. 外来生物問題をどのように伝えるのか? 地域博物館の取り組み. 第27回全国科学博物館協議会 研究発表大会. オートピア・高知みらい科学館, 高知.
大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019年6月29日. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用したWEB展示解説の実験. 2019年度第38回日本展示学会研究大会, 大阪芸術大学芸術情報センター.

瀬能 宏 (せのう ひろし) 動物学 (魚類)

[論文]

Tea, Y.-K., A. Gill & H. Senou, 2019. *Chromis tingting*, a new species of damselfish from mesophotic coral ecosystems of southern Japan, with notes on *C. mirationis* Tanaka (Teleostei: Pomacentridae). *Zootaxa*, 4586(2): 249-260. DOI: <https://doi.org/10.11646/zootaxa.4586.2.2>

Miyazaki, Y., A. Teramura & H. Senou, 2019. Preliminary report on bycatch fish species collected from the Tokyo Submarine Canyon, Japan. *ZooKeys*, 843: 117-128. DOI: 10.3897/zookeys.843.32410

川路由人・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之, 2019. ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias longimanus* ムラモミジハナダイ (新称), *P. nanus* チビハナダイ, および *P. winniensis* デイゴハナダイ (新称) の日本における記録と分類学的再検討. 魚類学雑誌 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-004 J-STAGE

Orlova, S. Y., D. M. Schepetov, N. S. Mague, M. A. Smirnova, H. Senou, A. A. Baitaliuk & A. M. Orlov, 2019. Evolutionary history told by mitochondrial markers of large teleost deep-sea predators of family Anoplopomatidae Jordan & Gilbert 1883, endemic to the North Pacific. *Journal of the Marine Biological Association of the UK*. DOI: 10.1017/S0025315419000572

Kobayashi, Y., A. Murase, M. Wada, H. Hata, R. Miki & H. Senou, 2019. Voucher-based record of a tropical engraulid fish, *Encrasicholina pseudoheteroloba* (Teleostei: Clupeiformes), from the temperate northwestern Pacific. *Biogeography*, 21: 1-5.

Miyazaki, Y., A. Murase, J. Honda, J. Yamaide & H. Senou, 2019. Usefulness of a Japanese internet community for fish conservation. *Biodiversity and Conservation*. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10531-019-01902-9>

Koeda, K., H. Senou, C.-W. Chang & H.-C. Ho, 2019. Redescription of *Liopropoma aragai* (Teleostei: Serranidae), with two new confirmed records of species

of *Liopropoma* from Taiwan. *Zootaxa*, 4702(1): 60-72. DOI: <http://dx.doi.org/10.11646/zootaxa.4702.1.11>

Wada, H., T. Suzuki, H. Senou & H. Motomura, 2020. *Plectranthias ryukyuensis*, a new species of perchlet from the Ryukyu Islands, Japan, with a key to the Japanese species of *Plectranthias* (Serranidae: Anthiadinæ). *Ichthyological Research*. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10228-019-00725-6>

Uejo, T., H. Senou & H. Motomura, 2020. *Roa haraguchiae*, a new species of butterflyfish (Teleostei: Perciformes: Chaetodontidae) from Japan and the Philippines. *Ichthyological Research*. DOI: <https://doi.org/10.1007/s10228-020-00735-9>

鈴木悠理・遠藤広光・本村浩之・瀬能 宏・松沼瑞樹, 2020. 高知県および南シナ海南部から得られたハタ科 *Epinephelus craigi* スミツキアオハタ (新称) の記録およびアオハタモドキに適用すべき学名の再検討. 魚類学雑誌 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-041

加藤終也・丸山智朗・乾 直人・後藤暁彦・鈴木寿之・瀬能 宏, 2020. 石垣島と西表島におけるタニヨウジの記録と定着可能性. 魚類学雑誌 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-031

手良村知功・小枝圭太・鈴木尚光・平瀬祥太郎・菊池 潔・瀬能 宏, 2020. ホテイエソ亜科魚類 *Bathophilus longipinnis* アマノガワギンガエソ (新称) の日本からの初記録. 魚類学雑誌 早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-032

加藤終也・山川宇宙・森口宏明・碧木健人・瀬能 宏, 2020. 静岡県および神奈川県で採集されたタネカワハゼ *Stenogobius* sp. 東海自然誌 (13): 117-122.

崎山直夫・加登岡大希・石垣幸二・瀬能 宏, 2020. 駿河湾で初記録となるミツボシカスベ (ガンギエイ目ガンギエイ科) について. 神奈川自然誌資料, (41): 33-37.

三井翔太・瀬能 宏, 2020. 相模湾におけるテングノオトシゴの分布と河川感潮域からの初記録. 神奈川自然誌資料, (41): 39-44.

三井翔太・山田和彦・瀬能 宏, 2020. 相模湾から得られたトビハタ幼魚の形態と生物地理学的特性. 神奈川自然誌資料, (41): 45-52.

山川宇宙・三井翔太・小田泰一朗・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏, 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. 神奈川自然誌資料, (41): 79-81.

森下悟至・三木涼平・瀬能 宏・本村浩之, 2020. 太平洋初記録のカマス科魚類 *Sphyræna*

- arabiansis* ヤシヤカマス (新称) と本種の標徴に関する新発見, および *S. barracuda* オニカマスとの形態比較. 魚類学雑誌早期公開版. DOI: 10.11369/jji.19-051
- 岡本 誠・瀬能 宏・山崎哲也, 2020. イブシギンヤセムツ *Epigonus fragilis* (ヤセムツ科) の日本からの二例目の記録と形態学的・生態学的知見. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (49): 1-6.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 宮崎佑介・鈴木香里武・瀬能 宏, 2019. 駿河湾から得られた標本に基づくアオマトウダイの北限記録. 生物地理学会会報, 74: 90-92.
- Senou, H., 2019. Family Mugilidae In Koeda, K. & H.-C. Ho (eds.), Fishes of southern Taiwan, pp. 424-428. National Museum of Marine Biology and Aquarium, Pingtung, Taiwan; Family Gobiidae. *ibid.*, pp. 1116-1126.
- 工藤孝浩・瀬能 宏, 2020. 横浜, 川崎および中ノ瀬海域から初記録の魚類-VI. 神奈川自然誌資料, (41): 53-60.
- 田中翔大・宮崎佑介・下光利明・瀬能 宏, 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (49): 107-118.
- [普及的著作等]
- 瀬能 宏, 2019. 美しい花には棘がある. マリンダイビング, 51(7): 43.
- 瀬能 宏, 2019. 大発見に期待! マリンダイビング, 51(9): 61.
- 瀬能 宏, 2019. 日本動物分類学会第 55 会大会報告. タクサ, (47): 44-48.
- 瀬能 宏, 2019. 学芸活動に基づく自然史系博物館の事業評価に必要な視点. 自然科学のとびら, 25(3): 22-23.
- 瀬能 宏, 2019. 目立つ魚の真実. マリンダイビング, 51(11): 58.
- 立原一憲・鈴木寿之・瀬能 宏, 2019. 2019 年度日本魚類学会市民公開講座: 「世界自然遺産登録に向けて—琉球列島の魚類の多様性と次世代への継承—」の開催報告. 魚類学雑誌, 66(2): 282-284.
- 瀬能 宏, 2019. 相手を見ることの意味. マリンダイビング, 52(1): 45.
- 瀬能 宏, 2020. 瞳の形に意味あり. マリンダイビング, 53(2): 77.
- 瀬能 宏, 2020. 今、ドジョウが危ない!? 2020 年 3 月 14 日付け神静民報.
- 瀬能 宏, 2020. 自然史系博物館におけるコレクションポリシー. 神奈川県博物館協会会報, (91): 2-6.
- [学会発表等]
- 瀬能 宏, 2019 年 5 月 19 日. 自然史系博物館におけるコレクションポリシー. 相模湾海洋生物研究会第 44 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.
- 瀬能 宏, 2019 年 5 月 19 日. 誇れる博物館を目指して: 魚の資料収集と学芸活動の多様な展開. 相模湾海洋生物研究会第 44 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.
- 手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬祥太郎, 2019 年 9 月 21 日. DNA バーコーディングを用いた黒潮流域における深海性魚類の多様性. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.
- 片山英里・内野啓道・瀬能 宏, 2019 年 9 月 21-22 日. 小笠原諸島父島から得られたスナハゼ科スナハゼ属の一種. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.
- 栗岩 薫・中江雅典・瀬能 宏, 2019 年 9 月 22 日. 霞ヶ浦流入河川恋瀬川および 12 支流における魚類相: 2 年間ひたすらタモ網を振り続けた記録. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.
- 瀬能 宏・吉野哲夫, 2019 年 9 月 23 日. Vega 号が収集した海産魚類標本が示唆する明治初期の日本の沿岸環境. 2019 年度日本魚類学会公開シンポジウム: スウェーデンの Vega 号が採集した 140 年前の日本産標本群の意義: 分類学的研究に基づく標本の役割を再考: 過去の生物多様性復元, 今日の環境保全, 未来世代への記録と保存. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.
- Yamakawa, U., K. Okano, R. Imai, H. Senou, S. Kaneko, Y. Saito, L. K. Faulks, M. Akasaka, K. Kon & Y. Tsuda, 2019 年 12 月 11-12 日. Genetic structure and dispersal dynamics of the amphidromous sleeper *Eleotris oxycephala* along the Kuroshio Current. BES Annual Meeting 2019, British Ecological Society. Belfast, Northern Ireland.
- 星野浩一・瀬能 宏, 2020 年 2 月 29 日-3 月 1 日. ハタ科マハタ属クエの学名. 第 44 回九州海洋生態談話会. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・延岡フィールド, 延岡.
- 星野浩一・瀬能 宏, 2020 年 3 月 27-29 日(中止). クエ(ハタ科マハタ属)に該当する学名. 2020 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京. ※講演要旨を研究業績とみなす.

大西 亘 (おおにし わたる) 植物学 (維管束植物)

[論文]

岩崎貴也・小玉あすか・松尾 歩・陶山佳久・大西 亘・尾関雅章・中濱直之・山本 薫, 2019. 腊葉標本 DNA の MIG-seq 法による利用可能性・解析手法の検討. *Science Journal of Kanagawa University*, 30: 89-96.

新田 梢・岩田健志・大西 亘・倉田薫子, 2020. 神奈川県産の腊葉標本を用いたミズヒキの葉の斑紋変異の地理的分布. *神奈川自然誌資料*, 41: 1-3.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大西 亘・首藤光太郎・城川四郎, 2019. 神奈川県内のベニバナ !? イチヤクソウ. *FLORA KANAGAWA*, 87: 1027-1028.

大西 亘, 2019. 葉山のミヤマニガウリと採集記の重要性. *FLORA KANAGAWA*, 87: 1036-1037.

大西 亘, 2019. シャジクモ類の調査にご協力ください! *FLORA KANAGAWA*, 87: 1044-1046.

大西 亘, 2020. シャジクモ類の2019年度調査速報. *FLORA KANAGAWA*, 88: 1053-1054.

[普及的著作等]

大西 亘, 2020. 早雲寺の植物. 早雲寺ヒメハルゼミの会編, ヒメハルゼミブック ―早雲寺林の自然―, p. 6. 早雲寺ヒメハルゼミの会, 箱根町.

[学会発表等]

川崎七海・中臺亮介・西田佐知子・大西 亘・山本 薫・岩崎貴也, 2020年3月2日. 生物地理学的スケールでの植物の共起を決める要因: 群集生態と生物地理からのアプローチ. 日本植物分類学会第19回大会. 岐阜大学, 岐阜市 (現地開催中止・講演要旨発表のみ).

沼宮内信之・大西 亘・森 俊・高野祐晃, 2020年3月3日. 秋田, 岩手, 宮城で確認したミセンアオスゲの特徴を持つスゲ. 日本植物分類学会第19回大会. 岐阜大学, 岐阜市 (現地開催中止・講演要旨発表のみ).

大西 亘・渡辺恭平, 2020年3月8日. 生態学者こそ、博物館標本を利用しよう!. 中濱直之・岩崎貴也・長太伸章企画, シンポジウム S29 分子生態学における博物館標本の活用. 日本生態学会第67回全国大会. 名城大学, 名古屋市 (現地開催中止・講演要旨発表のみ).

折原貴道 (おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

Yamamoto, K., M. Ohmae & T. Orihara, 2019. *Metarhizium brachyspermum* sp. nov. (Clavicipitaceae), a new species

parasitic on Elateridae insects from Japan. *Mycoscience*, 61(1): 37-42.

He, M. Q., R. L. Zhao, K. D. Hyde, D. Begerow, M. Kemler, A. Yurkov, E. H. C. McKenzie, O. Raspé, M. Kakishima, S. Sánchez-Ramírez, E. C. Vellinga, R. Halling, V. Papp, I. V. Zmitrovich, B. Buyck, D. Ertz, N. N. Wijayawardene, B. K. Cui, N. Schoutteten, ..., T. Orihara (56th of the all 70 authors), ... & P. M. Kirk, 2019. Notes, outline and divergence times of Basidiomycota. *Fungal Diversity*, 99(1), 105-367.

Sulzbacher M. A., T. Orihara, T. Grebenc, F. Wartchow, M. E. Smith, M. P. Martín, A. J. Giachini, I. G. Baseia, 2020. *Longistriata flava* (Boletaceae, Basidiomycota) - a new monotypic sequestrate genus and species from Brazilian Atlantic Forest. *Myckeys*, 62: 53-73.

Yamamoto K., M. Yasuda, M. Ohmae, H. Sato & T. Orihara, 2020. *Isaria macroscyticola*, a rare entomopathogenic species on Cydnidae (Hemiptera), is a synnematous form of *Purpureocillium lilacinum* (Ophiocordycipitaceae). *Mycoscience*, in press (available online on 6 March 2020).

Yamamoto K., H. Sasaki, M. Ohmae & T. Orihara T, 2020. *Leucangium microspermum*: Re-examination of Japanese *L. carthusianum* reveals its taxonomic novelty. *Truffology*, 3: 1-7.

折原貴道・保坂健太郎・山本航平・大前宗之・島山 颯太・糟谷大河, 2020. 環境省レッドリスト掲載地下生菌 (スナタマゴタケ、ハハシマアコウショウロ、シンジュタケ) の再探索と分布の現状について. *Truffology*, 3: 17-27.

折原貴道・山本航平・保坂健太郎, 2020. 『オオショウロ (イグチ目ショウロ科) の分布、系統および分類学的扱いについて』への訂正. *Truffology*, 3: 45-46.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

折原貴道・山本航平・大場由美子・阿部晴恵, 2019. 伊豆諸島の地下生菌はいつ、どこからやってきたのか-海洋島の大型菌類の多様性解明と保全に向けた基礎的研究. 自然保護助成基金成果報告書 25周年特別記念号, 181-190.

折原貴道, 2019. 第42回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 猪が導く、熊楠と地下生菌の知られざる関係. *熊楠 works*, 54: 17-22.

折原貴道, 2019. 昭和期に記載された稀産シクエストレート菌の実体解明と保全対策の再検討. *IFO Research Communications*, 33: 193.

島山 颯太・折原貴道, 2020. 日本各地から60年ぶりに発見されたアサヒヒメクロツチダンゴ. *Truffology* 3: 33-37.

折原貴道・佐々木廣海, 2020. 日本地下生菌研究会第4回地下生菌観察会で採集された地下生菌. *Truffology*, 3: 39-40.

[普及的著作等]

折原貴道, 2019. アオゾメクロツブタケ. 自然科学のとびら, 25 (3): 1.

折原貴道, 2020. 早雲寺林のきのこ. ヒメハルゼミブック, pp. 7-8, 早雲寺ヒメハルゼミの会, 箱根町.

[学会発表等]

折原貴道, 2019年5月25日. イグチ類地下生菌の系統分類とその多面的展開(日本菌学会奨励賞受賞講演). 一般社団法人日本菌学会第62回大会, 秋田県立大学, 秋田.

保坂健太郎・南 京沃・折原貴道・大前宗之・山本航平, 2019年5月26日. 小笠原産の謎の「絶滅種」ハハシマアコウショウロの正体. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.
細野天智・大前宗之・山本航平・折原貴道・出川洋介・逢沢峰昭・大久保達弘, 2019年5月26日. 日本新産の好蕨苔類性チャワンタケ目ピロネマキン科菌について. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.

大前宗之・折原貴道, 2019年5月26日. キリノミタケ科に含まれる日本産 2 稀産種の系統分類. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.

山本航平・大前宗之・折原貴道, 2019年5月26日. ツチカメムシタケ (*Isaria macroscyticola* Kobayasi) の分類学的検討. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.

木下晃彦・佐々木廣海・折原貴道・中島 稔・奈良一秀, 2019年5月25-26日. 大型胞子を形成する2種のトリュフ、*Tuber ochraceum* と *Tuber tomentosum*. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.

折原貴道・Rosanne Healy・Matthew E. Smith, 2019年5月25-26日. 日本及び北米産ホシミノタマタケ属菌の未同定種 3 種の分類と種間交雑の可能性. 一般社団法人日本菌学会第63回大会, 秋田県立大学, 秋田.

折原貴道, 2019年9月22日. 過去に札幌周辺から記載された幻の地下生菌について. 日本地下生菌研究会第4回観察会(情報交換会), 北海道大学, 札幌.

Orihara T, 1 October 2019. Locally threatened mushrooms and truffles in Kanagawa Prefecture — their current and future treatment. IUCN Red Listing of Fungi - A Practical Workshop, Asian Mycological Congress 2019

(AMC2019), Tsu, Mie.

Orihara T., 1-4 October 2019. Unexpected cryptic species diversity of undescribed, white sequestrate *Russula* spp. (“Koishi-take”) found from Japan. Asian Mycological Congress 2019 (AMC2019), Tsu, Mie.

Kinoshita A, H. Sasaki, K. Yamamoto, M. Ohmae, T. Orihara, K. Obase, T. Yamanaka, A. Yamada & K. Nara, 21-25 October 2019. Revisiting Japanese truffle phylogeny and diversity: possibilities for cultivation and edibility. The 10th International Workshop on Edible Mycorrhizal Mushrooms (IWEMM10), Suwa, Nagano.

折原貴道・佐々木廣海・大前宗之・石庭寛子, 2020年3月11日. 福島原発事故後の森林環境における地下生きのこ類発生状況調査. 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点 2019年度フラッシュトーク, web 会議形式.

石田祐子(いしだ ゆうこ) 植物学(植物生態学・植生学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石田祐子・浜田 崇・尾関雅章, 2019. 長野県環境保全研究所植物標本庫(NAC)および資料室の温度環境. 長野県環境保全研究所研究報告, 15: 61-64.

[普及的著作等]

石田祐子, 2019年12月14日. 岩場に生きる植物ハコネコメツツジ. 神静民報.

[学会発表等]

石田祐子, 2020年3月7日. 北アルプス後立山連峰北部の高山植生の分布要素. 日本生態学会第67回全国大会. 名城大学 天白キャンパス, 名古屋(現地開催中止・講演要旨発表のみ).

大島光春(おおしま みつはる) 古生物(哺乳類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 展示学, (58): 26-27.

大島光春, 2020. 伝える術を磨く～展示解説のあり方に関する考察～. 第27回全日本科学博物館協議会研究発表大会資料, 111—117. 全国科学博物館協議会.

[普及的著作等]

大島光春・山下浩之編・いたやさとし絵, 2019. 地球と生命のれきし. 158 pp. 玉川大学出版部, 東京.

[学会発表等]

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷

浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019年6月29日. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 2019年度第38回日本展示学会研究大会, 大阪芸術大学芸術情報センター.

大島光春, 2020年2月14日. 伝える術を磨く～展示解説のあり方に関する考察～. 第27回全日本科学博物館協議会研究発表大会, オーテピア・高知みらい科学館.

樽 創 (たる はじめ) 古生物 (哺乳類)

[論文]

Kazue OHISHI, Masao AMANO, Ken NAKAMATSU, Nobuyuki MIYAZAKI, Yuko TAJIMA, Tadasu K. YAMADA, Ayaka MATSUDA, Mari OCHIAI, Takashi F. MATSUIISHI, Hajime TARU, Hajime IWAO & Tadashi MARUYAMA, 2020. Serologic survey of *Brucella* infection in cetaceans inhabiting along the coast of Japan. *The Journal of Veterinary Medical Science*, 82(1): 43-46.

加登岡大希・崎山直夫・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 2020. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたヒゲクジラ亜目(Mysticeti)について. *神奈川自然誌資料*, (41): 83-93.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

樽 創, 2020. 化石. 多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト報告書, 107-109.

樽 創, 2020. 魚類・鳥類・陸棲哺乳類化石および足跡化石. 多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト報告書, 125-144.

木村敏之・樽 創・白川未来, 2020. 海生哺乳類化石. 多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト報告書, 145-149.

[普及的著作等]

樽 創, 2020. 復元図を起こす. *自然科学のとびら*, 26(1): 4-5.

[学会発表等]

天池隼斗・佐々木基樹・都築 直・大石元治・山田一孝・遠藤秀紀・姉崎智子・松本直也・中下留美子・黒江美紗子・樽 創・坂東 元・福井大祐・池谷優子・中村亮平・佐藤伸高・北村延夫, 2019年9月16日. クマ科動物の前腕骨格可動域, 中央大学, 日本哺乳類学会.

村上達郎・樽 創・鏑本武久, 2020年2月8日. 中国河北省熱河地域から産出した後期更新世サイ科化石. 日本古生物学会, 東京大学駒場キャンパス.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物 (貝類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

松島義章・田口公則・川名ひろみ, 2019. 横浜市称名寺D貝塚第3地点出土の貝類組成について. 神奈川県・横浜市 称名寺D貝塚第3地発掘調査報告書. 株式会社 斉藤建設.

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. *展示学*, (58): 26-27.

[普及的著作等]

田口公則, 2019. アオバトが集まる照ヶ崎: 地形・地質から見た立地. 松本涼子編, 2019年度特別展展示解説書 アオバトのふしぎ～山のハト、海へ行く～, pp. 48-51. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田口公則, 2019. 大磯町西小磯海岸の“石切り場”跡の探究. *自然科学のとびら*, 25(4): 28-29.

田口公則, 2020. 特集 神奈川県博物館協会主催講演会「集める、受け継ぐ、守る—資料と向き合う学芸員の仕事」の開催. 神奈川県博物館協会会報, (91): 1.

[学会発表等]

清水玲子・田口公則, 2019年6月8日. 博物館における SDGs 導入の必要性和メリット. 日本共生科学会第11回相模原大会, 麻布大学.

田口公則・加藤恵美・本杉弥生, 2019年6月23日. 来館者視点に立脚したサイン計画から見つかった問い: 博物館のどこにいるの?. 全日本博物館学会第44回研究大会, 新潟県立歴史博物館.

田口公則・佐藤武宏, 2019年9月23日. 貝殻を用いた科学的遊び—巻貝の螺旋を実感させる—. 日本理科教育学会第69回全国大会, 静岡大学.

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019年6月29日. 写真撮影を起点とした新しい展示解説システム—被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験. 2019年度第38回日本展示学会研究大会, 大阪芸術大学芸術情報センター.

新井田秀一 (にいだ しゅういち) 環境科学

[普及的著作等]

新井田秀一, 2019. 電子百科: 宇宙から見た日本の衛星画像の紹介. *自然科学のとびら*, (25)4: 26-27.

[学会発表等]

新井田秀一・武田周一郎, 2019年7月16日. 鳥瞰図を題材とした自然系・人文系博物館による協働研究—吉田初三郎の「神奈川県鳥瞰図」を事例として—. 日本地図学会 2019年度定期大会, 東京

都立産業技術研究センター 東京イノベーション
ハブ, 江東区.

高橋直樹・新井田秀一, 2019年9月25日. 蛇紋岩
地域の地質と文化. 日本地質学会第126年学術
大会. 山口大学吉田キャンパス, 山口市.

山下浩之 (やました ひろゆき) 地学 (岩石学)

[論文]

Harigane, Y. A. Okamoto, T. Morishita, J. E. Snow, A.
Tanura, H. Yamashita, K. Michibayashi, Y. Ohara & S.
Arai, 2019. Melt-fluid infiltration along detachment
shear zones in oceanic core complexes: Insights from
amphiboles in gabbro mylonites from the Godzilla
Megamullion, Parece Vela Basin, the Philippine Sea.
Lithos,

<https://doi.org/10.1016/j.lithos.2019.06.019>.

道家涼介・山口珠美・山下浩之・片野 忍, 2019.
箱根ジオパークの岩石標本を作ろう!. 神奈川
県温泉地学研究所観測だより, no. 69, p15-22.

Mannen, K., T. Tanada, A. Jomori, T. Akatsuka, G. Kikugawa,
Y. Fukazawa, H. Yamashita & K. Fujimoto, 2019. Source
constraints for the 2015 phreatic eruption of Hakone
volcano, Japan, based on geological analysis and
resistivity structure. *Earth, Planets and Space*,
<https://doi.org/10.1186/s40623-019-1116-5>

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春・山下浩之, 2019.9.20. 玉川百科こども
博物誌 地球と生命のれきし. 157pp., 玉川大
学出版, 東京.

[普及的著作等]

山下浩之, 2019年4月27日. 湯河原町の白丁場
石、小田原の風祭石. 神静民報.

山下浩之, 2019. 菊川の石はどこからきたのか?
広報おおい, 648:16.

山下浩之, 2020年2月15日. 丹沢・伊豆の衝突の
現場. 神静民報.

山下浩之, 2020. 菊川の石はどこからきたのか?
その2. 広報おおい, 654:16.

山下浩之, 2020. 日本列島に衝突した南の海の火
山島. *ミルシル*, 13(2): 14-15.

山下浩之, 2020. サフィリン金雲母岩. 自然科学
のとびら, 26(1): 1.

山下浩之, 2020. 大陸の誕生と分裂をさぐる. 自
然科学のとびら, 26(1): 2-3.

[学会発表等]

小原泰彦・沖野郷子・秋澤紀克・藤井昌和・針金由
美子・平野直人・平内健一・石塚 治・町田嗣樹・
道林克禎・Sanfilippo Alessio・Snow Jonathan・
山下浩之, 2019年5月28日. Introducing an

oceanic core complex in the Shikoku Basin:
Mado Megamullion. 日本地球惑星科学連合2019
年大会, 幕張メッセ国際会議場.

Sani, C., A. Sanfilippo, Y. Ohara, J. Snow, Y. Harigane &
H. Yamashita, 2019.8.21. Lower oceanic crust exposure
in the Shikoku backarc basin: preliminary data from the
Mado Megamullion. *Goldschmidt 2019*, Barcelona.

秋澤紀克・沖野郷子・石塚 治・山下浩之・町田嗣
樹・小原泰彦, 2019.9.12. Mado Megamullionに
分布する岩石の岩石学的・地球物理学的解釈. 日
本鉱物科学会2019年年会, 九州大学.

Ohara, Y., K. Okino, N. Akizawa, M. Fujii, Y. Harigane,
K. Hirauchi, O. Ishizuka, S. Machida, K. Michibayashi,
A. Sanfilippo, C. Sani, J. E. Snow & H. Yamashita,
2019.12.9. Crustal accretion in a backarc spreading
ridge: the oceanic core complexes in the Shikoku Basin
and their tectonic implications. Abstract T13A-07, 2019
Fall Meeting, AGU, San Francisco, Dec. 12.

石浜佐栄子 (いしはま さえこ) 地学 (堆積学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷
浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019. 写真撮影を起
点とした新しい展示解説システム—被写体認識
基盤システムを利用した WEB 展示解説の実験.
展示学, (58): 26-27.

[普及的著作等]

石浜佐栄子, 2019. アオバトの足元にも注目! ~
照ヶ崎海岸周辺の地質・地形紹介~. *自然科学
のとびら*, 25(3): 18-19.

[学会発表等]

大島光春・加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子・広谷
浩子・村上弘晃・草葉 努, 2019年6月29日. 写
真撮影を起点とした新しい展示解説システム—
被写体認識基盤システムを利用した WEB 展示解
説の実験. 2019年度第38回日本展示学会研究大
会, 大阪芸術大学芸術情報センター.

西澤文勝 (にしざわ ふみかつ) 地学 (火山地質学)

[論文]

Nishizawa, F. & Suzuki, T. 2019. Characterization and
correlation of the Hegawa-Kasamori 5 tephra, a
widespread tephra aged c. 450 ka associated with large-
scale pyroclastic flows from southern Kyushu, SW Japan.
Journal of Quaternary Science 35: 288-303. doi:
10.1002/jqs.3172

[普及的著作等]

西澤文勝, 2020年1月18日. 文命堤—火山噴火と
治水—. 神静民報.

西澤文勝, 2020年2月1日. 私の「イチオン」.
広報はこね, No.740: 14.

西澤文勝, 2020年3月15日. 広域テフラについて.
自然科学のとびら, 26(1): 6-7.

[学会発表等]

青木かおり・小林 淳・西澤文勝・村田昌則・石村大輔・鈴木毅彦, 2019.5.27. 伊豆諸島北部、新島に分布する第四紀後期テフラの標準層序と岩石学的・地化学的特性—火山ガラスの主元素組成、斜方輝石、角閃石類の屈折率を中心に—. 日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集: SVC38-P21, 5月, 幕張メッセ国際会議場.

小林 淳・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦, 2019.5.27. 伊豆諸島神津島火山の最新期活動におけるテフラ層序とその噴火史. 日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集: SVC38-P22, 幕張メッセ国際会議場.

馬場 章・藤井敏嗣・千葉達朗・吉本充宏・西澤文勝・渋谷秀敏, 2019.5.27. 富士火山、宝永山の形成過程の考察. 日本地球惑星科学連合2019年大会予稿集: SVC35-02, 幕張メッセ国際会議場.

河合貴之・西澤文勝・山田真嵩・鈴木毅彦, 2019.8.23. 北関東・北信地域における大町 APm テフラ群の対比および中部更新統の編年の再検討. 日本第四紀学会講演要旨集 49: 53, 千葉科学大学マリーナキャンパス.

山本真也・西澤文勝・吉本充宏・宮入陽介・横山祐典・菅 寿美・大河内直彦, 2019.9.18. 化合物レベル14C年代法による富士山北麓・河口湖堆積物コア中の火山噴出物の年代推定. 2019年度日本地球化学会第66回年会講演要旨集: 149, 東京大学本郷キャンパス.

Aoki, K., Kobayashi, M., Murata, M., Nishizawa, F., Takahashi, T. & Suzuki, T. 2020. 2. 17. Construction of late Quaternary eruption history in and around the Izu Volcanic Islands, off Tokyo. American Geophysical Union, Ocean Science Meeting 2020, abstract, M14A-2178, San Diego, United States of America.

大坪 奏 (おおつば かなで) アーカイブズ

[普及的著作等]

大坪奏, 2019年6月15日. 自然史博物館の絵画資料. 神静民報.

3.4. レファレンス対応人数

2019年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	186	16	6	9	87	304	296	73	18	277	427	1,091	1,395	3,242	0	0
魚類	255	6	0	24	8	293	616	29	3	92	5	745	1,038	2,025	9	9
両生・爬虫類	16	1	0	0	0	17	45	9	5	10	0	69	86	24	0	13
鳥類	10	3	1	0	0	14	38	18	0	7	0	63	77	112	0	0
哺乳類	3	0	0	0	0	3	60	9	1	20	13	103	106	2,848	0	2
その他動物	18	1	0	4	0	23	62	10	1	53	13	139	162	237	0	2
植物	3	2	0	2	0	7	189	42	3	53	2	289	296	578	0	0
菌類	61	9	13	36	25	144	86	21	16	51	35	209	353	403	0	1
古生物	9	1	0	2	1	13	23	5	3	19	0	50	63	22	1	0
地学	25	1	0	4	2	32	51	23	0	71	3	148	180	287	0	0
地球環境	2	2	0	0	0	4	3	23	0	11	0	37	41	39	0	0
合計	588	42	20	81	123	854	1,469	262	50	664	498	2,943	3,797	9,817	10	27

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	NHK テレビ	
魚類	NHK テレビ/日本テレビ/TBS テレビ/テレビ朝日/フジテレビ/テレビ東京/読売テレビ/KSB 瀬戸内海放送/共同通信社/朝日新聞社/読売新聞大津支局	さし旅/ザ!鉄腕!DASH!!/ごはんジャパン/世界の海をのぞいてみよう/直撃LIVEグッディ/マツコの知らない世界/坂上どうぶつ王国/にじいろゾーン/さかなクンと行く珍魚探検/日立世界ふしぎ発見/ヒルナンデス/ダーウィンが来た!/釣り人万歳/99人の壁/緊急SOS!池の水ぜんぶ抜く大作戦/サタデーセッション/トリニクって何の肉?/新・情報7days ニュースキャスター/至極の楽園 世界の海をのぞいて見よう!/照英・児島玲子の最強!釣りバカ対決!!/かんさい情報 ten/東大王/ミミクリーズ/港はしご旅
両生・爬虫類	日本テレビ/TBS テレビ/テレビ東京	ザ!鉄腕!DASH!!/東大王/開運!なんでも探偵団
鳥類	NHK テレビ/TBS テレビ	ダーウィンが来た!/東大王
哺乳類	日本テレビ/TBS テレビ/NHK テレビ/共同通信社	噂の東京マガジン/東大王
その他動物	NHK テレビ/日本テレビ/TBS テレビ/テレビ朝日/フジテレビ/テレビ東京/共同通信社	チョコちゃんに叱られる/ミミクリーズ/ザ!鉄腕!DASH!!/東大王/相葉マナブ/10万円のできるかな/直撃LIVEグッディ/リトルトーキョーライフ
植物	NHK テレビ	さわやか自然百景
菌類	日本テレビ/テレビ朝日/東京 MX テレビ/関西テレビ/テレビ大阪/IVS テレビ制作会社	ザ!鉄腕!DASH!!/スーパーJチャンネル/新説!所 JAPAN
古生物	日本テレビ	難問クイズ
地球環境	読売新聞	

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「学校名、科目名」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

総務省 平和祈念館運営に関するアドバイザー
公益財団法人日本博物館協会理事
公益財団法人日本博物館協会「博物館研究」編集委員
公益財団法人日本博物館協会 棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会委員
一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員会議長
独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園 環境問題特別委員会委員
独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会委員
国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球掘削科学推進委員会委員長
聖光学院中学校・高等学校 SSH 運営委員会委員
公益財団法人東京地学協会会長（代表理事）

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会理事
神奈川県博物館協会理事
小田原市文化財保護委員会委員（小田原市教育委員会）
相模原市文化財保護審議会委員（相模原市教育委員会）
横須賀市文化財専門審議会委員（横須賀市教育委員会）
一般社団法人日本地質学会理事・副会長
公益社団法人東京地学協会コンプライアンス委員会委員
公益社団法人東京地学協会外部アドバイザー委員会委員
公益社団法人東京地学協会地学雑誌編集委員
学校法人日本大学文理学部地球科学科外部アドバイザー委員会委員
学校法人玉川学園 SSH 運営指導委員会委員
独立行政法人国立科学博物館の評価等に関する有識者会議委員
箱根ジオパーク推進協議会理事

[査読]

地学雑誌

田中徳久

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
神奈川県植物誌調査会運営委員
横浜植物会運営委員
自然史学会連合博物館部会委員
大和市文化財保護審議会委員
茅ヶ崎市環境審議会委員
大磯町環境審議会委員
大磯町文化財専門委員
箱根町文化財保護委員
寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員

[非常勤講師等]

神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」
桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」

[査読]

植生学会誌（植生学会）

佐藤武宏

[委員・役員]

日本古生物学会会計監査（日本古生物学会）
[非常勤講師等]
神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期）「博物館概論」

[査読]

神奈川自然誌資料

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の会 神奈川支部）
神奈川県カワウ対策委員会委員（神奈川県）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）
相模原市環境影響評価審査会委員（相模原市）
日本鳥学会監事（日本鳥学会）

荻部治紀

[委員・役員]

日本トンボ学会会長
日本トンボ学会編集委員会委員長
日本トンボ学会自然保護委員長
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員
環境省令和元年度絶滅のおそれのある野生生物の
選定・評価検討会昆虫分科会検討委員
環境省希少野生生物推進員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員
環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ
座長
環境省兄島陸産貝類保全プロジェクト会議検討委員
員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員
会委員
林野庁小笠原諸島固有森林生態系修復事業アドバイザー
東京都聳島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会委員

[査読]

Tombo (日本トンボ学会)
Aeschna (トンボ研究会)
保全生態学研究 (日本生態学会)

渡辺恭平

[委員・役員]

日本昆虫学会代議員 (日本昆虫学会)
日本昆虫目録編集委員 (日本昆虫学会)
神奈川昆虫談話会幹事 (神奈川昆虫談話会)
JBIF ワーキンググループメンバー

[査読]

Zoosystematica Rossica
Entomological Science
Deutsche Entomologische Zeitschrift
ZooKeys

松本涼子

[委員・役員]

日本古生物学会「化石」編集委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈川県)
白山市手取層群化石調査団

鈴木 聡

[委員・役員]

中大型哺乳類分布調査検討委員 (自然環境研究セ

ンター)

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈川県)

自然史学会連合国際シンポジウム実行委員

[非常勤講師等]

東京農工大学大学院農学府非常勤講師 (3 学期)

「自然環境資源学特論 X」

[査読]

Journal of Veterinary Medical Science (日本獣医学学会)

広谷浩子

[委員・役員]

日本人類学会人類学普及委員 (日本人類学会)
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員 (神奈川県)

神奈川県西湘地域鳥獣対策協議会委員 (神奈川県)

厚木市野生鳥獣対策会議委員 (厚木市)

[非常勤講師等]

都留文科大学非常勤講師「博物館展示論」、「博物館資料保存論」

桜美林大学非常勤講師 博物館実習「バリアフリー実習 1・2」

神奈川大学理学部非常勤講師 (後期)「地域の自然史」

[査読]

兵庫県立人と自然博物館研究紀要

瀬能 宏

[委員・役員]

日本魚類学会代議員 (日本魚類学会)

日本魚類学会副会長 (代表理事) (日本魚類学会)

日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部会委員 (日本魚類学会)

日本魚類学会標準和名検討委員会委員長 (日本魚類学会)

川崎市社会教育委員会専門部会委員 (青少年科学館専門部会委員) (川崎市教育委員会)

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員長 (神奈川県)

希少野生動植物種保存推進員 (環境省)

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会海水魚類分科会検討委員 (環境省)

魚介類の名称のガイドライン改正案検討会委員 (消費者庁)

[査読]

Species Diversity (日本動物分類学会)

魚類学雑誌 (2 篇) (日本魚類学会)

Zoological Letters (日本動物学会)

Zootaxa (2 篇)
タクサ (日本動物分類学会)

大西 亘

[委員・役員]
日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長
デジタルアーカイブ学会評議員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈川県)
真鶴町お林保全協議会「お林保全方針」策定ワーキンググループメンバー (真鶴町)
神奈川県植物誌調査会運営委員
種生物学会会計監査
[査読]
植物地理・分類研究 (日本植物分類学会)

折原貴道

[委員・役員]
日本地下生菌研究会会長
日本地下生菌研究会事務局
日本地下生菌研究会編集・出版統括
日本地下生菌研究会総会・シンポジウム担当
一般社団法人日本菌学会代議員
一般社団法人日本菌学会庶務担当幹事
一般社団法人日本菌学会 2020 年度菌類観察会実行委員
Asian Mycological Congress 2019 Organizing Committee (大会実行委員)
日本菌学会関東支部企画幹事 [菌類観察会担当]
日本菌学会関東支部第 5 回勝本賞選考委員会委員
神奈川県レッドリスト選定・評価委員会植物・菌類部会 委員
神奈川県博物館協会機能研究部会幹事
神奈川県博物館協会総合防災計画推進委員 (副専任)
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
[査読]
Mycoscience (一般社団法人日本菌学会)
日本きのこ学会報 (日本きのこ学会)
TAXON (The International Association for Plant Taxonomy)

石田祐子

[委員・役員]
神奈川県植物誌調査会運営委員
長野県植物誌改訂委員
[査読]

神奈川自然誌資料

大島光春

[委員・役員]
全科協ニュース編集委員 (全国科学博物館協議会)
湘南台文化センターこども館運営委員会委員
茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会委員
[非常勤講師等]
帝京科学大学 (後期) 博物館経営論 (分担)

樽 創

[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会
神奈川地学会運営委員
あきる野市文化財保護審議会委員
多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会
[非常勤講師等]
東京農業大学バイオセラピー学科非常勤講師 (前期)「動物形態・分類学」

田口公則

[委員・役員]
日本共生科学会編集委員
全日本博物館学会行事委員
神奈川県博物館協会 第 68 回全国博物館大会プロジェクト委員
神奈川県地学会幹事
[非常勤講師等]
日本女子大学非常勤講師 (前期)「博物館実習」

新井田秀一

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[非常勤講師等]
日本大学生物資源科学部非常勤講師 (後期集中)「博物館展示論」
神奈川大学理学部非常勤講師 (後期)「地域の自然史」

山下浩之

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会役員
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員 (熱海市教育委員会)
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員 (伊東市教育委員会)
小田原市郷土文化館協議会委員 (小田原市教育委員)

会)
 [非常勤講師等]
 学校法人玉川大学農学部非常勤講師 (後期)「地
 学」
 学校法人玉川大学農学部非常勤講師 (後期)「地学
 実験」

神奈川地学会幹事
 [非常勤講師等]
 公立大学法人首都大学東京都市環境科学研究科都
 市環境科学専攻地理環境科学域非常勤講師 (後
 期)「都市環境科学特別講義 4」
 首都大学東京首都大学東京都市環境科学研究科客
 員研究員
 首都大学東京火山災害研究センター学外メンバー
 [査読]
 Journal of Quaternary Science

西澤文勝

[委員・役員]
 箱根ジオパーク推進協議会幹事会役員

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所 (館内・館外) の区分で一覧表に示した。
 行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。(延べ件数集計のため、複数日
 にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。独立行政法人は行政機関に含め集計した。)
 なお、学校 (小・中・高・大・養護等および教員研修) からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」
 (55～57 ページ)「5.3. 博物館実習」(58～59 ページ)に記載した。

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	合計
館内	件数	8	6	11	32	11	5	5	78
	人数	247	42	107	764	70	41	83	1,354
館外	件数	6	3	0	2	2	31	17	61
件数合計		14	9	11	34	13	36	22	139

行政機関・各種団体の依頼 (館内実施)

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
6/26(水)	2019年度小田原ガイド協会ガイド養成講座ジオパークI	NPO 法人小田原ガイド協会	山下浩之	20	
8/27(火)	中高生サイエンスキャリアプログラム	神奈川県青少年科学体験活動推進協議会(県立青少年センター)	田口公則	7	
10/30(水)	施設概要と展示見学	世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ	佐藤武宏	15	
11/7(木)	施設概要と展示見学	世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ	佐藤武宏	12	
11/27(水)	御所見公民館事業「市民企画講座」 外来生物が引き起こす環境問題	藤沢市教育委員会	荻部治紀	29	
11/28(木)	施設概要と展示見学	世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ	佐藤武宏	12	
12/21(土)	職員視察	島根県立三瓶自然館	学習指導員	3	
1/25(土)	神奈川の地形	茅ヶ崎市美住町自主防災会	平田大二	24	
2/20(木)	液浸標本室の視察および標本作製・保 存・整理・管理	富山市科学博物館	瀬能 宏	1	
2/21(金)	液浸標本室の視察および標本作製・保 存・整理・管理	富山市科学博物館	瀬能 宏	1	

行政機関・各種団体の依頼 (館外実施)

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/19(日)	すわのはら昆虫きょうしつ きれいな虫がし	県立おだわら諏訪の原公園指定 管理者 おだわら諏訪の原公園 パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
6/13(木)	クジラの生態と生物多様性について	株式会社ジェイペック	樽 創	浜離宮三井ビルディング

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
6/25(火)	真鶴町成人学級(前期)「真鶴半島の照葉樹林の特徴とこれからの課題」	真鶴町教育委員会	大西 亘	町立遠藤貝類博物館
6/27(木)	神奈川県植物誌 2018	有料老人ホーム サンシティ神奈川	大西 亘	サンシティ神奈川AVシアター
7/3(水)	2019 年度小田原ガイド協会ガイド養成講座 ジオパークⅡ	NPO 法人小田原ガイド協会	山下浩之	早川石丁場、一夜城歴史公園
7/20(土)	化石超入門:三葉虫・アンモナイト・ホタテガイ	新宿区立下落合図書館	田口公則	下落合図書館多目的室
8/8(木)	おおい自然園『夏の虫観察会』	大井町教育委員会	渡辺恭平	おおいゆめの里及び四季の里
8/11(日)	箱根虫塾	一般財団法人自然公園財団箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンターおよび周辺
8/12(月)	箱根虫塾	一般財団法人自然公園財団箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンターおよび周辺
8/12(月)	夏休み事業「わくわく体験ー身近な自然から学ぶ」きみも古生物学者だ!ーアンモナイトのレプリカづくり	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	田口公則	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
8/17(土)	自然観察講座「昆虫(ハチを中心に)」	大井町教育委員会	渡辺恭平	おおいゆめの里及び四季の里
8/17(土)	コリストデラ類に関する最新の研究成果	イツ・コミュニケーションズ株式会社	松本涼子	東京カルチャーカルチャー
8/18(日)	夜の昆虫ウォッチング	県立おだわら諏訪の原公園指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
8/19(月)	夏期宿泊研修「付加帯に関する講演、秩父・下仁田付近巡検」	新宿区理科宿泊研修会	平田大二	埼玉県立自然の博物館及び秩父、下仁田方面
8/20(火)	夏期宿泊研修「付加帯に関する講演、秩父・下仁田付近巡検」	新宿区理科宿泊研修会	平田大二	埼玉県立自然の博物館及び秩父、下仁田方面
8/22(木)	公民館講座「わんぱくスクール『恐竜入門教室』」	綾瀬市立中央公民館	大島光春	綾瀬市立中村地区センター
8/28(水)	綾瀬市教育研究所研究員研究発表大会「地球のふしぎ〜地球はいつどうやって生まれたのか〜」	綾瀬市教育委員会	齊藤靖二	綾瀬市オーエンス文化会館
9/1(日)	きのご観察会	神奈川県立 21 世紀の森	折原貴道	県立 21 世紀の森園内
9/8(日)	科学がときあかすヒトの進化 はじめての人類学	江戸川区こども未来館	広谷浩子	江戸川区こども未来館
9/12(木)	厚木市立森の里公民館「生きがい教室」	厚木市立森の里公民館	田口公則	厚木市立森の里公民館
9/14(土)	富士山科学講座 応用1「火山砕屑物を調べる」	山梨県富士山科学研究所	西澤文勝	山梨県富士山科学研究所
9/15(日)	第 2 回自然観察指導技術研修会	県自然環境保全センター	折原貴道	県自然環境保全センター
9/23(月)	すわのはらバツタ観察会	県立おだわら諏訪の原公園指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
9/29(日)	シンポジウム「地下にもぐったきのこの不思議」	独立行政法人 国立科学博物館	折原貴道	国立科学博物館筑波実験植物園
10/5(土)	おおい自然園「酒匂川の岩石観察会」	大井町教育委員会	山下浩之	足柄紫水大橋付近
10/26(土)	「植生調査研修」野外実習	国際生態学センター(共催)	石田祐子	神奈川県立四季の森公園
10/27(日)	「地域の植物相調査と標本データの活用」	国際生態学センター(共催)	田中徳久	新横浜ホール(加瀬会議室)
10/30(水)	おだわら市民学校専門課程「自然を守り育てる」小田原の自然環境を学ぶ〜地質などから分る小田原の自然〜	小田原市環境政策課生涯学習課	齊藤靖二	小田原市生涯学習センターけやき
11/9(土)	企画展の開催に伴う講座「『神奈川県植物誌 2018』の成果から分ること」	茅ヶ崎市教育委員会	田中徳久	茅ヶ崎市文化資料館
11/14(木)	平塚市中央公民館市民大学「わたしのルーツを考える」	平塚市中央公民館	広谷浩子	平塚市中央公民館
11/17(日)	こども館ワークショップ事業「秋の自然ウォッチング」	藤沢市湘南台文化センター	大西 亘	湘南台文化センターこども館
11/20(水)	おだわら市民学校専門課程「郷土の魅力を知り伝える」	小田原市文化部生涯学習課	山下浩之	石垣山一夜城・早川石丁場
11/27(水)	真鶴町文化財審議委員会研修視察における講話「真鶴半島の石質と分布について」	真鶴町教育委員会 真鶴町文化財審議委員会	山下浩之	真鶴町内の丁場
12/12(木)	地質調査総合センターシンポジウム「神奈川県の地質について」	国立研究開発法人産業技術総合研究所	平田大二	TKP ガーデンシティ横浜
12/13(金)	丸博友の会研修会「ある学芸員の仕事」	ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会	大島光春	茅ヶ崎市市民ギャラリー
12/14(土)	自然環境講演会「よこすかの植物たち」	横須賀市	大西 亘	横須賀市自然・人文博物館
12/14(土)	後立山連峰北部における雪山型植生の種組成と環境要因	植物社会学研究会	石田祐子	東京農業大学世田谷キャンパス
12/16(月)	南区食の安全・安心を考える講演会「その植物、本当に食べても大丈夫?〜有毒植物を知ろう〜」	横浜市南福祉保健センター	田中徳久	横浜市南区役所
12/22(日)	2019 年植物界の話題	横浜植物会	田中徳久	横浜市こども植物園

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
1/25(土)	野鳥観察会	寒川町	加藤ゆき	寒川町目久尻川周辺
1/26(日)	令和元年度 幼稚園教育経営研修会 「箱根の山は生きている！40 万年の噴火の歴史」	公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会	平田大二	箱根湯本 天成園
2/2(日)	冬のいきものさがし～冬に虫はどこにいるのかな～	県立おだわら諏訪の原公園指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
2/2(日)	多摩川中上流域上総層群調査研究シンポジウム	羽村市 多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会	樽 創	羽村市生涯学習センターゆとろぎ
2/15(土)	境川遊水地「貝化石堀り体験」	(公財)神奈川県公園協会県立境川遊水地公園	田口公則	県立境川遊水地公園
2/23(日)	ボランティア入門講座における情報提供	神奈川県立図書館	佐藤武宏	県立図書館
2/23(日)	「植物群落の成立要因を探る」	横浜植物会	石田祐子	横浜市こども植物園
2/26(水)	骨格標本を使った勉強会	日本大学生物資源科学部博物館	樽 創	日本大学生物資源科学部博物館
2/27(木)	骨格標本を使った勉強会	日本大学生物資源科学部博物館	樽 創	日本大学生物資源科学部博物館

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会・講演会等について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある一般に公開した講演会は 51～52 ページに詳細を記載のため省略した。

実施団体	実施日	開催内容	講師等	実施場所等
神奈川地学会	4/27(土)	総会	樽 創	※幹事会は、この日を含め全 7 回
	5/15(水)	幹事会	田口公則 石浜佐栄子 西澤文勝	
	9/7(土)	箱根火山防災シンポジウム 「箱根火山の活動と防災を考える～現状とこれからの箱根ジオパーク」	瀧澤倫明 笠間友博 鷺山龍太郎 道家涼介	講義室(95名) ※講師は、温泉地学研究所職員および神奈川地学会会員
魚の会	5/26(日)	総会	瀬能 宏	西側講義室(参加 16 名)
日本動物分類学会	6/8(土)	第 55 回大会	瀬能 宏	SEISA ミュージアムシアター 講義室・特別展示室・実習実験室 (参加者 127 名)
	6/9(日)	評議員会・総会・研究発表会(口頭およびポスター)・記念講演会	渡辺恭平	
菌類懇話会	8/3(土)	例会	折原貴道	入生田観察会(22名)
神奈川昆虫談話会	8/30(日)	例会	渡辺恭平	講義室(50名)
	12/6(日)		苅部治紀	講義室(50名)

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、期間、内容、担当者等を記載した。(開催日初日順)

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
神奈川県内漁業組合	4/4(木)	相模湾・東京湾沿岸ハマグリ資源調査 全 6 日間 4/8(月)、6/17(月)、 11/15(金)、12/16(月)、3/23(月)	佐藤武宏	県内の漁業組合
箱根ジオパーク推進協議会	4/23(火)	幹事会	田邊 勉	SEISA ミュージアムシアター
	6/26(水)		新井田秀一	
	8/29(木)		山下浩之	
	11/20(水)		石浜佐栄子	
	2/5(水)		西澤文勝	
5/22(水)	総会・フォトコンテスト入賞作品展示	齊藤靖二 平田大二 幹事会担当	SEISA ミュージアムシアター	
6/26(水)	ガイド養成講座	幹事会担当	西側講義室他	
7/16(火)	観光部会	西澤文勝		
湘南地球科学の会	6/8(土)	他全 6 日間 7/27(土)、10/5(土)、 11/23(土)、12/22(土)、12/28(土)	平田大二 山下浩之 大島光春	海洋研究開発機構 他

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
神奈川県立歴史博物館	7/13(土)～ 9/1(日)	特別展「北からの開国ー海がまもり、 海がつないだ日本ー」展 展示協力	新井田秀一	県立歴史博物館
神奈川キノコの会	7/28((日)	野外勉強会	折原貴道	小田原子どもの森公園 他
観音崎自然博物館	8/1(木)～ 12/1(日)	特別展示「東京湾かいぼり大作戦」	新井田秀一	観音崎自然博物館
横浜市こども植物園	9/1(日)～ 9/29(日)	企画展示「横浜植物会展・『神奈川県 植物誌 2018』と横浜植物会」	大西 亘	横浜市こども植物園
茅ヶ崎市文化資料館	10/8(火)～ 12/8(日)	企画展示「調べてきた！集めてきた！ 茅ヶ崎の植物と神奈川県植物誌 2018」	大西 亘	茅ヶ崎市文化資料館
ヨコハマきのこ大祭	10/19(土)、 20(日)	ヨコハマきのこ大祭 2019	折原貴道	みなとみらい M.M テラス
日本大学生物資源科学部博 物館	10/19(土)～ 12/14(土)	企画展示「植物の世界～『神奈川県植 物誌 2018』の活用～」	大西 亘	日本大学生物資源科学部博物 館
日本地質学会関東支部 首都大学東京火山災害研究 センター	11/30(土)、 12/1(日)	巡検案内	西澤文勝	神津島
横須賀市自然・人文博物館	12/7(土)～ 2/16(日)	企画展示「『神奈川県植物誌 2018』と 三浦半島の植物たち」	大西 亘	横須賀市自然・人文博物館
神奈川県自然環境保全セン ター	12/7(土)～ 2/16(日)	企画展示「『神奈川県植物誌 2018』の できるまでとこれから」	大西 亘	県立秦野ビジターセンター
あつぎ郷土博物館	2/22(土)～ 3/3(火)	企画展示特別展示「あつぎの花咲く植 物の世界」	大西 亘	あつぎ郷土資料館 ※当初予定(3/22)会期短縮
神奈川県温泉地学研究所	通年	試験研究機関紹介の映像用画像作成	新井田秀一	

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は外来研究員 16 名を受け入れた。なお、今年度の研究成果に関しては、Ⅲ 資料の項 (98～103 ページ) に掲載した。

3.10. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として 20 年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員等を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名(認定年月日)」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士 (2000 年 4 月 1 日) (2011 年逝去)

青木淳一 (2006 年 4 月 1 日)

学芸員

高橋秀男 (2000 年 4 月 1 日) (2019 年逝去)

村岡健作 (2000 年 4 月 1 日)

生出智哉 (2000 年 4 月 1 日)

松島義章 (2002 年 4 月 1 日)

中村一恵 (2004 年 4 月 1 日) (2015 年逝去)

今永 勇 (2005 年 4 月 1 日)

奥野花代子 (2009 年 4 月 1 日)

山口佳秀 (2012 年 4 月 1 日)

高桑正敏 (2012 年 4 月 1 日) (2016 年逝去)

新井一政 (2013 年 4 月 1 日)

勝山輝男 (2019 年 4 月 1 日)

笠間友博 (2019 年 4 月 1 日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2020年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、Ⅲ 資料の項(86～87ページ)に掲載した。この登録件数は、資料番号を付したものを計数しており、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、Ⅲ 資料の項(87ページ)には、登録点数も掲載した。登録点数は、枝番を付したものの個別に計数した数である。

<標本>

分野	2018年度までの登録件数	2019年度の登録件数	合計
維管束植物	313,439	16,247	329,686
植物群落	264	0	264
コケ	9,518	1	9,519
菌類・変形菌類	29,106	1,136	30,242
藻類	4,575	0	4,575
植物その他	1,725	0	1,725
魚類	50,786	4,453	55,239
哺乳類	5,351	480	5,831
鳥類	3,045	45	3,090
両生類	1,270	10	1,280
爬虫類	707	38	745
軟体動物	29,500	3,272	32,772
甲殻類	20,248	469	20,717
動物その他	113	1	114
昆虫	71,375	6,082	77,457
クモ	353	0	353
化石	17,894	1,029	18,923
岩石	12,394	2,170	14,564
鉱物	31,128	2,921	34,049
地質・ボーリング	4	2	6
はぎ取り	70	0	70
地学その他	23	0	23
衛星画像	1,110	0	1,110
合計	603,998	38,356	642,354

<アーカイブズ>

分野	2018年度までの登録件数	2019年度の登録件数	合計
植物標本写真	1,179	0	1,179
魚類写真	187,194	9,340	196,534
哺乳類写真	15	86	101
鳥類写真	229	373	602
両生類写真	131	22	153
爬虫類写真	65	18	83
昆虫写真	1,104	0	1,104
クモ写真	1	0	1
衛星処理画像	158	4	162
景観画像	2,741	283	3,024
博物館活動	47,418	3,859	51,277
菌類細密画	498	0	498
甲殻類細密画	508	67	575
合計	241,241	14,052	255,293

4.1.2. 購入資料

[魚類] 合計 36 点

世界の淡水魚類

[昆虫] 合計 158 点

世界の昆虫コレクション

[古生物] 合計 4 点

放散虫 *Lychnocanoma* 立体模型 1 点

孔子鳥 (*Confuciusornis dui* Hou et al. 1999) のレプリカ 1 点

マイクロラプトル (*Microaptor gui* Xu et al. 2003) のレプリカ 1 点

ステラーダイカイギュウ頭骨、寛骨のレプリカ 1 点

[爬虫類] 合計 3 点

インドガビアル骨格 1 点

アカミミガメ骨格 1 点

クサガメ骨格 1 点

[鳥類] 合計 2 点

アオバト骨格 1 点

アオバト剥製 1 点

[哺乳類] 合計 5 点

ハリモグラ 剥製 1 点

カッシュクハイエナ剥製 1 点

フクロギツネ剥製 1 点

アルマジロ剥製 1点
ハクビシン交連骨格 1点

[衛星画像] 合計3点
M7020 沖縄本島海域 (D7020S-2)
M7021 先島諸島海域 (D7021S-2)
M7025 大東島海域 (D7025S-2)

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2019年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数(寄贈者(敬称略))」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。

登録件数は、標本 30,409 件、アーカイブズ 8,573 件である。

[維管束植物] 合計 16,089 件	シンジュタケほか2件
[コケ] 合計 1 件	ヤグラタケほか2件
オオフサゴケ 1 件	ベニタケ属の一種ほか6件
[菌類・変形菌類] 合計 976 件	ヒメカバイロタケ 1 件
キショウゲンジ 1 件	マンネンタケ属の一種ほか2件
ムラサキゴムタケほか8件	フミヅキタケ属の一種ほか2件
チチタケ 1 件	キヒダタケ属の一種 1 件
ミナカタトマヤタケほか15件	オトヒメアンズタケ 1 件
ニセクリイロチャワタケ類似種 1 件	ヒメツチグリ属の一種ほか3件
ワサビタケほか129件	ヒメムキタケ属の一種ほか2件
シワタケ 2 件	マルミノヘラバタケモドキ 1 件
アカアシボソチチタケ 1 件	ムサシタケほか3件
トビチャチチタケ 1 件	ムツノウラベニタケ属の一種ほか2件
コビチャニガイグチ類似種 1 件	ミヤマコイシタケほか5件
ニレサルノコシカケほか9件	ツチカメムシタケ 1 件
ムラサキヤマドリタケ 1 件	テンガイキツネノサカズキ 2 件
ツブイボタケ 1 件	シラゲタケほか5件
アシグロタケ 1 件	ハイイロクズチャワタケ属の一種 1 件
ヒラタケ属の一種ほか3件	ヒメコウジタケ属の一種ほか2件
ヤブアカゲシメジ 1 件	ホウライタケ属の一種ほか5件
ヒメノガステル属の一種 1 件	タバコウロコタケ科の一種ほか5件
ミドリニガイグチ(広義) 1 件	フガネキクバナイグチ 1 件
ツブエノウラベニグチ類似種ほか2件	コブリコ 1 件
ヒメノガステル属の一種 1 件	エヤマコイシタケほか3件
ウスキサソゴタケ 1 件	テセキカワタケ 1 件
シロアミヒラタケ 1 件	アメカイメンタケ 1 件
テングタケ属の一種(ひだ鋸歯状奇形) 1 件	ポーベリア属の一種ほか2件
クロハツモドキ類似種 1 件	サイイロクズチャワタケ属の一種 1 件
クロムラサキニガイグチ 1 件	キメシロウラベニタケ類似種ほか3件
シンジュタケほか2件	ユワリハツ 1 件
ウスキテングタケ 1 件	ベニチャワタケほか8件
ベッコウタケほか2件	メイロイタチタケ 1 件
シミタケ 1 件	ミモンシブカワタケほか166件
オオミノセイヨウシヨウロほか2件	シシゲコウヤクタケ 2 件
ホシミノタマタケ属 <i>Mutabiles</i> 亜属の一種 1 件	エメリイロガワリほか2件
タマチョレイタケ 1 件	ヒクウチワタケ 1 件
テングタケモドキ 1 件	モヤコブタケ属の一種ほか2件
フラジェロスキファ属の一種ほか6件	センガタケほか5件
メシマコブほか2件	スッタリア 1 件
キブリエイボタケ 1 件	イイツノオオウズラタケほか2件
ヒメノガステル属の一種ほか2件	イロツバゲジゲジゴケほか90件
ステファノスポラ属の一種 1 件	ダイダイゴケ属の一種 1 件
シヨウロ属の一種 1 件	イハジゴケ属の一種ほか6件
ミヤマチャアナタケ(城川)ほか14件	イニチキウメノキゴケ属の一種ほか3件
	イホサカイボタケほか5件
	イヘボコガネテングタケ類似種 1 件
	イトウソクゴケ属の一種ほか4件

レモンチチタケ (城川仮称) ほか 2 件
ヤコウタケ (広義) ほか 10 件
ツチダンゴ属の一種 1 件
コガネシヨウロタケ 1 件
ステファノスポラ属の一種 1 件
サナギタケほか 3 件
ヌメリハツほか 3 件
チャイボホシミノタマタケ (仮称) 1 件
ガウチエリア属の一種 1 件
ヌメリニガイグチほか 3 件
カワムラフウセンタケ類似種 1 件
ハマヒルガオのさび病菌ほか 2 件
ジャガイモタケ 1 件
コフキクロチャワタケ 1 件
ピロードツエタケほか 5 件
クロラッパタケ属の一種 1 件
アケボノドクツルタケ 1 件
ニセビョウタケ属の一種 1 件
雷丸ほか 12 件
ロクシヨウグサレキ属の一種 1 件
ハグロチャツムタケ 1 件
ニロガワリヤマイグチ 1 件
ホヨウジタケ 1 件
ヘエンタケ 1 件
トメハリタケ (安田) 1 件
チマジノカレバタケほか 18 件
リラスジチャワタケ 1 件
ヌツネノサカズキ 1 件
ルクサウラベニタケ 1 件
ラカワラタケほか 2 件
ワツカサキノコモドキ 1 件
カオゾメツチカブリ 1 件
ヨカクサウラベニタケほか 46 件
タルミノツエタケ 1 件
レステランギウム属の一種 1 件
ソロカイメンタケ 1 件
ツカゲオチエダタケ 1 件
ネッタリア属の一種 1 件
ナモタケ 2 件
ラチタケ属の一種 1 件
ムモンチチタケ (城川仮称) 1 件
ウロハツモドキ類似種 1 件
キチダンゴ属 *Ceratogaster* 節の一種 1 件
ノバノニセホクチタケ 1 件
オステランギウム属の一種 1 件
クダキクラゲ 2 件
ヤリノホゴケほか 56 件
マロツブタケ (広義) 1 件
ケツネノカラカサ 1 件
フマドリタケモドキほか 49 件
コセクリイロチャワタケ 1 件
エロハチチタケほか 2 件
テカンバタケ 1 件
アヤイボタケ 1 件
サヒダサカズキタケほか 2 件
キイヨウシヨウロ属の一種 1 件
ユシヤイグチほか 17 件
メジゴケ属の一種ほか 56 件
ミナビラニカワタケほか 4 件
シズタケ 1 件
エシミノタマタケ属 *Mutabiles* 亜属の一種 1 件
ヒリノホゴケほか 21 件
モレバキツネタケほか 2 件

ニガイグチ属の一種 1 件
モリノハダイロガサほか 4 件
レンゲタケ 1 件
クロムラサキニガイグチ 1 件
マツゲゴケほか 3 件
カメムシタケ 1 件
ヒメモグサタケほか 3 件
ラッコタケ 2 件
カイメンタケ 1 件
コガネキクバナイグチ 1 件
チャダイゴケ属の一種 1 件
トキイロヒラタケ 1 件
ウツロイモタケ 1 件
アイカワタケ 1 件
シロウロコツルタケ 1 件
コナカブリテングタケ類似種 1 件

[魚類] 合計 2,941 件

ルリヨシノボリほか 136 件 (パシフィックコンサルタンツ株式会社 (小田原市委託))
セスジボラ 1 件 (横浜市環境科学研究所)
ワニトカゲギスほか 636 件 (手良村知功)
リュウキュウダツほか 38 件 (東京海洋大学水産生物研究会)
ロウソクギンポほか 285 件 (村瀬敦宣)
マツバラトラギスほか 17 件 (村瀬敦宣)
ミナミミズレウツボ 1 件 (河本篤哉)
ビワコガタスジシマドジョウほか 49 件 (尾山大知)
ヨシキリザメほか 3 件 (新江ノ島水族館 (崎山直夫))
ベンケイハゼほか 18 件 (益田 一 (益田海洋プロダクション))
メイチダイ 1 件 (川淵英朗)
ミナミメダカ (東日本型) 6 件 (川合英利)
シロシュモクザメ 1 件 (林 弘章)
タカハダカほか 5 件 (三浦寛子)
ムカシクロタチ 1 件 (渡部泰斗)
テングノオトシゴ 2 件 (池田 等)
ヨウジウオほか 95 件 (いであ株式会社)
ミナミメダカ (地域型不明) 1 件 (川島逸郎)
アリアケヒメシラウオほか 9 件 (中島 淳)
ミツクリエナガチョウチンアンコウほか 2 件 (神奈川県水産技術センター)
ハシナガクロタチほか 4 件 (神奈川県立海洋科学高等学校)
ボウズハゼほか 9 件 (旗 薫)
アオスジエビスほか 36 件 (栗岩 薫)
オオクチハマダイほか 4 件 (島田和彦)
インガキフグほか 34 件 (山田和彦)
シロギスほか 240 件 (荒尾一樹)
オカムラギンメ 1 件 (立崎憲一)
メガネモチノウオ 1 件 (吉田賢治)
ボラほか 5 件 (山崎公裕)
ミツボシカスベ 1 件 (石垣幸二)
アカザほか 49 件 (馬淵浩司)
テングイハタほか 2 件 (岡部 久)
コウテイキホウボウほか 9 件 (安田 慎)
マンボウほか 2 件 (中島田正希)
アオザメ 1 件 (江森正典)
チカメエチオピア 2 件 (藤原昌高)
アオバダイ 2 件 (高山真由美)
ラブカ 1 件 (内藤美咲)
ホタテエソ 1 件 (柳田満彦)
ヤマトイトヒキサギほか 4 件 (杉村光俊)
サンゴタツほか 2 件 (竹内直子)
スナビクニン 1 件 (川嶋尚正)
トビハタ 1 件 (高橋涼馬)

メジナほか6件 (中村良成)
 タカベ2件 (川西亮太)
 アブラハヤほか37件 (千葉 悟)
 ロンクイルス・ジョルダニイほか4件 (安房田智司)
 エビスダイ1件 (上島 聡)
 キハツソク1件 (三宮重徳)
 ワヌケフウリュウウオほか74件 (三井翔太)
 ヤセハリセンボンほか2件 (佐藤 俊)
 タニヨウジ5件 (加藤終也)
 ヒメキチジ1件 (饗場空璃)
 マアナゴ1件 (崎山直夫)
 クロイシモチ8件 (工藤孝浩)
 ホトケドジョウほか11件 (川口貴光 (株式会社環境指標生物))
 シボリキンチャクフグ1件 (小路川卓征)
 クロヨシノボリ1件 (中野環樹)
 ブラウントラウトほか11件 (石原龍雄)
 ハクセンスズメダイほか3件 (前田達郎)
 クマサカフグほか3件 (山崎哲也)
 ウグイほか44件 (東京建設コンサルタンツ)
 ホオジロザメ1件 (布施友輝)
 ワスケトラギスほか141件 (野村智之)
 コモンハタ1件 (尾崎 透)
 ミヤコテングハギほか28件 (下光利明)
 イトヒキアジ2件 (下光利明)
 クロスタウナギ2件 (松本紀彦)
 ドジョウ3件 (米沢俊彦)
 ヤイマヒラヨシノボリほか4件 (鈴木寿之)
 リュウキュウナミノコハゼほか32件 (山川宇宙)
 ギンザメほか5件 (山川宇宙・手良村知功)
 イナズマタテガミカエルウオ1件 (高瀬 歩)
 ヨコスジカジカほか22件 (志賀靖弘)
 リュウキュウヒメジ近似種ほか17件 (尾川泰将)
 ワニエソほか328件 (横浜市環境科学研究所)
 ロクセンフエダイほか238件 (桜井 雄)
 ダイダイイソミズハゼ2件 (池田祐二)
 ロクセンスズメダイほか8件 (津田幸彦)
 マガレイほか37件 (坂本幸博)
 ヒモハゼほか94件 (緒方悠輝也)
 ヒメダツほか40件 (宮崎佑介)

[哺乳類] 合計 202件

ニホンザル61件
 ヤブイヌほか4件
 ニホンザル5件
 ハクビシンほか4件
 タヌキ1件
 ニホンジカ1件
 ムササビほか28件
 ニホンザル6件
 ヒミズ1件
 ハンドウイルカほか33件
 ニホンイノシシ1件
 ホホンザル34件
 ヘヌキ1件
 トホンイタチ1件
 チゾシカ1件
 リンザンコウ属1種1件
 スザルほか2件
 ルクビシン1件
 ラホンテンほか2件
 ワホンイタチ1件
 カーラ属の1種1件)
 ヨヌキ1件

ハクビシン1件
 ニホンイノシシ1件
 ホッサーパンダほか6件
 ヘライグマ1件
 トホンノウサギほか2件

[鳥類] 合計 31件

セキショクヤケイほか20件
 トビほか10件
 ヤマドリ1件

[両生類] 1件

ヌマガエル1件

[爬虫類] 合計 8件

ヒガシニホントカゲ1件
 ニホンカナヘビ1件
 アカウミガメ1件
 アカウミガメ1件
 ヤマカガシほか4件

[軟体動物] 合計 2,640件

アデヤカグルマ1件
 シロスジグルマ1件
 ミジンツツガイほか2件
 ワニガイほか2,325件
 トクサオカチョウジガイ12件
 ソメワケヘビガイ1件
 マルタニシ2件
 イボキサゴ23件
 ワライロナワメグルマ2件
Petalocochus 属の一種1件
 ムカデガイ科・種未同定1件
 ヒラマキナワメグルマほか3件
 コマガタナワメグルマ1件
 ミジンギリギリツツほか6件
 セワリミミズほか17件
 コマガタナワメグルマ4件
 ムカデガイ科・種未同定1件
Trochomodulus catenulatus (Philippi, 1849)ほか4件
 クルマガイ科・種未同定1件
 イトマユイガイ1件
Helicac 属の一種1件
 ソメワケヘビガイほか5件
 シロスジグルマほか13件
 リュウキュウヒバリほか140件
Stiracolpus pagoda (Reeve, 1849)1件
 ゴシヨグルマほか8件
 ヒラマキナワメグルマ1件
 リュウキュウムカデガイほか36件
Architectonica nobilis Roding, 1798 1件
Tenagodus weldii (Tenison-Woods, 1876)4件
 ニヨリマキミゾグルマほか3件
 ヒクナワメグルマほか1件
 ヒグルマガイ1件
 ムカデガイ科・種未同定ほか2件
 チドリマスホウほか2件
Modulus modiolus (Linnaeus, 1758)5件
Petalocochus nigricans (Dall, 1884)1件
 クルマガイ科・種未同定ほか2件
 ウスバグルマ1件
 オオカラミミズほか3件

[甲殻類] 合計 133 件
コンジテンナガエビほか 127 件
ウオノエ科・種未同定 1 件
Thamneus rostratus Bovallius, 1887 5 件

[動物その他] 合計 1 件
コンジテンナガエビ 1 件

[昆虫] 合計 5,133 件
ヒメバチ科の 1 種 1 件
オオツヤセイボウ 1 件
ワモンヒラタハバチほか 10 件
ネギオオアラメハムシ 1 件
ネギオオアラメハムシ 1 件
ミカドアリバチ 1 件
アマシマトガリヒメバチほか 5 件
ヒカゲチョウ 1 件
ゴマダラカミキリ 1 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 11 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチ 1 件
ヒメオオクワガタ 1 件
ゴマダラカミキリ 1 件
キマダラルリツバメ 5 件
ミナミキイロケアリほか 15 件
ゴムシほか 2 件
ヒメウラナミシジミほか 2 件
ワタセカギバラアリほか 94 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチ 1 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 15 件
ケシゲンゴロウ 1 件
ルイスヒトホシアリバチほか 268 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 2 件
ミヤマクワガタほか 2 件
ミヤマクワガタほか 16 件
ミヤマクワガタほか 3 件
オオゴマシジミ 1 件
ユウヤケトガリヒメバチほか 2 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチ 1 件
ムラサキツバメほか 5 件
カブトムシほか 4 件
ルリウラナミシジミほか 22 件
キスジアシナガハバチ 1 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 23 件
ヒメバチ科の 1 種 2 件
ワモンヒラタハバチほか 1964 件
ヒメバチ科の 1 種ほか 7 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 2 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 4 件
ミヤマクワガタほか 2 件
ツマジロウラジャノメ 5 件
シロオビヒメヒカゲほか 3 件
ミノウスバトガリヒメバチほか 2 件
ミヤマホソトガリヒメバチほか 2 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチ 1 件
ルリチュウレンジほか 229 件
メヤマクワガタ 1 件
ミロオビヒカゲ 1 件
シヤマクワガタほか 11 件
エギハトガリヒメバチ 1 件
ヒラサキシジミ 23 件
モヤマホソトガリヒメバチ 2 件
セヤマホソトガリヒメバチ 1 件
スブトムシほか 3 件

ヒメバチ科の 1 種ほか 4 件
ユウヤケトガリヒメバチ 4 件
ワシバナヒメキクイゾウムシほか 864 件
ヤクシマツヤアシプトヒメバチ 13 件
ヒメバチ科の 1 種 1 件
ミヤマシロモンヒラタヒメバチほか 4 件
トビイロケアリほか 32 件
ユウヤケトガリヒメバチほか 6 件
ミノウスバトガリヒメバチ 1 件
ムネアカオオアリ 1 件
ルリマルクビゴミムシほか 1413 件
ムラサキヘリトリヒメバチ 1 件
エゾハイイロハナカミキリ 1 件
ヤクシマツヤアシプトヒメバチ 1 件

[化石] 合計 54 件
哺乳類の足跡 1 件
サンタナ層産魚類化石 12 点
リュウグウハゼほか 41 件

[岩石] 合計 2,127 件
サフィリン金雲母岩ほか 1006 件
花崗岩質片麻岩ほか 156 件
黒雲母岩ほか 14 件
テルカリ玄武岩 1 件
優黒質ネフェリナイトほか 128 件
アフィリングラニュライト 1 件
金雲母ランプロアイトほか 17 件
玄武岩ほか 76 件
片麻岩ほか 15 件
サフィリングラニュライトほか 80 件

片麻岩質花崗岩ほか 80 件
片麻岩ほか 225 件
尖晶石超苦鉄質岩ほか 86 件
片麻岩ほか 45 件
静岡県静岡市駿河区石部の砂 1 件
神奈川県中郡二宮町二宮の砂 1 件
神奈川県中郡二宮町山西の砂 1 件
神奈川県小田原市西酒匂の砂 1 件
香川県小豆郡土庄町銀波浦の砂 1 件
岩手県一関市東山町の砂ほか 7 件
神奈川県茅ヶ崎市南湖の砂 1 件
高知県宿毛市藻津の砂ほか 5 件
埼玉県長瀨町大字長瀨の砂 1 件
千葉県銚子市の砂ほか 11 件
神奈川県藤沢市片瀬海岸の砂 1 件
アメリカ合衆国ハワイ州の砂ほか 5 件
千葉県市原市田淵の砂 1 件
神奈川県平塚市南金目の砂 1 件
神奈川県横浜市金沢区海の公園の砂 1 件
山梨県北杜市大泉町谷戸の砂 1 件
伊豆一小笠原弧の海底の砂ほか 154 件
アメリカ合衆国カリフォルニア州の砂ほか 3 件
神奈川県足柄上郡松田町の砂 1 件

[鉱物] 合計 71 件
滑石 (透閃石) ほか 26 件
カンラン石 1 件
湯河原沸石 1 件
種山石ほか 2 件
堇青石ほか 24 件

剥沸石ほか 15 件
硫砒鉄鉱ほか 2 件

[地質・ボーリング] 合計 1 件
田穂ボーリングコア 1 件

[魚類写真] 8,524 件
トビハタ 1 件(山田和彦)
オキセミホウボウ 1 件(さかなクン)
ルチャヌス・グッタートゥスほか 9 件(サトシ フジタ)
ルチャヌス・アルゲンティベントリスほか 8 件(ファビアン・カス
ティージョ・バルダレス)
マダラギンボほか 2 件(マリンバイオ部 (横岡和典))
ヒメウツボほか 2 件(渥美由紀子)
スクールマスターほか 9 件(安村春香)
レンテンヤッコほか 588 件(安田富士郎)
チャイロマルハタほか 5 件(伊地知勇弥)
ニセクロホシフエダイほか 2 件(伊東哲雄)
ネズボ科未同定属未同定種ほか 2 件(伊藤明美)
ブリオレピス・ヌチファスキアータ 2 件(井越幸夫)
イトフエフキほか 2 件(井上存夫)
サクラダングウオ 1 件(井上美紀)
ヒポカンパス・バージバンティほか 11 件(益田智史)
ワニギスほか 340 件(園山貴之)
マダラエイほか 14 件(下関市立しものせき水族館)
オビブダイ 1 件(下光利明)
イシダイほか 2 件(下瀬 環)
トゲメギス 1 件(下村 淳)
トラフグ属未同定種ほか 2 件(加藤智晴)
ワキヤハタほか 209 件(河野光久)
チャイロマルハタ 1 件(海老澤洋平)
メカジキほか 4 件(柿野敦志)
ピオラリボンスズメダイほか 3 件(笠井雅夫)
ツルウバウオほか 2 件(笠井未来)
ワニエソほか 188 件(株式会社海洋リサーチ)
ホタテウミヘビ 1 件(関水龍男)
マハタ属未同定種 1 件(丸田定敏)
フタゴハゼほか 2 件(丸木敏裕)
ユリウツボほか 2 件(岸岡正伸)
ヨロイメバルほか 70 件(旗 薫)
マハタ属未同定種 5 件(亀井重範)
ハマフグ 1 件(吉田俊司)
クダヤガラほか 4 件(久志本鉄平)
ハクテンヘビギンボ 1 件(宮本克己)
ワヌケトラギスほか 5 件(橋本郁代)
ウツボ属未同定種 1 件(橋本博典)
ヒメハゼほか 16 件(玉井健太)
クエ 1 件(近田憲男)
ニシキハナダイ 1 件(金井恵美)
トラキノータス・ロドプス 1 件(熊谷栄明)
ホシモンガラほか 9 件(栗木博司)
イシダイ×イシガキダイ 1 件(恵木慎一)
ロクセンヤッコほか 2 件(兼平恵実)
ユキフリソデウオほか 17 件(御宿昭彦)
キビレカワハギ 1 件(御宿明彦)
ハシナガウバウオほか 11 件(御所真一郎)
ヨコスジイシモチほか 11 件(工藤孝浩)
ドロメほか 4 件(江藤幹夫)
ツバクロエイ 1 件(荒川武夫)
ルリボウズハゼほか 177 件(荒尾一樹)
バラフエダイほか 5 件(高橋侑大)
ベニハゼ属未同定種ほか 2 件(高瀬 涉)
シロオビブダイほか 4 件(高田菜穂子)

ウナギギンボほか 2 件(黒柳都夫)
ミナミウツボほか 3 件(今関真二郎)
フチドリカワハギほか 9 件(今川 郁)
カイエビス 1 件(根岸伸之)
ロングフィン・シルバーサイドほか 534 件(佐原良祐)
パラケイリヌス・リネオプンクタータスほか 2 件(佐々木要)
マゴチ 1 件(佐藤賢治)
シロオビハゼほか 5 件(佐藤 陽)
サンシャイン・バスほか 2 件(細谷和海)
ヤッコエイ 1 件(細田ゆりえ)
ヒシヒレオオモンハゼほか 2 件(細木祐子)
トビハタ 2 件(崎山直夫)
ヨメゴチほか 45 件(笹川 勉)
ヤミハゼほか 4 件(笹川美紀)
リュウグウハゼほか 13 件(三井翔太)
ヒナギンボほか 2 件(三浦 洋)
コモンハタほか 2 件(三宮重徳)
ユリウツボほか 3 件(山口県水産研究センター)
セジロノドグロベラ 1 件(山口耀一郎)
ロウニンアジ 5 件(山崎公裕)
ヒキマユメイチほか 2 件(山崎大悟)
カタボシオオモンハゼ 1 件(山田智恵子)
ウバウオ科未同定属未同定種 1 件(山田礼彦・智恵子)
トビハタ 1 件(山田和彦)
ミヅレフグほか 11 件(山之上政文)
ユカタハタほか 56 件(山本 敏)
サクラダイ 1 件(山本 龍)
ワヌケフウリュウウオほか 21 件(山本健也)
ハナキンチャクフグ 1 件(糸井泰久)
ツキチョウウオほか 6 件(柴田美奈子)
マゴチほか 40 件(緒方悠輝也)
ニベほか 10 件(小杉正則)
スジブチスズメダイ 1 件(小倉直子)
ホシゴンベほか 7 件(小野 均)
シイラ 1 件(小林修一)
ワヌケフウリュウウオほか 102 件(小林知吉)
オオクチュゴイ 1 件(松吉 仁)
ワヌケモンガラドオシ 1 件(松田早代子)
ニセタカサゴほか 3 件(松田裕一)
ミホノハゴロモハゼ近似種 3 ほか 13 件(松野清伯)
ブルーストライプト・グラントほか 18 件(上野麻衣子)
ブルーヘッドほか 13 件(新井陽子, 菊田詩織, 松本啓太)
マゴチ 1 件(新倉弘基)
モヨウフグ属の 1 種 1 件(新野 大)
ブルボナリクス・ダバオエンシス 1 件(森下 修)
モンズズメダイほか 4 件(森丘 聡)
ベニハゼ属未同定種ほか 3 件(森山 敦)
ツチホゼリ 1 件(森 泰貴)
ムロアジほか 4 件(森田康平)
ウロブテリギウス・ポリスビルス 1 件(森 朗遥)
ネムリブカ 1 件(須田大湖)
ゴマアイゴ 1 件(水流拓馬)
マサバ 2 件(西野 敬)
ニセタカサゴ 1 件(齊藤貴伸)
モンツキハギほか 3 件(石崎宏人)
カエルアンコウ 1 件(石川陽子)
トビハタ 1 件(川村)
クロシビカマスほか 3 件(浅田宣裕)
アザハタ 1 件(前田達郎)
タコベラほか 2 件(足立 淳)
ムロアジほか 16 件(村瀬敦宣)
ホワイトスポテッド・ガーデンイール 1 件(大原 拓)
サクラテンジクダイ 1 件(大山貴弘)

ヤセオコゼほか2件(大田寿行)
 コショウダイ1件(地元の釣り人)
 ヒキマユメイチほか2件(中島 衛)
 フタゴハゼ1件(長嶋祐成)
 ロクセンズメダイほか27件(津田幸彦)
 プテラゴグス・フラジェリフェルほか9件(津波古 健)
 ヒチビキ1件(田村有子)
 ナガサギほか3件(田中翔大)
 マメイソハゼほか6件(渡邊浩昭)
 ミナベヒメジ1件(藤田孝博)
 クロアジモドキ1件(藤田晴大)
 オオニベ1件(藤野千賀子)
 ウメイロ1件(内山高典)
 ワヌケフウリュウウオほか309件(内田喜隆)
 ラブカ1件(内藤美咲)
 ワヌケトラギスほか2245件(内野啓道)
 ロクセンズメダイほか1167件(内野美穂)
 カエルアンコウモドキ1件(任 賢治)
 モンツキウシノシタ1件(白川直樹)
 サクラマス1件(畑間俊弘)
 マハタ属未同定種ほか2件(畑中 薫)
 サンゴタツ3件(八木克憲)
 ムラソイほか11件(尾川泰将)
 ニゲミズチンアナゴ1件(布目将則)
 ムネアカクチビほか4件(武田淳悟)
 ヨコシマクロダイほか4件(武田祐二)
 テンジクタチ1件(福吉 幸)
 ヤエヤマギンポほか13件(福原友広)
 ウチウミマダラエソ1件(福田文治)
 ベニハゼほか2件(平野航太郎)
 チャイロマルハタ1件(碧木健人)
 スメリテンジクダイほか3件(豊川健人)
 シマアジ1件(本間伸弥)
 インドアカタチほか3件(名倉 盾)
 ロクセンヤッコほか1747件(野村智之)
 パンダダルマハゼ1件(矢萩はな)

ゼブラ・バットフィッシュ1件(矢野惟親)
 ゴマフエダイ2件(柳瀬弘和)
 シマハナビラウオ1件(柳田満彦)
 ミカゲハゼほか11件(有馬啓人)
 ヨコスジカジカほか35件(落合晋作)
 ヨゴレマツカサほか14件(立崎憲一)
 ワニギスほか18件(鈴木香里武)
 ヤマブキベラほか61件(鈴木美智代)
 ムスジガジほか29件(和田俊章)
 ホシフグほか3件(和田正昭)
 ブダイ1件(國森拓也)
 マヅリアイゴ1件(廣島 望)
 ゲッコウスズメダイ1件(高瀬 歩)

[哺乳類写真] 合計 2件
 シベリアイタチ(チョウセンイタチ) 1件
 ニホンカモシカ1件

[鳥類写真] 合計 18件
 アオバトほか16件
 アオバト1件
 ドバト1件

[両生類写真] 合計 18件
 ハコネサンショウウオほか10件
 ヤマアカガエルほか3件
 モリアオガエルほか4件
 ウシガエル1件

[爬虫類写真] 合計 11件
 ヒガシニホントカゲほか7件
 アオウミガメほか1件
 ホンスッポンほか2件
 ニホンシシガメほか1件

4.1.4. 職員採集その他による資料（新たに登録されたもの）

<標本>

分野	登録件数	分野	登録件数
維管束植物	162	昆虫	949
植物群落	0	クモ	0
コケ	0	化石	1,144
菌類・変形菌類	160	岩石	43
藻類	0	鉱物	2,854
植物その他	0	地質・ボーリング	1
魚類	1,512	はぎ取り	0
哺乳類	286	地学その他	0
鳥類	12	衛星画像	0
両生類	9	合計	7,280
爬虫類	30		
軟体動物	87		
甲殻類	31		
動物その他	0		

<アーカイブズ>

分野	登録件数
植物標本写真	0
魚類写真	771
哺乳類写真	14
鳥類写真	355
両生類写真	4
爬虫類写真	7
昆虫写真	0
クモ写真	0
衛星処理画像	4
景観画像	0
博物館活動	4,069
菌類細密画	0
甲殻類細密画	67
合計	5,291

4.2. 図書資料収集状況

2019年度に受け入れた和書の冊数は、購入が175冊、寄贈が1,215冊、編入が2冊であった。

洋書については、購入が14冊、寄贈が127冊であった。受入図書の合計は1,533冊である。そのほかCD-ROMの寄贈が2タイトルであった。

2019年度受入図書(冊)

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	175	1,215	2	0	1,392
洋書	14	127	0	0	141
合計	189	1,342	2	0	1,533

2020年3月31日現在の所蔵資料総数

分野	登録数	
国内刊行図書	30,221	(冊)
国外刊行図書	4,727	(冊)
購入国内雑誌	14	(タイトル)
購入国外雑誌	10	(タイトル)
寄贈国内雑誌	3,254	(タイトル)
寄贈国外雑誌	683	(タイトル)
ビデオソフト	332	(巻)
CD-ROM	68	(タイトル)
マイクロフィルム	34	(リール)
合計	39,343	(点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 研究目的の利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を閲覧、計測、撮影、掲載などに利用することが可能である。2019年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本、レプリカ等

画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性：標本情報

種別	利用	閲覧			撮影			解析			特別利用その他			合計			
		人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	
動物	哺乳類	標本						5	7	36				5	7	36	
		画像															
		属性															
		小計						5	7	36				5	7	36	
	鳥類	標本															
		画像															
		属性															
		小計															
	両生類 爬虫類	標本	2	10	10	7	59	64	1	4	4				10	73	78
		画像															
		属性															
		小計	2	10	10	7	59	64	1	4	4				10	73	78
	魚類	標本				4	24	24	59	2,195	3,432	2	142	142	65	2,361	3,598
		画像							36	223	328	15	46	60	51	269	388
		属性							5	7,755	9,856				5	7,755	9,856
	小計				4	24	24	100	10,173	13,616	17	188	202	121	10,385	13,842	
昆虫	標本							11	2,516	2,516				11	2,516	2,516	
	画像																
	属性																
	小計							11	2,516	2,516				11	2,516	2,516	
軟体動物 甲殻類 その他動物	標本							20	107	993				20	107	993	
	画像																
	属性																
	小計							20	107	993				20	107	993	
植物	標本	55	55	55				2	9	13				57	64	68	
	画像																
	属性																
	小計	55	55	55				2	9	13				57	64	68	
菌類	標本							4	103	107				4	103	107	
	画像																
	属性																
	小計							4	103	107				4	103	107	
古生物	標本	5	11	11	1	2	2	2	3	3				8	16	16	
	画像							1	1	1	1	1	1	2	2	2	
	属性																
	小計	5	11	11	1	2	2	3	4	4	1	1	1	10	18	18	
地球環境	標本										1	1	1	1	1	1	
	画像																
	属性																
	小計										1	1	1	1	1	1	
博物館	画像																
	属性																
	小計																
合計		62	76	76	12	85	90	146	12,923	17,289	19	190	204	239	13,274	17,659	

4.3.2. 研究目的以外の利用

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を借用し、展示、教材利用、掲載・放映などに利用することができる。2019年度の館外貸出し利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等

画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性：標本情報

種別	利用	展示			教材			掲載・放映			館外貸出その他			合計			
		人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	
動物	哺乳類	標本	7	19	21	5	32	35	2	2	2			14	53	58	
		画像							1	2	2			1	2	2	
		属性															
		小計	7	19	21	5	32	35	3	4	4			15	55	60	
	鳥類	標本	3	10	11	1	25	36	1	1	1			5	36	48	
		画像															
		属性															
		小計	3	10	11	1	25	36	1	1	1			5	36	48	
	両生類 爬虫類	標本	3	11	13	1	1	1						4	12	14	
		画像															
		属性															
		小計	3	11	13	1	1	1						4	12	14	
	魚類	標本				2	4	8						2	4	8	
		画像	7	44	44	1	5	6	26	58	63	1	2	2	35	109	115
		属性															
		小計	7	44	44	3	9	14	26	58	63	1	2	2	37	113	123
	昆虫	標本	1	2	4									1	2	4	
		画像															
		属性															
		小計	1	2	4									1	2	4	
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本															
画像								3	8	8			3	8	8		
属性																	
小計								3	8	8			3	8	8		
植物	標本	5	34	34									5	34	34		
	画像	1	6	6				1	3	3			2	9	9		
	属性							1	1	1			1	1	1		
	小計	6	40	40				2	4	4			8	44	44		
菌類	標本							1	1	1			1	1	1		
	画像																
	属性																
	小計							1	1	1			1	1	1		
古生物	標本	6	105	188	5	27	99	1	1	1			12	133	288		
	画像				1	3	3	6	14	14			7	17	17		
	属性																
	小計	6	105	188	6	30	102	7	15	15			19	150	305		
地球環境	標本	11	71	115	4	21	25						15	92	140		
	画像	2	3	3	3	6	6	15	65	65			20	74	74		
	属性																
	小計	13	74	118	7	27	31	15	65	65			35	166	214		
博物館	画像							1	13	13			1	13	13		
	属性																
	小計							1	13	13			1	13	13		
合計		46	305	439	23	124	219	59	169	174	1	2	2	129	600	834	

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2019年6月17日から21日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン15%、テトラフルオロエタン85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。これに伴い博物館展示室も、同期間閉館とした。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、書籍などを対象とし13回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れ支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施（予定）された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会(博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会)

講演名と内容	実施日	実施場所	対象者	講師	所属	受講数
特別展関連講演会 アオバトのふしぎ -ようこそアオバト楽会へ- ・アオバトの基本 ・アオバト面白写真館 ・アオバト楽会	8/10(土) 13:30-16:00	SEISA ミュージアム シアター	一般	金子典芳 斎藤常實	こまたん	185
特別展関連講演会 生き物のふしぎ ・「鳥たちの旅—おどろきの旅路を探る—」 ・「ジャングルの動物と塩の話」 ・「すぐそこにある、生きものの不思議」	10/19(土) 13:30-16:20	SEISA ミュージアム シアター	一般	樋口広芳 松林尚志 秋山幸也	東京大学名誉教授 東京農業大学農学部教授 相模原市立博物館学芸員	121
企画展関連講演会 ゴンドワナ大陸を語る	3/22(日)	SEISA ミュージアム シアター	一般	白石和行 有馬 眞	元国立極地研究所長 横浜国立大学名誉教授	次年度 に延期
合 計						306

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講数
魚の会（うおのかい） 令和元年度第1回講演会 「拝啓ヤドカリ様—もっと知りたいので質問します—」	5/26(日) 14:30-15:30	西側講義室	奥野淳兒	千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員	40
魚の会（うおのかい） 令和元年度第2回講演会 「メガマウスザメ—未知の巨大ザメの最新情報—」	8/18(日) 14:30-15:30	西側講義室	仲谷一宏	北海道大学・名誉教授	86
神奈川昆虫談話会 講演会 ・荒俣 宏氏と館野 鴻氏による座談会 「博物学的ワンダーを求めて……お菊虫かよ！」 ・館野 鴻氏によるスペシャル講演 「絵本作りのための昆虫観察日記・それから」	8/25(日)	SEISA ミュージアム シアター	荒俣 宏 館野 鴻		100
箱根ジオパーク推進協議会 シンポジウム 「箱根ジオパーク×日本遺産 “箱根八里”」 「箱根ジオパークから生まれた日本遺産 “箱根八里”」 「日本遺産 “箱根八里” を歩く」	9/15(日)	SEISA ミュージアム シアター	鈴木康弘 辻 真人	箱根町立郷土資料館館長 三島市教育委員会郷土文化財室主幹	65
箱根ジオパーク推進協議会 ワークショップ 「小田原ちようちんづくり」	9/15(日)	西側講義室	箱根町職員	箱根町企画課	26

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講数
箱根ジオパーク推進協議会 一般講座 「戦国・江戸時代を支えた石」 基調講演「石材として使われた箱根火山の石とは」 特別講演「小田原の石切（石工）と石丁場」	10/19(土)	東西講義室	山下浩之 佐々木健策	当館学芸員 小田原城天守閣学芸員	75
日本トンボ学会 公開シンポジウム 「沈黙の春再来！深刻化するネオニコチノイド系農薬の環境影響」 ・ネオニコチノイド系農薬が与えるミツバチ、水圏生態系への影響と環境化学と保全生態学のコラボレーション ・アカトンボの激減から発覚したネオニコチノイド系農薬の問題 ・明らかになってきた希少水生昆虫生息地におけるネオニコチノイド系農薬の汚染実態	11/17(日)	SEISA ミュージウムシアター	亀田 豊 二橋 亮 荻部治紀	千葉工業大学 産業技術総合研究所 当館学芸員	135
魚の会（うおのかい） 令和元年度第3回講演会 「日本のカニ類研究と酒井恒（さかい つね）博士」	11/24(日) 14:00-15:00	西側講義室	一寸木 肇	大井町教育委員会おおい自然園園長	39
温泉地学研究所との共催 火山防災に関する国際講演会 「火山と共生を目指して」 ・Identifying and effectively communicating about volcanic unrest in New Zealand ・Living in harmony with New Zealand's volcanoes:Balancing tourism, social values, land use, and hazards around caldera and cone volcanoes ・最近の日本の噴火活動と火山防災の課題	1/16(木) 14:00-16:30	SEISA ミュージウムシアター	Sally Potter Graham Leonard 藤井敏嗣	ニュージーランド地質・核科学研究所 ニュージーランド地質・核科学研究所 山梨県富士山科学研究所	244
酒匂川水系の環境を考える会との共催 第19回 自然環境シンポジウム ・神奈川県植物誌調査からわかること ・昆虫類の多様性と生態系管理 ・淡水魚と生物多様性…市民ができること ・生物多様性の保全と復元を考える～行政と市民の連携	2/16(日) 13:00-16:30	SEISA ミュージウムシアター	田中徳久 岸 一弘 勝呂尚之 守屋輝彦	当館学芸員 茅ヶ崎野外自然史博物館顧問 神奈川県水産技術センター 内水面試験場研究員 元神奈川県自然環境保全審議会委員	138
魚の会（うおのかい） 令和元年度第4回講演会 「ヨシノボリあれこれ」	2/16(日) 14:00-15:00	西側講義室	鈴木寿之	大阪市立自然史博物館外来研究員	55
国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共催 第8回 海と命と地球をめぐる公開講演会 なぜ大噴火は起きるのか？～「陸の火山」と「海の火山」から探る～ ・大規模噴火と火山灰-南九州のカルデラ地域の爆発的噴火史- ・海底に刻まれた火山活動の痕跡	3/15(日) 14:00-16:20	SEISA ミュージウムシアター	西澤文勝 羽生 毅	当館学芸員 JAMSTEC 主任研究員 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	中止
神奈川県学会との共催 第8回神奈川の地学広場 ・食用廃油実験で描かれた3,020枚の絵に見られる特徴と傾向	3/20(金・祝) 13:00-16:20	西側講義室	笠間友博	箱根ジオミュージウム ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	中止
合 計					1,003

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分け記載した。

(同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。神奈川県総合教育センターの研修として受講した人数は研修欄にその人数を記載した。)

【当日受付の講座】

2講座のべ2日間実施、参加者728名

通No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	参加者数
1	夏休み昆虫ひろば	8/10(土)	西側講義室	幼児～成人	渡辺恭平 荻部治紀	444
2		8/24(土)				284

【事前申込が必要な講座】

募集41講座のうち、雨天・荒天等による中止2講座、実施は39講座、参加者延べ数724名

通No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数	研修者
1	植物図鑑の使い方～春の花編～ 気になる花しらべ	4/20(土)	博物館	小学4～6年生と保護者、中学生～成人	大西 亘	30	48	27	-
2	磯の生きものウォッチング ※IGES 国際生態学センターとの共催	4/21(日)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生と保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	115	35	-
3		5/19(日)				40	107	34	-
4	春の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催	4/27(土)	新治市民の森 (横浜市緑区)	小学生と保護者、 中学生～成人	田中徳久 大西 亘 石田祐子	40	50	35	-

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定 員	応 募 数	受 講 数	研 修 者
5	神奈川トンボ調査隊	4/27(土)	厚木市	小学生と保護者 中学生～成人	荻部治紀 渡辺恭平	20	68	18	-
		5/12(日)	相模原市					15	
		6/2(日)	厚木市					中止	
		7/21(日)	海老名～厚木市					10	
		9/8(日)	相模原市					6	
		10/5(土)	愛川町					中止	
		12/8(日)	博物館					11	
6	化石講座 ～ゾウ化石を調べよう～	4/28(日)	博物館	中学生～成人	樽 創	10	16	10	-
		5/26(日)						14	
		9/15(日)						11	
		11/10(日)						7	
		12/8(日)						8	
7	春の地形地質観察会 ～湯河原の石材を、自然科学的、人文科学的視 点で見よう～	5/3(金祝)	鍛冶屋 (湯河原町)	小学4年生～成人	山下浩之 新井田秀一 西澤文勝 丹治雄一(県 立歴史博物館)	30	223	29	-
8	おやこで貝がらをしろう	5/5(日祝)	博物館	小学生と保護者	佐藤武宏 田口公則	20	31	15	-
9		5/5(日祝)				20	16	11	-
10	親子でノジュール割りに挑戦 ～ボリビア産の化石をしらべよう～	5/6(月休)	博物館	小学4～6年生と 保護者	田口公則	18	94	18	-
11	オタマジャクシを顕微鏡で観察してみよう	5/11(土)	博物館	小学生～成人	松本涼子	13	39	8	-
12		5/12(日)				13	40	8	-
13	デジカメ片手に展示を楽しもう ～展示見学ポートフォリオづくり挑戦～	5/18(土)	博物館	小学4～6年生と 保護者、中学生	田口公則	10	3	3	-
14	初夏の昆虫観察会	5/26(日)	県西部里山	小学4～6年生と 保護者、中学生～ 学生・大学院生	渡辺恭平	20	48	17	-
15	貝殻のふしぎを調べよう	ホタテ 7/21(日)	博物館	小学4年生～成人	田口公則	12	15	9	-
16		アワビ 7/28(日)				12	24	13	-
17		いろいろな巻貝 8/4(日)				12	41	9	-
18	基本を知りたい指導者のための貝殻ワークシ ョップ	7/23(火)	博物館	保育士・幼稚園、小 学校等教諭	佐藤武宏	12	4	4	3
19	先生のための岩石プレパラート観察講座	7/24(水)	博物館及び周 辺の河原	教員	山下浩之	12	13	11	6
20	きのこさがし	7/26(金)	博物館及びそ の周辺	小学1～3年生と 保護者、小学4年 生～中学生	折原貴道 大西 亘	25	120	18	-
21	展示見学ポートフォリオづくり(教員向け)	7/29(月)	博物館	教員	田口公則	10	4	4	2
22		7/30(火)						4	2
23	海辺の野鳥観察会	8/3(土)	照ヶ崎海岸 (大磯町)	小学1年生～中学 生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	54	13	-
24		9/7(土)				20	36	16	-
25		10/5(土)				20	20	18	-
26	あなたのパソコンで地形を見る(教員向け)	8/6(火)	博物館	教員	新井田秀一	12	13	12	5
27	きのこの観察と同定	9/8(日)	博物館とその 周辺	中学生～成人	折原貴道 石田祐子	20	46	16	-
28	本当は怖いアメリカザリガニ ～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～	9/14(土)	はるひ野 (川崎市麻生区)	小学生と保護者 中学生～成人	荻部治紀	20	49	12	-
29	川と用水路の生き物を調べよう	9/28(土)	吉田島周辺 (開成町)	小学生と保護者、 中学生～成人	荻部治紀	25	89	16	-
30	秋の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催	9/29(日)	県西部の里山	小学4～6年生と 保護者、中学生～ 学生・大学院生	渡辺恭平	20	28	中止	-
31	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/12(土)	新治市民の森 (横浜市緑区)	小学生と保護者、 中学生～成人	田中徳久 大西亘 石田祐子	40	43	中止	-
32	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/19(土)	博物館	小学4～6年生と 保護者、中学生～ 成人	大西 亘	30	22	17	-
33	アニマルトラッキング入門	10/26(土)	博物館とその 周辺	小学生と保護者	加藤ゆき 松本涼子	20	34	13	-
34	三葉虫ワークショップ ～ノジュールの中の化石をしらべよう～	10/27(日)	博物館	中学生	田口公則	24	5	5	-

通No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数	研修者
34	秋の地形地質観察会	11/3(日祝)	石垣山一夜城(小田原市)	小学4年生～成人	新井田秀一 山下浩之 西澤文勝	30	91	28	-
35	先生のための地層と化石入門2019 ～大磯の地形・石材・化石～	11/9(土)	博物館	教員	田口公則 大島光春	10	10	9	4
		11/10(日)	(大磯町)					9	4
36	あなたのパソコンで地形を見る	11/17(日)	博物館	学生、成人	新井田秀一	8	18	7	-
37	軟体動物のからだのつくりを知らう	12/1(日)	博物館	学生、成人	佐藤武宏	12	17	11	6
38	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座	1/18(土)	博物館	中学生～成人	瀬能 宏	10	11	9	-
1/19(日)		9							
2/1(土)		8							
2/2(日)		8							
39						10	19	8	-
40	ボランティア入門講座	全体講座	1/26(日)	博物館	中学生～成人	46	18	16	-
		分野別講座 1月実施分	1/29(水)					4	
			1/31(金)					6	
		分野別講座 2月実施分	2/1(土)					8	
			2/2(日)					7	
		41	ほねほねパズルで学ぶ動物の骨のかたちとくらし					2/8(土)	
合計								724	32

5.1.3. よろずスタジオ

毎月第3日曜日を除く日曜日に学習指導員による「よろずスタジオ」を開催した。テーマは、恐竜の折り紙ひろば他8講座。また、新たな講座開発を目指し「スタンプラリー クイズでGO!」を2日間試行した。子どもの日、クリスマスの日に対応した折り紙プレゼントを実施した。第3日曜日には、友の会との共催による「よろずスタジオ」を開催した。なお、2月23日以降に予定したよろずスタジオ、ミュージズ・フェスタ2020折り紙プレゼントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

イベント名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	11	東側講義室ほか	子どもと保護者	【学習指導員】	制限なし	1,887	894
博物館のぬり絵広場	4			【企画普及課】		660	331
そらとぶたね	2			【ボランティア】		259	117
生きものフェイスブック	2			博物館教育プログラムボランティア		137	65
けんぴきょうで大発見!	3			小田原短期大学学生		638	315
博物館検定	1					144	73
生きものパズル	5					838	409
ハコフグ帽子のぬり絵	3					450	216
生きものスケッチ	2					244	123
計 9 講座 (延べ 33 回実施)						5,257	2,543

イベント名	実施日	担当者	参加者数	子どもの数
スタンプラリー クイズでGO!	8/22(木)	石浜佐栄子 松本涼子	188	131
	10/19(土)	学習指導員	155	52

講座・イベント名	実施日	実施場所	対象者	担当者	定員	参加人数
こどもの日 折り紙プレゼント	5/4(土祝)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	328
	5/5(日祝)					272
クリスマス 恐竜、トナカイ等折り紙プレゼント	12/25(水)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	183
ミュージズ・フェスタ2020 折り紙プレゼント	3/14(土)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	中止
	3/15(日)					中止
計 3 イベント						783

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数	子どもの数
アンモナイトのレプリカを作ろう！	4/21(日)	東側講義室	子どもとその保護者 その他一般	田口公則	制限なし	85	41
哺乳類ってどんな動物？	5/19(日)	東側講義室		鈴木 聡		77	36
葉脈標本をつくろう！	6/16(日)	実習実験室		友の会スタッフ		102	50
歯のひみつ	9/15(日)	東側講義室		大島光春		98	53
貝殻の中をのぞいてみよう！	10/20(日)	東側講義室		佐藤武宏		52	21
木の実・草の実で楽しい工作	11/24(日)	東側講義室		友の会スタッフ		101	50
ミツクリザメを観察しよう！	12/15(日)	東側講義室		瀬能 宏		162	60
砂とあそぼう	1/19(日)	東側講義室		石浜佐栄子		197	96
昆虫の体を調べてみよう！	2/16(日)	東側講義室		渡辺恭平		156	74
計 9 講座						1,030	481

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談を集計した。

※相談分野は、複数分野に対応したものがあるので合計が相談件数を上回る。

催し物名	実施期間	相談場所	対象者	講師	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/20(土) ～8/18(日)	ミュージアム・ライブラリー	小・中学生	学習指導員	73件

[相談者の地域]

県内				県外	
市町村	件数	市町村	件数	都道府県	件数
横浜市	8	厚木市	3	東京都	9
川崎市	7	大和市	1	静岡県	1
平塚市	2	南足柄市	2	埼玉県	3
鎌倉市	1	二宮町	1	茨城県	1
藤沢市	4	中井町	1	福島県	1
小田原市	17	山北町	2	県外小計	15
茅ヶ崎市	3	箱根町	1	地域不明	1
秦野市	4	県内小計	57	地域合計	73

[学年別]

学年	件数
小学1年	5
小学2年	7
小学3年	13
小学4年	8
小学5年	10
小学6年	14
中学1年	13
中学2年	0
中学3年	3
合計	73

[分野別]

相談分野	件数
物理化学分野	11
生物分野	36
地学分野	24
その他	4
合計	75

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
特別展関連ワークショップ 紙芝居「アオバトたちの大冒険」	7/27(土)	特別展示室	幼児・小学生	大坪 奏 加藤ゆき 広谷浩子	-	-	28
	8/10(土)				-	-	43
	8/24(土)				-	-	27
特別展関連講座 海辺の野鳥観察会	8/3(土)	照ヶ崎海岸 (大磯町)	小・中学生とその保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	54	13
	9/7(土)				20	36	16
	10/5(土)				20	20	18
企画展関連講座 春の地形地質観察会～プレート境界の地形をさぐる～	2020年 5/10(日)	山北駅周辺	小学4年生～成人	山下浩之 新井田秀一 西澤文勝	2020年度事業で実施のため次年度年報に記載		
2019年度実施分の合計							145

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

【博物館内で対応したもの】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
5/23(木)	小学校	火山噴火のメカニズム等に関するはなし	東京学芸大学附属大泉小学校	西澤文勝	10	
5/25(土)	大学	野生動物フィールド実習	日本大学生物資源科学部生物環境工学科	鈴木 聡 広谷浩子	27	
5/25(土)	大学	「景観論」 神奈川県箱根地域の自然	首都大学東京	西澤文勝	15	

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
6/14(金)	高校	菌類・冬虫夏草について特徴や生息場所等の概要	県立神奈川総合産業高等学校	折原貴道	7	
6/29(土)	大学	共生科学実践特別演習Ⅱ	星槎大学共生科学部	田口公則	25	
7/5(金)	小学校	大地のつくりと変化	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	21	
7/6(土)	大学	自然地理学課外授業-バックヤード見学	フェリス女学院大学	西澤文勝	3	
7/22(月)	高校	博物館の社会的意義と役割について	千葉県立長生高等学校	田口公則	46	
7/31(水)	小学校	火山の生成、火砕流等の模擬実験	八王子市小学校科学教育センター	西澤文勝	102	
8/5(月)	大学	箱根の地層について	国際基督教大学自然科学部門	平田大二	9	
8/20(火)	高校	展示・バックヤード見学	県立生田高等学校	西澤文勝	7	
8/21(水)	高校	博物館の展示とバックヤード見学	県立伊志田高等学校	佐藤武宏	10	
9/6(金)	小学校	こん虫のかんさつ	函嶺白百合学園小学校	渡辺恭平	19	
9/20(金)	小学校	流れる水の働き	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	25	
10/4(金)	大学	教職課程(理科)学生の博物館利用教育の実践	日本大学生物資源科学部	田口公則	10	
10/19(土)	大学	地質学野外実習「箱根の地層について」	国際基督教大学自然科学部門	西澤文勝	4	
10/20(日)	高校	Scuola セミナー 博物館で学ぼう! 「植物標本のデータ入力と配架」 「骨から見る動物の成長と進化」	県立希望ヶ丘高等学校	田中徳久 鈴木 聡	11	
10/30(水)	大学	地球化学教室のゼミ	東邦大学理学部	平田大二	7	
10/31(木)	小学校	流れる水のはたらき	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	12	
11/10(日)	大学	教職課程「地学実験」 博物館見学	慶応義塾大学	石浜佐栄子	11	
11/15(金)	大学	教職課程「理科教育法2」講義及び巡検	横浜薬科大学	山下浩之	14	
11/20(水)	高校	生物の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	6	
11/27(水)	高校	生物の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	6	
12/14(土)	大学	教職員課程見学・講義	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	50	
12/18(水)	中学校	総合学習におけるフィールドワーク	湘南学園中学高等学校	新井田秀一	7	
12/22(日)	大学	教職課程「地学実験」	玉川大学農学部	山下浩之	40	
1/17(金)	小学校	ヒトの体のつくりと運動	函嶺白百合学園小学校	広谷浩子	21	
1/31(金)	小学校	総合的な学習の時間「小田原の自然を調べる」	小田原市立酒匂小学校	加藤ゆき 渡辺恭平 瀬能 宏	37	
2/9(日)	大学	自然探索実習	自由学園最高学部(大学部)	広谷浩子	7	
2/19(水)	大学	学外実習「理科教育法特論」	東海大学課程資格教育センター	石浜佐栄子	11	
2/19(水)	中学校	理科学習の総仕上げ-体験学習	函嶺白百合学園中学高等学校	西澤文勝	29	

【依頼元等へ出向いの対応】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/31(金)	中学校	災害と防災教育について	鎌倉女学院中学校	平田大二	鎌倉女学院陸奥ホール
7/2(火)	小学校	小田原の自然を調べる	小田原市立酒匂小学校	鈴木 聡	酒匂小学校 3年
10/11(金)	小学校	はだのエコスクール 「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部	広谷浩子	秦野市立秦野南が丘小学校
10/18(金)	大学	特別講演「自然系博物館の展示」	明治大学	田口公則	明治大学駿河台キャンパス
10/23(水)	小学校	箱根火山の成り立ち現地巡検	自由学園初等部	山下浩之	箱根火山周辺
11/13(水)	大学	実践森林資源科学の特別講演	日本大学生物資源科学部 森林資源科学科	渡辺恭平	日本大学生物資源科学部
12/11(水)	小学校	野鳥観察を学ぶ教室	山北町立三保小学校	加藤ゆき	校地・三保支所付近
12/13(金)	中学校	博物館見学と箱根巡検	武蔵中学校	山下浩之 西澤文勝	大観山、山伏峠、大涌谷
12/20(金)	小学校	理科「大地のつくりと変化」	横浜市立東俣野小学校	西澤文勝	小学校6年生2クラス
1/24(金)	小学校	総合的な学習の時間	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	山下浩之	茅ヶ崎市立浜須賀小学校
2/6(木)	中学校	火山噴火実験	箱根町教育委員会 (箱根町立箱根中学校)	西澤文勝	箱根町立箱根中学校1年

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

職業体験やインターンシップは、総合学習の一環とした取り組みも含まれ、区別することが難しい。進路学習的な取り組みとしての博物館体験を抽出し記載した。活動内容は、学芸員の仕事や資格を得るための進路および展示室、収蔵庫などの見学、行事等への参加を行った。

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
7/31(水)	中学校	中学生職場体験	二宮町立二宮中学校	石浜佐栄子 学習指導員	1

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
8/7(水)	高校	職業体験	函嶺百合学園高等学校	石浜佐栄子 学習指導員	3
8/9(金)	高校	職業体験	函嶺百合学園高等学校	石浜佐栄子 佐藤武宏 田中徳久	3
8/10(土)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/13(火)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/14(水)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/15(木)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/21(水)	高校	高校生インターンシップ	西湘地区公立高校	石浜佐栄子 広谷浩子 松本涼子	4
8/23(金)	高校	高校生インターンシップ	西湘地区公立高校	石浜佐栄子 佐藤武宏 学習指導員	4
9/18(水)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
11/20(水)	中学校	中学生職場体験	小田原市立千代中学校	石浜佐栄子 松本涼子 学習指導員	2
11/27(水)	中学校	中学生校外学習	小田原市立城南中学校	佐藤武宏	1
1/24(金)	中学校	中学生職場体験	小田原市立国府津中学校	石浜佐栄子 加藤ゆき 学習指導員	2

5.2.3. 教員の各種研修受け入れ

総合教育センター研修枠として実施した博物館講座は、52～54 ページに記載したため、表から除いた。

【博物館内で対応したもの】

実施日	内容	依頼元	対応者	人数	備考
7/21(日)	教員社会体験研修	小田原市立泉中学校 小田原市立千代中学校 湯河原町立湯河原小学校	佐藤武宏 田口公則	3	
7/23(火)	教員社会体験研修	県立湘南高等学校 県立小田原東高等学校 大井町立湘光中学校	佐藤武宏 田口公則	3	
7/24(水)	教員社会体験研修	県立湘南高等学校 県立小田原東高等学校 大井町立湘光中学校	山下浩之	3	
7/28(日)	教員社会体験研修	県立舞岡高等学校 秦野市立堀川小学校 大井町立湘光中学校	佐藤武宏	3	
7/29(月)	教員社会体験研修	県立舞岡高等学校 秦野市立堀川小学校	田口公則	2	
7/30(火)	教員社会体験研修	横浜市立領家中学校 湯河原町立湯河原小学校	田口公則	2	
8/4(日)	教員社会体験研修	小田原市立泉中学校 小田原市立千代中学校 秦野市立堀川小学校	佐藤武宏	3	
8/6(火)	教員社会体験研修	小田原市立泉中学校 小田原市立千代中学校 湯河原町立湯河原小学校	新井田秀一	3	
8/16(金)	藤沢市中学校教育研究会理科部会夏季研修会	藤沢市中学校教育研究会	石浜佐栄子	11	
8/19(月)	神奈川県小学校理科研究会臨地研修	神奈川県小学校教育研究会	山下浩之	15	
9/14(土)	理科の授業づくり研修講座 ～博物館・研究所を訪ねて～	県総合教育センター	田口公則	22	

【依頼元等へ出向いての対応】

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
6/7(金)	2年経験者研修講座中学校(理科)	県総合教育センター	山下浩之	総合教育センター善行庁舎
7/24(水)	幼稚園・こども園担任研修会 「生物の生態や飼いや方等について」	平塚市教育委員会	広谷浩子	平塚市教育会館

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2019年度は、大学・学部から16名の実習生を受け入れた。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。(7月受入延べ人数：47人 8月受入延べ人数：97人)

実習日と主な実習内容

全員共通日程 (2日間)

[担当] 企画普及課職員
 [期日] 7月25日(木)、7月26日(金)
 [内容] オリエンテーション、館長講話、常設展示見学、収蔵庫など館内諸施設見学、管理課長、企画普及課長、学芸部長による館の概要・展示内容・研究状況などの説明。

[担当] 荻部治紀・渡辺恭平

[期間] 8月23日～25日、27日～30日

[内容] 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、講座の補助など

◎地球環境グループ (2名)

[担当] 山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝

[期間] 7月31日～8月2日、5日～7日、9日

[内容] 岩石標本整理、ワークショップの実施、講座の補助など

グループ別実習 (7日間)

[担当] 学芸部各グループ (詳細は以下の通り)

◎植物・菌類グループ (2名)

[担当] 田中徳久・大西 亘・折原貴道・石田祐子

[期間] 7月27日、28日、7月30日～8月3日

[内容] 植物・菌類標本の製作、配架、菌類の野外調査など

◎動物グループ (4名)

[担当] 佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・広谷浩子

[期間] 8月4日～7日、9日、10日、12日

[内容] 標本製作、標本整理、標本情報登録など

◎魚類グループ (5名)

[担当] 瀬能 宏

[期間] 7月31日～8月4日、6日、7日

[内容] 魚類標本の製作、撮影、登録、配架、メンテナンスなど

◎昆虫グループ (3名)

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
帝京科学大学 生命環境学部	2
神奈川大学 理学部	3
福山大学 生命工学部	1
琉球大学 理学部	1
東京海洋大学 海洋学部	1
日本大学 生物資源科学部	1
北里大学 海洋生命科学部	2
東京農業大学 農学部	2
八洲学園大学 生涯学習学部	1
明治大学 農学部	1
法政大学 人間環境学部	1
合計	16

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は9大学13件526名の見学実習を受け入れた。

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
5/25(土)	博物館の仕事	東京農業大学農学部野生動物学研究室	鈴木 聡	81
6/7(金)	学芸員養成課程「博物館見学実習」	明治大学	田口公則	14
6/30(日)	展示および標本庫見学	横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科	田口公則	68
6/30(日)	展示見学・講義	都留文科大学	広谷浩子	19
7/13(土)	静岡大学見学実習	静岡大学	佐藤武宏	64

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
7/13(土)	博物館・情報メディア論	北里大学海洋生命科学部	瀬能 宏 大坪 奏	51
8/7(水)	博物館見学実習	日本女子大学	田口公則	8
8/8(木)	博物館見学実習	日本女子大学	田口公則	8
9/22(日)	博物館施設の見学実習	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	45
11/23(土)	博物館資料保存論、バックヤード見学	北里大学海洋生命科学部	佐藤武宏 松本涼子 広谷浩子	70
12/1(日)	博物館見学実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	29
12/15(日)	博物館見学実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	28
2/5(水)	博物館展示論に係る学外実習	日本大学生物資源科学部	新井田秀一	41
合 計				526

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を活かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2019年度のライブラリー利用者は90,877人で、1日平均利用者数は344人であった。レファレンス件数は、来館によるものが95件、電話による問い合わせが1件あった。また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ193件の利用があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	19	27	31	24	24	25	19	20	22	2	264
利用者数	8,420	8,315	6,998	11,009	16,885	8,645	8,536	7,456	3,728	5,436	5,218	231	90,877
平均利用者数	337	320	368	408	545	360	356	298	196	272	237	116	344

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんに、より身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員（非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスをしたり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受

付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、「3.4 レファレンス対応人数」（33ページ）参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっ

ている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、

希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、子ども会、ボーイスカウト、障がいのある方々の施設・団体である。
[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間 15～20 分程度で、学習指導員が展示室の構成や主な展示物の

説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。また、ゴールデンウィーク期間の 9 日間及び夏季期間の 5 日間、一般ガイダンスの「みどころガイド～博物館のここがイチオシ!～」を実施した。

月別ガイダンス対応状況（学習指導員対応）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
件数	23	46	31	38	45	27	55	43	17	23	14	0	362	30.2
人数	1,271	2,291	1,615	1,893	1,849	1,506	3,026	2,117	728	1,031	719	0	18,046	1,503.8

みどころガイド～博物館のここがイチオシ!～実施状況（学習指導員対応）

	午前		午後		参加者数				午前		午後		参加者数		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計		大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計
4/27 (土)	16	6	31	20	47	26	73	7/27 (土)	28	23	31	23	59	46	105
4/28 (日)	18	8			18	8	26	8/3 (土)	19	9	15	2	34	11	45
4/29 (月祝)	32	18	20	12	52	30	82	8/10 (土)	28	22	24	13	52	35	87
4/30 (火祝)	32	23	16	9	48	32	80	8/17 (土)	22	19	18	11	40	30	70
5/1 (水祝)	20	16	27	19	47	35	82	8/24 (土)	32	12	20	14	52	26	78
5/2 (木祝)	29	17	18	9	47	26	73	夏計	129	85	108	63	237	148	385
5/3 (金祝)	30	14	19	11	49	25	74	全計	340	208	256	154	596	362	958
5/4 (土祝)	13	11			13	11	24								
5/6 (月休)	21	10	17	11	38	21	59								
GW計	211	123	148	91	359	214	573								

5.5.3. 団体利用状況

2019年度の団体利用人数は、1,074 団体、53,045 人で、入館者数全体 294,286 人に対する割合は 18.0%であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係(保育園を含む)と学校以外で分類した。

	神奈川県内から		県外・海外から		合計件数	
学校教育	298	27.7%	337	31.4%	635	59.1%
幼稚園・保育園	74	6.9%	14	1.3%	88	8.2%
小学校	143	13.3%	264	24.6%	407	37.9%
小中一貫校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中学校	19	1.8%	11	1.0%	30	2.8%
中高一貫校	2	0.2%	1	0.1%	3	0.3%
高等学校	13	1.2%	13	1.2%	26	2.4%
特別支援校・学級	27	2.5%	10	0.9%	37	3.4%
大学	20	1.9%	24	2.2%	44	4.1%
学校以外	260	24.2%	179	16.7%	439	40.9%
合計	558	52.0%	516	48.0%	1074	100.0%

地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
小田原	2	6	3	15	4	9	4	10	3	3	6	0	65	6.1%
	23	284	59	404	136	156	171	313	85	168	157	0	1,956	3.7%
足柄下	1	1	4	1	1	2	2	2	0	2	3	0	19	1.8%
	18	24	110	21	55	48	53	20	0	30	64	0	443	0.8%
足柄上	0	0	1	3	2	0	7	3	2	1	1	0	20	1.9%
	0	0	11	156	24	0	218	195	33	84	41	0	762	1.4%
二宮・大磯・平塚	3	3	3	8	10	2	15	6	1	4	2	0	57	5.3%
	176	160	64	155	351	29	710	202	10	91	47	0	1,995	3.8%
秦野・伊勢原・厚木	13	6	2	8	8	6	7	12	1	3	4	0	70	6.5%
	1,120	216	26	437	230	255	341	604	16	45	113	0	3,403	6.4%
県央・相模原	5	4	6	7	5	10	29	15	4	4	6	0	95	8.8%
	420	284	103	233	186	896	1,957	1,086	151	177	95	0	5,588	10.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	5	5	6	8	16	1	8	9	3	5	5	0	71	6.6%
	226	166	392	336	637	45	223	602	107	106	182	0	3,022	5.7%
横須賀・三浦・逗子	0	4	0	2	2	3	3	4	1	0	0	0	19	1.8%
	0	328	0	227	21	238	56	178	37	0	0	0	1,085	2.0%
横浜	1	12	20	18	21	10	9	8	7	3	1	0	110	10.2%
	35	596	1,486	912	497	588	451	204	338	167	77	0	5,351	10.1%
川崎	0	0	1	7	4	0	2	3	1	6	3	0	27	2.5%
	0	0	94	385	186	0	32	215	22	369	193	0	1,496	2.8%
県内 全域・地区不明	1	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	6	0.6%
	22	6	0	46	35	0	21	0	0	0	0	0	130	0.2%
東京都	7	28	32	27	23	21	24	25	14	7	5	0	213	19.8%
	887	1,843	1,803	1,566	913	1,192	977	1,567	1,026	498	138	0	12,410	23.4%
千葉県	0	7	2	2	0	13	60	14	1	0	2	0	101	9.4%
	0	188	40	70	0	662	2,994	874	8	0	44	0	4,880	9.2%
静岡県	8	7	3	7	5	6	9	7	3	7	8	0	70	6.5%
	810	819	62	185	112	171	673	237	85	165	270	0	3,589	6.8%
山梨県	1	3	3	4	2	3	10	2	1	0	0	0	29	2.7%
	22	150	68	122	74	201	275	63	87	0	0	0	1,062	2.0%
埼玉県	1	5	4	6	1	7	28	20	1	2	1	0	76	7.1%
	276	382	439	216	24	357	1,792	1,167	40	32	5	0	4,730	8.9%
茨城県	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0.5%
	321	9	0	0	0	92	0	0	26	0	9	0	457	0.9%
その他の道府県	0	7	1	1	1	2	2	3	2	1	1	0	21	2.0%
	0	318	19	65	42	57	51	35	45	19	35	0	686	1.3%
神奈川県合計	31	42	46	78	75	43	87	72	23	31	31	0	559	52.0%
	2,040	2,064	2,345	3,312	2,358	2,255	4,233	3,619	799	1,237	969	0	25,231	47.6%
県外・海外合計	18	58	45	47	32	53	133	71	23	17	18	0	515	48.0%
	2,316	3,709	2,431	2,224	1,165	2,732	6,762	3,943	1,317	714	501	0	27,814	52.4%
合計	49	100	91	125	107	96	220	143	46	48	49	0	1,074	100.0%
	4,356	5,773	4,776	5,536	3,523	4,987	10,995	7,562	2,116	1,951	1,470	0	53,045	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助など

を通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. 展示・普及ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア（現ライブラリーボランティア）」の登録者から希望を募り 2002 年度から始まった活動である。2004 年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、講座修了者が活動に加わっている。

2015 年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている（2019 年度：延べ 69 名）。

5.6.3. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。

2019 年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男	女
実人数 ※	390	198	192
1) 学芸ボランティア	376	184	192
2) 展示・普及ボランティア	59	32	27
3) ライブラリーボランティア	9	2	7

※1)～3)の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。
実人数 390 名のうち、保険加入は 324 名

2019 年度「博物館ボランティア」登録者の内訳及び月別の活動状況

分野		登録数(延べ人数)			活動状況(延べ人数)													
		合計	男	女	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学芸 ボランティア	植物	植物	46	10	36	386	44	41	19	48	21	24	45	43	33	36	29	3
		菌類	54	27	27	422	36	33	35	38	33	47	38	38	39	24	36	25
	動物	哺乳類	40	15	25	203	37	15	23	24	16	12	9	17	14	15	15	6
		両生爬虫類	11	4	7	44	3	6	3	1	1	5	1	0	3	8	12	1
		鳥類	25	10	15	138	14	8	12	37	10	4	11	8	7	14	8	5
		魚類	59	38	21	589	43	48	52	36	75	55	48	58	30	69	53	22
		昆虫	37	29	8	177	19	11	3	13	20	5	10	18	17	26	23	12
		軟体・甲殻類	10	5	5	49	5	7	4	7	2	4	1	6	5	4	4	0
	地球 環境	地学	30	13	17	453	40	35	24	46	41	35	48	47	32	54	47	4
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		古生物	64	33	31	526	58	57	36	50	43	39	42	45	53	39	57	7
	延べ人数		376	184	192	2,987	299	261	211	300	262	230	253	280	233	289	284	85
	展示普及 ボランティア	展示解説	35	23	12	304	21	35	32	29	39	24	23	23	28	30	18	2
誘導案内		8	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
博物館教育プログラム		16	5	11	63	6	11	6	5	4	10	5	5	4	4	3	0	
延べ人数		59	32	27	369	27	46	38	34	43	34	28	28	32	36	21	2	
ライブラリーボランティア		9	2	7	20	4	2	0	3	3	1	2	2	1	1	0	1	
全体延べ人数		444	218	226	3,376	330	309	249	337	308	265	283	310	266	326	305	88	

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2019年度の実施内容は表のとおりである。

[日時]

2020年1月26日(日)～2月18日(火)までの間の2～3日間(分野別の講座が1～2日間)

[募集定員]

学芸8分野41名、教育プログラム5名 計46名

[受講人数]

学芸分野14名、教育プログラム2名 計16名

講座日程

共通講座(初日:2020年1月26日(日))

時間	内容
10:00～10:10	開会、館長あいさつ
10:10～10:40	講義「博物館活動とボランティア」
10:40～12:00	展示室見学・バックヤード見学
13:00～14:30	バックヤード見学・展示室見学
14:30～15:00	現役ボランティアの体験談
15:00～15:10	ボランティアに関する説明と注意
15:10～16:00	各分野の紹介と顔合わせ
16:00	終了(分野別に随時解散)

分野別実習(1月29日～2月18日の1～2日間)

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
植物	1/29(水), 1/31(金)	植物標本作製等	5	2	2	2
植物デジタル資料	1/29(水), 1/31(金)	植物標本の取扱と整理, デジタル資料作成	2	2	2	2
菌類	2/6(木), 2/18(火)	野外調査・観察・標本作製・収蔵	3	0	0	0
哺乳類	2/1(土), 2/2(日)	標本作製(主に計測・解剖)・標本整理	4	4	4	3
鳥類	1/31(金)	標本作製	5	2	2	2
魚類	2/1(土), 2/2(日)	標本作製・整理, 講座の補助等	3	1	1	1
無脊椎動物(貝・カニ)	2/2(日)	標本整理・登録・配架	4	0	0	0
古生物①(貝化石)	1/28(火)	化石資料のラベルや箱の整理・登録・撮影・入力等	5	0	0	0
古生物②(古脊椎動物・植物化石・微化石)	2/1(土)	標本作製、データベース整理	10	3	3	3
博物館教育プログラム	2/2(日)	ワークショップ(よろずスタジオ)の補助等	5	2	2	2
合計			46	16	16	15

5.6.6. ボランティア研修

展示解説・誘導・教育ボランティアで活動中の方々に対し、研修会を実施した。

実施日	研修内容	担当者	参加者	備考
12/4(水)	視覚障がいのある方に対する接し方について	石浜佐栄子 松本涼子	17	
3/3(火)	展示に関する研修	-	-	新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加をよびかけることを目的としている。2019年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。加えて、特別展、企画展広報用公式 Twitter アカウントの作成、有料広告による広報を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展・企画展・観察会などを1年間の開催に合わせポスターやチラシなどを次の表の通り各種催し物を告知するため「催物案内」、イベント

作成月	印刷物名	仕様(規格、印刷、色数)	印刷部数	主な配布先	配布件数
6	特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」ポスター	①B2判オフセット印刷4色刷り ②B3判 館内簡易印刷	1,400	①A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K ②K	920
	特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	62,000	A, B, C, D, F, H, I, J, K	
	特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」招待券	70mm×148mm オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	20,000	B, C, D, E, H, K	
9	連携企画展「箱根を越える～箱根火山と東西交流の歴史～」	A4判 館内簡易印刷	2,500	D, K	4
1	連携企画「東風吹かば令和の春の梅まなび」	A4判 館内簡易印刷	500	H, K	2
1	企画展「 Gondwana～岩石が語る大陸の衝突と分裂～」ポスター	①B2判オフセット印刷4色刷り ②B3判 館内簡易印刷	500	①A, B, C, D, F, G, H, I, J, K ②K	840
	企画展「 Gondwana～岩石が語る大陸の衝突と分裂～」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	30,000	A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K	
2	ミュージズ・フェスタ 2020	A4判 オフセット印刷 片面4色刷り	27,000	A, B, C, D, E, F, H, J, K	340
2	2020年度催し物案内	A3判 オフセット印刷 両面1色刷り	27,000	A, B, C, D, E, F, K	850
2	よろずスタジオ中止ポスター	B2判 館内簡易印刷	4	館内掲示	-
3	臨時休館のお知らせポスター	B2判 館内簡易印刷	8	館内、入生田駅前掲示	-
3	臨時休館の延長ポスター	B2判 館内簡易印刷	8	館内、入生田駅前掲示	-

主な配布先の凡例

A:小田原市立小中学校 B:県内図書館 C:博物館園 D:県政情報窓口 E:マスメディア F:小田急電鉄、箱根登山鉄道 G:大雄山線
H:県内外商業施設 I:百貨店、大手スーパーマーケット J:有隣堂県内店舗 K:その他



特別展チラシ
(表面)



企画展チラシ
(表面)



連携企画展チラシ

5.7.2. マスメディア等への情報提供

博物館の各種催し物についてはイベントの規模に応じて、記者クラブへ参考資料送付を行った。

特別展・企画展においては、前日に記者内覧会を実施した。

この1年間の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけでも171件あった。内訳は、新聞24件、広報誌・情報誌・雑誌等61件、テレビ5件、ラジオ4件、ウェブサイト等インターネット60件、その他17件で

あった。

昨年度に引き続き、当館ウェブサイトへの流入元などを参考に、観光情報ウェブサイト等へ、イベント情報の登録、発信を行った。

5.7.3. SNS・ネット広告を利用した広報

県内外へ広く活発な広報活動を行うため、新たに次のような広報活動を行った。

[公式 Twitter アカウントによる情報発信]

Twitter アカウントを取得し、イベントや博物館活動の紹介、駐車場混雑状況などの情報を発信した。

アカウント	実施期間	合計ツイート数	RT 数(※1)	いいね数(※1)	インプレッション数(※1)
特別展広報アカウント: @aobato_ex2019	2019年 8月1日～ 11月10日	75	56	148	6720
企画展広報アカウント: @seimeinohoshiPR	2020年 2月8日～ 3月28日(※2)	53	32	136	3581

※1 ツイート1時間後に記録した数の合計

※2 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休館によって、3月2日以降は博物館や自然科学に関するツイートに変更した。

[有料広告の掲出]

アクトインディ株式会社の運営する情報サイト「子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』」にて、次の通り有料広告を掲出した。
 広告名:「いこーよチラシ」

掲出場所:「子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』」ウェブサイト内 (URL:https://iko-yo.net/)
 掲出期間:2020年1月17日～2月22日
 広告クリック数:1,206回

[引換券の発行]

アクトインディ株式会社の運営する情報サイト「子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』」にて、次の通り引換券を掲出した。

引換券名:「いこーよクーポン」

掲出場所:「子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』」ウェブサイト内 (URL:https://iko-yo.net/)
 内容:来館者がクーポン画面の印刷物、またはスマートフォン画面の提示をすることで、その場にいる子どもの数だけ記念品をプレゼント。(1日1回限り)

記念品:サハラ砂漠の砂が入った小瓶

掲出期間:2019年11月16日～12月22日、2020年1月17日～2月22日

引換え数:2019年11月16日～12月22日:83個
 2020年1月17日～2月22日:262個 計345個

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告(自然科学)」第49号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第41号を刊行した。本誌は国内の主な研究機関(一部海外を含む)、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容をホームページ<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」第24号(2018年度)を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学)

[号数] 49号(電子出版)

[発行日] 2020年3月31日

[アーカイブ場所]

当館ウェブサイト

(http://nh.kanagawa-museum.jp/research/bulletin/index.html)

ならびに J-STAGE

(https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja)

[編集担当] 折原貴道・大島光春・西澤文勝

[編集委員会] 平田大二(編集委員長)・齋藤靖二・田中徳久・加藤ゆき・新井田秀一

[内容]

岡本 誠・瀬能 宏・山崎哲也:イブシギンヤセムツ *Epigonus fragilis* (ヤセムツ科) の日本から2番目の記録と形態学的・生態学的知見

鈴木寿之・大迫尚晴・木村清志・渋川浩一：琉球列島の河川急流域に生息するハゼ科ヨシノボリ属魚類2新種（英文）
渡辺恭平：日本産トガリヒメバチ亜科（ハチ目、ヒメバチ科）の12新種の記載を伴う分類学および動物地理学的記録（英文）
川島逸郎・渡辺恭平：名古屋市博物館所蔵「吉田翁虫譜（第一巻）」に描かれたハチ
松本涼子・諏訪部 晶・苅部治紀：神奈川県厚木市中荻野地区で捕獲されたアフリカツメガエルと

ウシガエルの胃内容物について
鈴木 聡・山本冬馬・小山夏晴海・広谷浩子：神奈川県周辺におけるタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の体サイズに与える疥癬症の影響について
田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介：慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相：144種の追加記録の報告
渡辺恭平・川島逸郎・関 悦子：川崎市立日本民家園における調査で得られたハチ目昆虫

6.1.2. 神奈川県自然誌資料

[号数] 41号（電子出版）
[発行日] 2020年3月20日
[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト
(<http://nh.kanagawa-museum.jp/research/nhr/index.html>)
ならびに J-STAGE
(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nkpmnh/-char/ja>)
[編集担当] 渡辺恭平・瀬能 宏
[編集委員会] 田中徳久・川島逸郎・小淵正美
[内容]
新田 梢・岩田健志・大西 亘・倉田薫子：神奈川県産の腊葉標本を用いたミズヒキの葉の斑紋変異の地理的分布
齋藤暢宏・饗場空璃：ツマグロハタンポ（スズキ目ハタンポ科）から得られたウオノエ科等脚類の幼体（甲殻亜門）
倉持卓司・倉持敦子：相模湾から採集されたミノガサヨコエビ *Iphiplateia whiteleggei* Stebbing, 1899（甲殻亜門，端脚目，ミノガサヨコエビ科）の記録
武田祐二・大土直哉：三浦半島におけるヒメキンチャクガニ（十脚目：短尾下目：オウギガニ科）の初記録
伊藤寿茂：駿河湾初記録となるハシリイワガニモドキ *Metopograpsus thukuhar* (Owen, 1839)（甲殻類：十脚目：イワガニ科）

山下龍之丞・乾 直人・山川宇宙・矢野優貴：神奈川県および静岡県伊豆半島初記録のマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* Hangai & Fukui, 2009
乾 直人・山川宇宙・碧木健人：神奈川県田越川および静岡県青野川から採集された注目すべきカニ類4種
崎山直夫・加登岡大希・石垣幸二・瀬能 宏：駿河湾で初記録となるミツボシカスベ（ガンギエイ目ガンギエイ科）について
三井翔太・瀬能 宏：相模湾におけるテングノオトシゴの分布と河川感潮域からの初記録
三井翔太・山田和彦・瀬能 宏：相模湾から得られたトビハタ幼魚の形態と生物地理学的特性
工藤孝浩・瀬能 宏：横浜，川崎および中ノ瀬海域から初記録の魚類-VI
荒尾一樹・馬渡和華・大原庄史・風呂田利夫：東京湾内湾の谷津干潟の魚類相 - II
山川宇宙・三井翔太・小田泰一朗・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏：相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類7種
加登岡大希・崎山直夫・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創：相模湾・東京湾沿岸で記録されたヒゲクジラ亜目（Mysticeti）について

6.1.3. 自然科学のとびら

[号数] 25巻2号 通巻95号
[発行日] 2019年6月15日
[発行部数] 250部
[編集担当] 本杉弥生
[内容]
田中徳久：表紙「2018 臺中世界花卉博覧會（2018 台中フローラ世界博覧會）」

加藤ゆき：「アオバトのふしぎ」
大島光春：「東アジアで初めて見つかった絶滅真無盲腸類の新種」
苅部治紀：「神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの拡散状況とその移入経路」
土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌⑤ 岡本太郎の巻 太陽の塔はカラスだった?!」

[号数] 25 卷 3 号 通巻 96 号
 [発行日] 2019 年 9 月 15 日
 [発行部数] 250 部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]
 折原貴道：表紙「アオゾメクロツブタケ」
 石浜佐栄子：「アオバトの足元にも注目！～照ヶ崎
 海岸周辺の地質・地形紹介～」
 秋山幸也（相模原市立博物館学芸員）：「キアシドク
 ガの大発生顛末記」
 瀬能 宏：「学芸活動に基づく自然史系博物館の事
 業評価に必要な視点」
 小林瑞穂：ライブラリー通信「鳥類学者の目のツケ
 ドコロ」

[号数] 25 卷 4 号 通巻 97 号
 [発行日] 2019 年 12 月 15 日
 [発行部数] 250 部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]

松本涼子：表紙「擬態するヤモリ」
 新井田秀一：「電子百科：宇宙から見た日本の衛星
 画像の紹介」
 田口公則：「大磯町西小磯海岸の“石切り場”跡の
 探究」
 大西 亘：「スマートフォン用マクロレンズで冬芽
 観察をしよう！」
 土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌⑥
 ゲーテの巻 ゲーテの趣味は石集めだった?!」

[号数] 26 卷 1 号 通巻 98 号
 [発行日] 2020 年 3 月 15 日
 [発行部数] 250 部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]

山下浩之：表紙「サフィリン金雲母岩」
 山下浩之：「大陸の誕生と分裂をさぐる」
 樽 創：「復元図を起こす」
 西澤文勝：「広域テフラについて」
 小林瑞穂：ライブラリー通信「専門図書館探訪」

6. 1. 4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 24 号
 [発行日] 2019 年 6 月 28 日
 [発行部数] 500 部
 [編集担当] 田村 哲、樽 創、平賀保彦

[内容]
 沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シ
 ンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機
 能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6. 2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	382	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006	2,000	12
地球 SOS	500	9	読みもの ナウマンゾウがいた!	800	17
絶滅した生物	500	14	樹洞	1,000	14
貝からの伝言	500	16	水生昆虫大百科	1,000	27
櫻井コレクションの魅力	400	9	大トンボ展	1,200	16
日本の魚学・水産学事始め	1,000	10	益田一と日本の魚類学	1,400	4
オオカミとその仲間たち	1,100	20	どうなる?どうする!外来生物	1,000	17
カニの姿	1,200	9	植物誌をつくろう!	700	97
フットのひとりごと	400	2	アオバトのふしぎ	900	503
神奈川県植物誌 2001	9,800	0	クリアファイル①	200	0
化石どうぶつ園	1,100	13	クリアファイル②	200	0
			計		1,191

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼働している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「ウェブサイト公開システム」によって運用している。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および、2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2016年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2020年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/100BASE-TによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名		数量	備考
		使用OS・ソフト等	メモリ ディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S8	16GB	1	収蔵資料管理システム（アプリサーバ）
		RedHat Enterprise Linux 6.5	600GB×6（RAID5）		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	1	収蔵資料管理システム（サーチサーバ）
		RedHat Enterprise Linux 6.5	500GB×2（RAID1）		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	4GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5	500GB×2（RAID1）		
	WEBサーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	1	ホームページの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5	900GB×2（RAID1）		
	Updateサーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	8GB	1	Windows Updateの管理
		Windows Server 2012 R2 Standard	1TB×4（RAID1）		
	CMSサーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M1	4GB	1	ホームページ更新管理
		RedHat Enterprise Linux 6.6	250GB×2（RAID1）		
職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M	8GB	1		
	Windows 8.1 Professional	500GB			
画像入力用	富士通 CELSIUS W530	8GB	1		
	Windows 8.1 Professional	500GB			
ミュージアムライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D583/K	2GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 8.1 Professional	320GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	3	
		Windows 8.1 Professional 他	500GB		
研究室・バックヤード	研究用WS	富士通 CELSIUS W550 他	16GB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 8.1 Professional 他	1TB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	42	
		Windows 8.1 Professional 他	500GB		

*28年度リースを反映させて作成。備品・消耗品はカウントせずリースのみの数

*機種名・使用OS・ソフトは機器更新 納入明細より作成

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵資料管理システム」は、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このサブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、36のデータベースから構成される。なお、2003年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。標本・アー

カイブズ登録状況は 41 ページに記載した。また、書籍の情報については下表に示した。

分野	2018年度までの登録件数	2019年度の登録件数	合計
図書	28,923	1,537	28,923
雑誌(タイトル数)	3,843	73	3,843
別刷り	340	0	340
合計	33,106	1,610	34,716

これらの情報は、研究への利用はもちろん、一部はミュージアムライブラリーやウェブページで公開されている。なお、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

7.2.2 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。2019年度の新規作成はなかった。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成・提供している

「画像で見る歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能である。

展示情報システムの一部は、2004年7月より、当館ならではのコンテンツとして、ウェブページ上で公開している。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,170点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164種の画像や解説文を提供する。
空撮	神奈川の空から見た景観写真を770枚、うち学芸員のおすすめ写真を63枚解説と共に提供する。	
	神奈川に生息する哺乳類20種の画像や解説文、骨の画像を380枚提供する。	
酒井コレクション細密画	酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。	
菌類細密画	菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129点の画像を提供する。	
日本で見られる恐竜	国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。	
衛星画像	衛星画像や宙瞰図など650枚、うち学芸員のおすすめ31枚解説と共に提供する。	
図書・雑誌検索	当館のライブラリーで所蔵している図書26,423冊、雑誌3,651タイトルが検索できるように提供している。	

7.3. インターネットの利用

7.3.1 ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月から開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブページのデザインを大幅に改良した。ウェブページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、Ⅲ 資料の項（88ページ）に掲載した。

月別ウェブトップページアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
人数	38,203	33,346	33,348	44,831	58,763	36,555	36,189	34,636	28,781	30,395	32,317	32,549	43,9913	36,659

7.3.2 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年から運用している。近年では毎年約5,000件の画像資料を追加している。

2004年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（ページビュー数；画像のダウンロード数は含まない）に関しては、Ⅲ 資料の項（88～89ページ）に掲載した。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類114,198件(134,591点)の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	1,784,994件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類101,785件の画像を提供している。	1,466,100件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的にかかわり情報を提供しているウェブサイトについて、表にまとめた。

博物館の情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概要	提供件数
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約2,800件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility : 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数はGBIF全体では2020年4月25日現在14億996万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュージアムネット) として国立科学博物館経由で

GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携をはかり、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2019年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全2館、全体で19,000件の自然史標本情報の提供を行った。

2019年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館
相模原市立博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの2019年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
維管束植物	10,000件
軟体動物	2,000件
昆虫	5,000件
合計	17,000件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に1997（平成9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、博物館との共催でサロン・ド・小田原（4回/73ページ参照）や、よろずスタジオ（9回/55ページ参照）を開催した他、博物館のミニ企画展示コーナーで「友の会会員430名とともに一学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんかー」を、HaRuNe 小田原（ハルネおだわら）のうめまる広場で出張よろずスタジオを開催した。

※参加予定だったミュージズ・フェスタ2020は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。

事務局

1. 総会を2019年4月28日（日）に開催した。
2. 役員会を6回開催し、以下の事項を検討・実施した。
役員会開催日/5月11日（土）、6月30日（日）、9月14日（土）、12月14日（土）、2020年2月1日（土）、3月21日（土）
 - 1) 友の会の運営について
 - 2) 会員への発送作業などについて
 - 3) 総会、およびイベントについて
 - 4) HaRuNe 小田原（ハルネおだわら）の出張よろずスタジオについて
 - 5) ミューズ・フェスタ2020について

広報部

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. ツイッター (@kpmtomo) による情報提供

3. 友の会入会案内チラシ（表面：入会案内、裏面：友の会 行事予定表）の作成・配付
4. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
5. 会報「友の会通信」を4回（通巻 第104～107号）発行
6. ミニ企画展示ポスターのまとめ冊子を発行
7. 「自然科学のとびら 友の会版」を4回（通巻 第95～98号）発行

企画部

友の会が主催する講座や観察会を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ36講座（そのうち中止5件）1849人が参加した（別表のとおり）。
講座担当者会議/11月9日（土）、2020年3月21日（土）

8.1.2. 観察会・講座等

	行事名	開催日	開催場所	参加者数
1	よろずスタジオ「アンモナイトのレプリカを作ろう！」(館と共催 分野：古生物)	4/21(日)	東側講義室	85
2	植物観察会「狭山丘陵の春を訪ねて」	4/23(火)	東京都武蔵村山市六道山	22
3	総会	4/28(日)	SEISA ミュージアムシアター	29
4	総会イベント 「身近な自然観察会-入生田の春を楽しむ-	4/28(日)	博物館周辺	59
5	昆虫観察会「あつ見つけ！春の里山で虫を楽しむ」	5/15(水)	足柄上郡中井町	14
6	第134回 サロン・ド・小田原「海底の地質はどのように調べるのか？～近年の調査航海の経験から～」	5/18(土)	西側講義室	31
7	樹木観察基礎講座「八田先生と樹木観察に行こう」	5/18(土)	多摩森林科学園	16
8	よろずスタジオ「哺乳類ってどんな動物？」(館と共催 分野：動物)	5/19(日)	東側講義室	77
9	小さいチャワンタケから菌類ワールドを覗く	6/1(土)	実習実験室	19
10	植物観察会「毘沙門海岸の植物」	6/12(水)	三浦市毘沙門海岸	28
11	よろずスタジオ「葉脈標本をつくろう！」(館と共催 分野：植物)	6/16(日)	実習実験室	102
12	地話懇話会「房総半島嶺岡帯の地質構造と岩石」	6/26(水)	西側講義室	34
13	変形菌を探してみよう	6/29(土)	博物館周辺・実習実験室	中止
14	植物観察会「玉原の湿原を歩く」	7/10(水)	群馬県沼田市	38
15	第135回 サロン・ド・小田原「アオバトと照ヶ崎周辺の地形」	8/3(土)	西側講義室・特別展示室	68
16	ハルネ小田原「出張よろずスタジオ」	8/17・18(土・日)	HaRuNe 小田原地下1階 うめまる広場	224
17	おとなの昆虫講座「チョウはベストドレッサー」	8/20(火)	実習実験室	22
18	地話懇話会「化学成分から大涌谷の地下環境を探る」	8/28(水)	西側講義室	20
19	昆虫観察会「そこにいたか・里山で楽しむムシ・むし・虫」	9/11(水)	足柄上郡中井町	17
20	よろずスタジオ「歯のひみつ」(館と共催 分野：古生物)	9/15(日)	東側講義室	98
21	植物観察会「岩戸山の秋草を楽しむ」	10/4(金)	静岡県熱海市	中止
22	よろずスタジオ「巻貝の中をのぞいてみよう？」(館と共催 分野：貝)	10/20(日)	講義室東側	52
23	第136回 サロン・ド・小田原「海中のスターたち ～棘皮動物学ことはじめ～」	11/10(土)	西側講義室	25
24	生物共生講演会Ⅶ「イチジク属植物とイチジクコバチの共生関係と共進化」	11/16(土)	実習実験室	33
25	樹木観察基礎講座「子房壁から果皮へ～私たちは花のどの部分を果物として食べているのか～」	11/24(日)	横浜市こども植物園	15
26	よろずスタジオ「木の実・草の実で楽しい工作」(館と共催 分野：植物)	11/24(日)	東側講義室	101
27	植物観察会「晩秋の尾根道を歩く」	11/30(土)	厚木市七沢森林公園	31
28	よろずスタジオ「ミツクリザメを観察しよう！」(館と共催 分野：魚類)	12/15(日)	東側講義室	162
29	よろずスタジオ「砂とあそぼう」(館と共催 分野：地学)	1/19(日)	東側講義室	197
30	地話懇話会「南九州のカルデラ地域における爆発的噴火史」	1/22(水)	西側講義室	29
31	植物観察会「冬の植物の姿」	1/28(火)	横浜市新治市民の森	中止
32	地図を楽しもうー地図を読む実践講座ー	2/9(日)	実習実験室・博物館周辺	8
33	よろずスタジオ「昆虫の体を調べてみよう！」(館と共催 分野：昆虫)	2/16(日)	東側講義室	156
34	第137回 サロン・ド・小田原「テフラって何？ーなぜ調べるのか、何がわかるのかー」	2/23(日)	西側講義室	28
35	ミュージズ・フェスタ 2020	3/14・15(土・日)	ライブラリー前	中止
36	企画展関連講演会(館と共催)「 Gondwana大陸を語る」	3/22(日)	SEISA ミュージアムシアター	中止
合 計				1,840

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供（講演）、第2部の交流会（ワークショップなど）を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待している。

第134回サロン・ド・小田原「海底の地質はどのように調べるのか？～近年の調査航海の経験から～」

[開催日] 2019年5月18日（土）

[会場] 博物館西講義室

[話題提供] 山下浩之（当館学芸員）

[交流会] 潜航時の映像の視聴や標本を囲んでの質疑応答など

[参加者数] 31名

第136回サロン・ド・小田原「海中のスターたち～棘皮動物学ことはじめ～」

[開催日] 2019年11月10日（土）

[会場] 博物館西講義室

[話題提供] 小淵正美氏（真鶴町立遠藤貝類博物館学芸員）

[交流会] 切り絵体験、標本を囲んでの質疑応答など

[参加者数] 25名

第135回 サロン・ド・小田原「アオバトと照ヶ崎周辺の地形」

[開催日] 2019年8月3日（土）

[会場] 特別展示室、博物館西講義室

[話題提供] 加藤ゆき・田口公則・石浜佐栄子（当館学芸員）

[交流会] 特別展示室において展示解説及び質疑応答など

[参加者数] 68名

第137回サロン・ド・小田原「テフラって何？－なぜ調べるのか、何がわかるのか－」

[開催日] 2020年2月23日（日）

[会場] 博物館西講義室

[話題提供] 西澤文勝（当館学芸員）

[交流会] 標本を囲んでの質疑応答など

[参加者数] 28名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会（WESKAMS）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は54施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS（ウエスカムズ）」と名付け、その事務局を当館においている。

WESKAMSの目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として「館園長・協力会員会議」を年1回開催しているが、2019年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議は中止となり、メールにより代替とした。

また、WESKAMSに加盟する、ミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレーとして」一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
7/17(水)	情報交換会	箱根ガラスの森美術館	10館園20名
3/6(金)	館園長・協力会員会議	生命の星・地球博物館	※メールにより代替

ミュージアム・リレー

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 261 走 2019 年 4 月 19 日(金) ①箱根ビジターセンター ②箱根湿生花園	①センターの概要説明の後、園内の花の広場に出て動植物を観察しながら散策した。60 年前にススキ草原を開墾して植樹した園内の植物は、時間の経過とともに箱根の特徴を表す植生となっている。ミツバツツジなどこの季節ならではの花が見ごろを迎えていた。	15	0	1
	②園の成り立ち、概要説明の後、現在咲いている植物についての特徴や生育させるための工夫等の詳細な説明を受けながら園内を周遊・散策した。今年は開花が早かったが、開花後に気温が低下したため、花の期間が長くなり多くの種類の花を観賞できた。	14	0	1
第 262 走 2019 年 5 月 15 日(水) ①箱根美術館 ②箱根写真美術館 ③箱根強羅公園	①美術館の概要や所蔵作品のガイダンスを受けた後に、庭園を散策した。苔庭、溶岩流を活用した石楽園などの見学後、本館屋上から明星ヶ岳や相模湾などの風景を一望した。	7	0	3
	②富士山の写真をライフワークとして取り組んでいる。昔ながらの大判フィルムカメラを使用し、フィルムの品質をわざと劣化させ、露出時間の長い夜間撮影をするなどのプロ写真家の技をうかがった。	7	0	2
	③公園ならびに周辺開発の歴史の解説や、熱帯植物園・ブーゲンビリア館・熱帯ハーブ館の解説を受けた。その後「白雲洞茶苑」から明星ヶ岳の景観を見学した。	7	0	2
第 263 走 2019 年 7 月 5 日(金) ①小田原文学館 ②小田原市尊徳記念館	①白秋童謡館（別館）で、北原白秋の小田原時代の活動や作品について解説を聞いた。その後、本館で開催中の特別展『「坂口安吾」ができるまで』の説明を受けた。	19	0	2
	②記念館概要説明を聞いた後、二宮金次郎の一生のアニメを観賞した。展示室では、酒匂川の治水と反乱の歴史、尊徳の活動や遺品などの見学や解説を受けた。	10	0	1
第 264 走 2019 年 7 月 17 日(水) ①星の王子さまミュージアム 箱根サン＝テグジュペリ ②箱根ガラスの森美術館	①サン＝テグジュペリゆかりの城や街並みなどを再現した建物などを見学しながら解説を受けた。また、最も有名な作品のひとつである「星の王子さま」のストーリーに沿った展示を見学した。	9	0	1
	②開催中の「ピカソ・シャガールたちのヴェネチアン・グラス彫刻展」の説明を受けた。その後、庭園内のガラスのアジサイや噴水などを見学した。毎水曜日に開催される馬頭琴コンサートも鑑賞した。	20	0	1
第 265 走 2019 年 8 月 23 日(金) ①人間国宝美術館 ②町立湯河原美術館	①約 1,200 点の人間国宝の作品を展示していて、北大路魯山人の作品や岡本太郎とピカソのコラボコーナーを観賞しながら説明を受けた。伝統工芸のすばらしさと課題についてもうかがえた。	4	0	1
	②現代日本画家・平松礼二館で岩絵具や膠等の画材説明を受けた後、企画展の「夏の睡蓮」および「平松礼二・湯河原十景完成記念特別展」などを鑑賞した。	3	0	1
第 266 走 2019 年 9 月 6 日(金) ①箱根駅伝ミュージアム ②県立生命の星・地球博物館	①今年 95 回目を迎えた箱根駅伝の歴史を、さまざまなエピソードを交え解説いただいた。また、往路優勝校に送られる箱根細工のトロフィーについて説明を受けた。	3	0	1
	②博物館の展示・見学のガイダンスを受けたあと、開催中の特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～」を見学しながら学芸員の解説を受けた。	6	0	1
第 267 走 2019 年 9 月 20 日(金) ①箱根ドールハウス美術館	①「ドール」とは、「小さい」を意味し、16 世紀の南ドイツのニュールンベルクで、城を建てる際の模型として製作されたのが始まり。館長が 20 年の歳月をかけて収集したコレクションを堪能した。	7	0	2
第 268 走 2019 年 10 月 4 日(金) ①箱根関所 ②県立恩賜箱根公園	①全国 53 カ所の関所の中で、周辺環境も含め完全復元したのは箱根関所だけ。概要説明を受けたあと、獄家、足輕番所などを見学した。また、開催中の企画展「全国の関所」の説明、見学をした。	6	0	1
	②湖畔展望館で、箱根離宮の歴史と県立公園になるまでの経緯をうかがった。また、国が進める「ガーデンツーリズム」の第 1 回登録に、恩賜箱根公園を含む「富士・箱根・伊豆『皇室ゆかりの庭園』ツーリズム」が選定されたことの解説を受けた。	6	0	2
第 269 走 2019 年 10 月 25 日(金) ①真鶴町立中川一政美術館 ②真鶴町立遠藤貝類博物館	①開催中の「中川一政美術館名品展～あなたが選ぶこの一点～」について見学しながら、説明を受けたあと、敷地内に復元されたアトリエを見学した。	7	0	2
	②開館の経緯の説明と、「真鶴や相模湾」「日本」「外国」の 3 展示別になった貝コレクションの説明を受けた。また、開催中の特別展「貝×食～貝を食べる、貝が食べる～」の解説を受けた。	6	0	2
第 270 走 2019 年 11 月 15 日(金) ①二宮町ふたみ記念館 ②箱根町立郷土資料館	①二見記念館設立の経緯と二見利節の画業を解説とビデオで紹介。水彩連盟代表者の説明で、約 50 点の作品ひとつひとつを詳しく解説を受けた。また、利節のご子息による思い出が語られた。	40	0	5
	②開催中の秋の企画展「箱根登山鉄道のあゆみ」展の説明を受けた後、展示室の見学をした。馬車・電気鉄道の敷設から始まり、登山鉄道の誕生、観光地開発など時系列にそった展示であった。	23	0	2

開催日・開催場所	内容	一般	高校生	関係者
第 271 走 2019 年 12 月 6 日(金) ①県立おだわら諏訪の原公園 ②小田原城天守閣	①ミカン栽培の果樹園にて、柑橘類全般の解説と、園内に植えられたミカンの説明を受けた。交配しづらいミカンに対処するため、カラタチへの接ぎ木方法などの解説を受けた。	8	0	1
	②SAMURAI 館で甲冑や刀剣の説明を受け、その後、天守閣へ移動した。北条早雲没後 500 年にあたり、「北条早雲公顕彰 500 年事業」の一環として企画された特別展「伊勢宗瑞の時代」の解説を受けた。	19	0	1
第 272 走 2019 年 12 月 12 日(木) ①箱根芦ノ湖 成川美術館 ②箱根ラリック美術館	①開設の経緯や収蔵作品の概要、日本画の技法や特徴、顔料の生成方法などの詳細な説明と、作家ごとにその顔料の使い方の違いなどをうかがった後、作品を見学した。	39	0	1
	②アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したルネ・ラリックの生涯にわたる作品について、代表作を中心に解説を受けた。当時の時代背景と作品の特徴の移り変わりが説明された。	38	0	1
第 273 走 2020 年 2 月 7 日(金) ①小田原フラワーガーデン	①園の特徴は、花梅が多く 200 品種が植えられ、花のすぐ近くまで寄って観察できる。今年の梅まつりのテーマ「珍しい梅」について説明を受けた後、紅梅と白梅の違いや、雪の曙という品種などを観賞した。また、恒温のトロピカルドーム温室で熱帯・亜熱帯植物を観察した。	10	3	0
第 274 走 2020 年 3 月 6 日(金) ①松永記念館 ②県立生命の星・地球博物館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-	-	-
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-	-	-

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」(1階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップであることから、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトに合わせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみたいと思っていただけるような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」(3階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニュー

なども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色を出すため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」(1階)

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

Ⅲ 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例第 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の必要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者（以下「観覧者」という。）は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者（別表備考 2 に規定する者を除く。）は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。）第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表 (第4条関係)

	区分	個人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 200円	同 150円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円
神奈川県立生命の星・地球博物館	20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	同 520円	同 410円
	20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 300円	同 200円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

備考1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関する事。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関する事。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関する

こと。

- (4) 人事に関する事。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関する事。
- (6) 予算の経理に関する事。
- (7) 観覧料の徴収に関する事。
- (8) 物品の調達及び処分に関する事。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関する事。
- (10) その他他部課の主管に属しない事。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関する事。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関する事。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。

(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管

及び閲覧に関すること。

- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈

川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

(1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

(2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館

(3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館

(4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校

(5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認

めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986年	10月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
12月		第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988年	7月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
12月		神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応義塾大学名誉教授））から提言
1989年	3月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
		神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定
	4月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
	11月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足
	12月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手
1990年	2月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手
	3月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定
	9月	博物館情報システム実施計画策定
	10月	建築基本設計着手
1991年	3月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	5月10日	生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
	3月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3月20日	開館記念式典実施
	3月21日	一般公開開始
	4月	博物館情報システム開発着手
	6月	第三期造成工事着手
1992年	4月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4班体制となる
	6月	第二期造成工事着手
	8月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
	10月	自然系博物館（仮称）建築工事着手 自然系博物館（仮称）展示工事着手
1993年	4月	博物館情報システム開発着手
	6月	第三期造成工事着手
1994年	6月	第四期造成工事着手
	12月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
1995年	1月1日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
	3月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3月20日	開館記念式典実施
	3月21日	一般公開開始

2.2. 開館から2019年度末まで（資料収集・調査研究事業を除く）

1995年	3月21日	一般公開開始
	4月29日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中雄一
	5月7日	入館者10万人到達（開館41日目）
	6月22日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）
	9月6日	ジブチ共和国大統領ご視察
	9月24日	入館者30万人到達（開館158日目）
	11月10日	神奈川県博物館協議会（2001年まで毎年実施）
1996年	3月20日	開館1周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
	4月	シンボルマーク製作
	4月17日	入館者50万人到達（開館321日目）
	6月1日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）
	9月	ガイダンスビデオ製作
1997年	3月1日	エントランスガイダンス開始
	3月20日	開館2周年記念講演会「3年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうを利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
		バリアフリー音声ガイドサービス開始
	3月21日	日本植物分類学会第27回大会（3月23日まで）
	5月10日	生命の星・地球博物館友の会発足
	7月23日	入館者100万人到達（開館705日目）
	10月17日	WESKAMS ミュージアム・リレーを開始
	11月15日	日本鞘翅学会第10回記念大会（11月16日まで）
1998年	1月30日	日本古生物学会1998年年会（2月1日まで）
	3月21日	開館3周年記念事業「生命の星・地球フェスタ'98」（3月29日まで）
	3月30日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	4月4日	日本動物分類学会第34回大会（4月5日まで）
	8月26日	日本第四紀学会1998年大会（8月28日まで）
	9月12日	中国遼寧省友好代表団来館
	11月3日	入館者150万人到達（開館1,090日目）
1999年	3月20日	「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
	8月4日	中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
	11月6日	日本蜻蛉学会大会（11月7日まで）
	11月12日	天皇陛下ご在位10周年慶祝事業 無料公開
	11月14日	みなかんネットワーク大会
	11月27日	常設展示化石標本3点の盗難を確認
	12月9日	常設展示化石標本10点の盗難を確認

2000年

- 3月20日 開館5周年記念講演会「博物館は宝の山!」
- 3月23日 Xu Daosheng (湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon (韓国国立中央博物館)ほか視察
- 3月31日 濱田隆士館長退任
- 4月1日 青木淳一館長就任
- 5月13日 日本土壤動物学会第23回大会(5月14日まで)
- 8月6日 入館者200万人到達(開館1,613日目)
- 10月6日 2000年度日本魚類学会年会(10月9日まで)
- 10月15日 200万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」

2001年

- 3月20日 開館6周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ～いま箱根の自然は～」
- 3月27日 神奈川県博物館協議会を廃止
- 4月15日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
- 10月19日 中国遼寧省職員視察
- 11月9日 ミュージアム・リレー第50走達成記念講演会
- 11月22日 ミュージアム・リレー第50走達成記念シンポジウム
- 11月23日 日本蜻蛉学会(11月25日まで)

2002年

- 2月21日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
- 3月19日 箱根フリーパス対象施設に参加
- 3月21日 開館7周年記念シンポジウム「触まれるかながわの生物」
- 7月19日 入館者250万人到達(開館2,206日目) 250万人達成感謝ウィーク
- 7月21日 「自然を楽しむみち」案内板贈呈式

2003年

- 1月30日 博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
- 3月11日 全国科学博物館協議会総会(3月12日まで)
- 3月21日 ミュージアム・フェスタ(開館記念事業として、以降毎年実施)
- 3月28日 青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
- 7月20日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(2004年まで実施)
- 8月2日 日本蕨苔類学会(8月3日まで)

2004年

- 3月9日 博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」
- 5月25日 入館者300万人到達(開館3,770日目)
- 11月20日 日本鞘翅学会第17回大会(11月21日まで)

2005年

- 3月8日 博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
- 7月18日 夏休み中無休開館期間(以降、毎年実施)

2006年

- 1月14日 ミュージアム・リレー第100走達成記念行事(1月15日まで)
- 3月23日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
- 3月31日 青木淳一館長退任
- 4月1日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。斎藤靖二館長就任
- 7月8日 入館者350万人到達(開館3,409日目)
- 11月12日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」

2007年

- 2月28日 全国科学博物館協議会理事会総会
- 3月30日 博物館課題研究会

2008年

- 3月11日 博物館課題研究会
- 3月22日 子ども自然科学作品展(以降毎年実施)
- 8月12日 入館者400万人到達(開館4,062日目)

2009年

- 3月10日 博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」

2010年

- 10月21日 入館者450万人到達(開館4,863日目)

2011年

- 3月13日 ミュージアム・フェスタ2011(東日本大震災により中止)

2012年

- 8月3日 入館者500万人到達(開館5,183日目)

2013年

- 8月22日 世界の動物切手コレクション寄贈(功刀欣三様)
- 10月8日 天皇陛下行幸啓(特別展天覧)
- 11月29日 奥村定一昆虫コレクション寄贈(奥村哲子様)

2014年

- 1月13日 入館者550万人到達(開館5,716日目)
- 3月19日 貝類標本コレクション寄贈(名倉菊江様)
- 3月31日 斎藤靖二館長退任
- 4月1日 平田大二館長就任、斎藤靖二名誉館長就任
- 7月7日 林原自然科学博物館教材・教育用標本一式寄贈(株式会社林原メセナセンター)
- 9月11日 メソサウルス類化石・ダウリアアチョウザメ本剥製・アラスカ産オオカミ本剥製寄贈(三浦菊男様)

2015年

- 3月15日 開館20周年記念シンポジウム「自然系博物館のあるべき姿と評価軸ー生命の星・地球博物館の活動からー」
- 8月29日 入館者600万人到達(開館6,190日目)
- 10月31日 今関細密画コレクション寄贈(今関士郎様)

2016年

- 3月16日 子ども自然科学作品展会期を延長(5月8日まで)活動報告展の休止

2017年

- 5月3日 入館者650万人到達(開館6,667日目)

2018年

- 10月26日 入館者700万人到達(7,104日目)

2019年

- 2月24日 天皇陛下ご在位30周年慶祝事業 無料公開
- 5月1日 天皇御即位慶祝事業 無料公開
- 10月22日 即位礼正殿の儀 無料公開

2020年

- 3月4日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館(～3月末まで実施)

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数		25	26	19	27	31	24	24	25	19	20	22	2	264	
有料入場者数	個人	成年	7,789	6,672	5,821	9,578	16,354	7,549	3,876	5,784	3,482	5,394	5,897	228	78,424
		未成年・学生	192	219	154	192	582	318	134	169	126	128	218	28	2,460
		高校生	151	129	50	139	506	74	39	79	51	41	89	15	1,363
		65歳以上	1,620	1,351	978	1,522	3,004	1,173	907	1,252	691	778	740	31	14,047
	団体	成年	20	190	247	621	2,019	957	546	461	68	68	133	0	5,330
		未成年・学生	0	0	0	9	65	35	26	3	0	0	0	0	138
		高校生	0	0	0	42	59	4	0	4	1	1	33	0	144
		65歳以上	22	201	227	240	459	190	310	305	61	56	47	0	2,118
	小計		9,794	8,762	7,477	12,343	23,048	10,300	5,838	8,057	4,480	6,466	7,157	302	104,024
無料入場者数	園児	2,275	2,278	1,919	4,530	5,305	2,639	2,099	2,163	1,217	2,140	2,589	53	29,207	
	小学生	4,557	5,491	3,799	4,871	8,547	5,072	9,000	6,144	1,938	2,411	1,500	50	53,380	
	中学生	1,002	1,024	571	865	1,887	621	500	379	373	127	181	15	7,545	
	障害者	589	663	719	971	1,660	872	541	751	360	384	457	9	7,976	
	その他	1,770	3,283	841	1,650	1,794	1,123	2,977	1,649	490	376	567	7	16,527	
	小計	10,193	12,739	7,849	12,887	19,193	10,327	15,117	11,086	4,378	5,438	5,294	134	114,635	
合計		19,987	21,501	15,326	25,230	42,241	20,627	20,955	19,143	8,858	11,904	12,451	436	218,659	
1日平均(人)		799.5	827.0	806.6	934.4	1,362.6	859.5	873.1	765.7	466.2	595.2	566.0	218.0	828.3	
前年比(%)		115.3	113.0	108.0	103.6	100.5	88.6	104.9	110.5	77.8	90.4	88.8	1.9	91.4	

		2019年度			一般公開開始からの累計*			
		1日平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1日平均	構成比(%)	
有料入場者	個人	成年個人	297.1	35.9	88.9	2,252,006	301.0	33.7
		未成年・学生個人	9.3	1.1	73.1	88,855	11.9	1.3
		高校生	5.2	0.6	78.1	18,180	2.4	0.3
		65歳以上	53.2	6.4	86.6	165,711	22.1	2.5
	団体	成年団体	20.2	2.4	130.5	219,359	29.3	3.3
		未成年・学生団体	0.5	0.1	54.3	8,906	1.2	0.1
		高校生	0.5	0.1	48.2	1,730	0.2	0.1
		65歳以上	8.0	1.0	81.9	41,184	5.5	0.6
小計		394.0	47.6	89.1	2,795,931	373.7	41.9	
無料入場者	園児	110.6	13.4	85.9	607,702	81.2	9.1	
	小学生	202.2	24.4	98.5	1,732,214	231.5	26.0	
	中学生	28.6	3.4	111.5	291,655	39.0	4.4	
	障害者	30.2	3.6	89.0	197,308	26.4	2.9	
	その他	62.6	7.6	88.7	1,044,727	139.6	15.7	
	小計	434.2	52.4	93.6	3,873,606	517.7	58.1	
合計		828.3	100.0	91.4	6,669,537	891.4	100.0	

*1995年3月21日から 7,482日開館

2019年度記録
 最高：2019年4月30日(火) 4,518人
 最低：2020年2月28日(金) 125人

3.1.2. 特別展示室入場者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有料	成年				1,104	4,992	2,041	1,095	719					9,951
	未成年・学生				25	215	135	39	23					437
	高校生				29	179	14	13	12					247
	65歳以上				373	1,403	509	403	230					2,918
	小計				1,531	6,789	2,699	1,550	984					13,553
無料	12,973	8,844		2,958	8,719	5,447	8,115	2,324	1,208	1,705	321	506	53,120	
合計	12,973	8,844	0	4,489	15,508	8,146	9,665	3,308	1,208	1,705	321	506	66,673	

3.1.3. 講座・観覧会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	662	674	545	954	1,846	771	557	857	538	1,007	735	0	9,146
サロン・ド・小田原	0	30	0	0	68	0	0	25	0	0	28	0	151
研修・実習・学校	0	133	153	304	99	112	59	163	157	84	90	0	1,354
ボランティア活動	330	309	249	337	308	265	283	310	266	326	305	88	3,376
博物館実務実習	0	0	0	47	97	0	0	0	0	0	0	0	144
合計	992	1,146	947	1,642	2,418	1,148	899	1,355	961	1,417	1,158	88	14,171

- ・「講座・講演会」は、博物館主催の自然科学講演会、他の機関との共催講演会、博物館主催講座、よろずスタジオ（友の会との共催を含む）、自由研究なんでも相談の参加者数。
- ・「研修・実習・学校」には、博物館見学実習、理科学習や総合的な学習への対応、中学生や高校生の職場体験、教員の各種研修、学校の各種研修などの人数（館内実施のみ）。
- ・ボランティア活動は、学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示解説ボランティアの活動延べ数。
- ・利用人数は、実際に利用した人数（延べ人数）によって算出している（3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出）。

3.2. 年度別利用者数の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303
利用者										
入館者	(24,374)	(453,210)	(393,932)	(377,187)	(349,425)	(295,118)	(270,166)	(254,478)	(267,625)	(268,851)
常設展示入場者	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851
特別展示室入場者		42,951	109,851	99,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259
ライブラリー利用者						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128
講座・観覧会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
開館日数	299	305	309	311	308	306	304	308	305	299
利用者						306,563	299,089	344,328	355,803	352,066
入館者	(242,368)	(234,012)	(241,549)	(232,650)	(232,046)	(217,690)	(208,682)	323,873	334,695	329,340
常設展示入場者	242,368	234,012	241,549	232,650	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240
特別展示室入場者	107,992	117,014	108,588	113,682	98,305	103,527	82,631	113,601	112,793	73,769
ライブラリー利用者	89,973	94,166	97,399	97,072	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463
講座・観覧会・研修等参加者	5,561	9,291	7,863	8,328	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	24,765

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
開館日数	287	288	286	289	290	264
利用者	326,030	311,391	338,554	341,443	333,731	312,298
入館者	310,088	295,644	315,978	319,134	313,533	294,286
常設展示入場者	227,354	220,651	236,404	239,678	239,320	218,659
特別展示室入場者	117,841	71,908	98,234	94,284	55,749	66,673
ライブラリー利用者	92,401	94,699	87,411	91,143	98,136	90,877
講座・観覧会・研修等参加者	14,631	11,232	18,719	17,212	16,513	14,171

3.3. 特別展・企画展開催実績

【特別展】

No	開催期間	タイトル	日数	入館者		
				有料	無料	合計
1	1995年10月7日～11月26日	チョウとガの世界	41	3,247	13,655	16,902
2	1996年3月1日～5月12日	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	63	-	94,566	94,566
3	1996年7月20日～9月23日	追われる生きものたち	58	19,011	33,475	52,486
4	1997年3月1日～5月11日	櫻井コレクションの魅力ー偉大なアマチュア自然科学者の軌跡ー	61	-	40,848	40,848
5	1997年7月20日～11月3日	地球再発見ー新しい地球像をもとめてー	92	18,033	46,886	64,919
6	1998年2月1日～3月31日	日本の魚学・水産学事始めーフランチ・ヒルゲンドルフ展ー	48	1,557	7,398	8,955
7	1998年7月18日～9月27日	オオカミとその仲間たちーイヌ科動物の世界ー	61	17,714	30,588	48,302
8	1999年1月30日～3月31日	カニの姿ー酒井コレクションからー	51	3,746	14,228	17,974
9	1999年7月17日～9月5日	海から生まれた神奈川ー伊豆・小笠原弧の形成と活断層ー	43	8,585	16,807	25,392
10	1999年10月1日～11月28日	のぞいてみよう！5億年前の海ー三葉虫が見た世界ー	49	4,690	21,470	26,160
11	2000年7月15日～9月3日	特別展 サルがいて、ヒトがいてー野生動物との共存を考えるー	43	9,949	24,359	34,308
12	2001年2月10日～4月8日	ふしぎ大陸 南極展	49	2,141	11,643	13,784
13	2001年7月20日～9月16日	神奈川の植物 その10余年の変化	51	6,197	10,886	17,083
14	2001年10月20日～12月16日	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	50	6,511	13,628	20,139
15	2002年7月20日～9月29日	人と大地とーWonderful Earthー	64	12,891	23,674	36,565
16	2002年12月7日～3月2日	ザ・シャークー鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	68	11,840	19,211	31,051
17	2003年7月19日～9月15日	侵略とかく乱のはてにー未来へつなげる自然とはー	51	14,109	25,477	39,586
18	2003年11月1日～1月25日	丹沢の自然ーその生い立ちと生きものー	69	6,186	11,376	17,562
19	2004年7月17日～10月31日	東洋のガラパゴス 小笠原ー固有生物の魅力とその危機ー	93	17,602	31,862	49,464
20	2005年7月16日～11月6日	化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世の哺乳類ー	105	22,243	54,988	77,231
21	2006年7月15日～11月5日	ふしぎな生きもの菌類ー動物？植物？それとも？ー	106	18,408	54,099	72,507
22	2007年7月21日～11月4日	ナウマンゾウがいた！ー温暖期の神奈川～	100	20,016	57,007	77,023
23	2008年7月19日～11月19日	「箱根火山」いま証される噴火の歴史	106	20,312	44,001	64,313
24	2009年7月18日～11月8日	木の洞をのぞいてみたらー樹洞の生きものたち～	105	19,109	84,418	103,527
25	2010年7月17日～11月7日	日本列島20億年 その生い立ちを探る	104	19,727	33,939	53,666
26	2011年7月16日～11月6日	およげ！ ゲンゴロウくんー水辺に生きる虫たち～	104	18,183	52,723	70,906
27	2012年7月14日～11月4日	大空の覇者ー大トンボ展ー	103	23,070	42,666	65,736
28	2013年7月20日～11月4日	益田ーと日本の魚類学ー魚類図鑑に生涯を捧げたDANDY～	97	16,964	27,170	44,134
29	2014年7月19日～11月3日	どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう 私たちの原風景	96	25,091	49,160	74,251
30	2015年7月18日～11月3日	生き物を描くーサイエンスのための細密描画～	99	15,379	21,035	36,414
31	2016年7月16日～11月6日	Minerals in the Earthー大地からの贈り物ー	101	25,565	38,041	63,606
32	2017年7月15日～11月5日	地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～	103	22,175	34,239	56,414
33	2018年7月14日～11月4日	植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～	103	7,256	12,828	20,084
34	2019年7月20日～11月10日	アオバトのふしぎー森のハト、海へ行く～	100	13,553	27,563	41,116

【企画展】

No	期間	タイトル	日数	入館者
1	1996年6月8日～6月23日	新収資料展	13	10,501
2	1996年12月5日～12月15日	文化財保護ポスター展	10	1,471
3	1996年12月20日～1月31日	ゆく年くる年展	30	10,194
4	1997年5月23日～6月22日	ふれる彫刻100展	25	-
5	1997年12月6日～12月14日	文化財保護ポスター展	8	-
6	1997年11月15日～11月24日	新収資料展	9	6,374
7	1997年12月20日～1月11日	ゆく年くる年展	12	2,997
8	1998年4月25日～5月24日	植物画で観る山の花 ―小林政敏作品集より―	26	13,375
9	1998年10月24日～11月23日	ふれる彫刻 Part 2 ―地球の心を彫る！	26	14,316
10	1998年12月12日～1月10日	新収資料展	12	4,168
11	1999年4月24日～5月30日	北アルプスの四季―岳をめぐる―	32	15,119
12	1999年12月11日～1月16日	カラー魚拓の世界	24	6,082
13	2000年3月18日～5月14日	平成11年度活動報告展 開かれた博物館をめざして ―生命の星・地球博物館の5年間の歩み―	52	17,647
14	2000年9月23日～11月5日	切手で語る魚類の世界	42	11,797
15	2000年10月7日～10月8日	田中茂徳博士と魚学研究ゆかりの品々	2	600
16	2002年1月4日～1月27日	地球の息吹 富士彩々	22	7,708
17	2002年2月16日～3月17日	みんなの手づくり恐竜展	25	14,003
18	2002年3月21日～4月21日	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	26	13,029
19	2002年4月27日～6月2日	新収資料展	34	3,363
20	2003年3月21日～4月6日	日本の自然にヘラクレスはいらない ―移入昆虫がもたらす諸問題を考える―	17	9,442
21	2003年	友の会活動報告および活動紹介展	-	-
22	2003年4月26日～6月8日	活動報告展―学芸員のお仕事	38	18,711
23	2004年3月20日～4月4日	きらわれものだよ、全員集合！ ―きらわれものたちの意外な素顔―	14	8,263
24	2004年	博物館友の会活動報告および活動紹介展	-	-
25	2004年4月24日～6月6日	活動報告展―学芸員の腕自慢	33	28,714
26	2004年	きのこアート展	-	-
27	2004年12月18日～2月27日	+2℃の世界 ―縄文時代に見る地球温暖化―	56	23,669
28	2005年3月20日～4月10日	博物館10年の歩み・友の会活動紹介	20	5,180
29	2005年4月29日～5月29日	収蔵資料展	26	15,925
30	2005年12月10日～2月12日	丹沢～むかし・今・あした～	51	14,785
31	2006年3月18日～4月9日	マイミュージアム・みんなの活動報告展 ・マイミュージアム写真展	19	9,997
32	2006年4月29日～5月28日	学芸員の活動報告展	26	12,716
33	2006年12月9日～2月25日	パノラマにつぼん ～地球観測衛星の魅力～	64	15,939
34	2007年3月17日～5月6日	みんなの活動報告展	45	16,883
35	2007年12月8日～2月24日	日本最後の秘境 南硫黄島	65	24,476
36	2008年4月19日～5月18日	学芸員の活動報告展	27	15,041
37	2008年12月6日～2月22日	46億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	62	14,954
38	2009年4月18日～5月31日	学芸員の活動報告展	37	16,352
39	2009年12月5日～2月21日	押し葉 ～古瀬 義 植物標本コレクション～	60	9,553
40	2010年4月17日～5月30日	学芸員の活動報告展	37	16,135
41	2010年12月11日～2月27日	日本最初の植物同好会 ～横浜植物会の100年～	63	10,132
42	2011年4月16日～5月29日	学芸員の活動報告展	38	18,560
43	2011年12月10日～2月26日	箱根ジオパークをめざして ―箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見！―	63	17,204
44	2012年4月21日～5月27日	学芸員の活動報告展	32	14,210
45	2012年12月15日～2月24日	博物館の標本工房 Atelier specimen animalum in museo	56	28,574
46	2013年4月20日～5月26日	学芸員の活動報告展	32	10,631
47	2013年12月14日～2月23日	アンデスを越えて ―南米パタゴニアの火山地質調査から―	56	14,921
48	2014年4月19日～5月25日	学芸員の活動報告展	30	11,626
49	2014年12月13日～3月1日	恐竜の玉手箱	53	30,786
50	2015年4月25日～5月24日	学芸員の活動報告展	24	6,619
51	2015年12月19日～2月28日	日本のスゲ 勢ぞろい ―撮って 集めた 269種！―	46	18,150
52	2016年12月17日～2月26日	石展2 ―かながわの大地が生み出した石材―	46	21,480
53	2017年12月16日～2月25日	レッドデータの生物 ―知って守ろう 神奈川の生き物たち―	47	25,734
54	2018年11月17日～12月9日	日本最後の秘境 南硫黄島 ～10年ぶりの学術調査から～	19	8,330
55	2019年3月2日～5月12日	箱根ジオパーク展 ～身近な火山と友だちになる～	60	37,991
56	2020年2月29日～	ゴンドワナ ～岩石が語る大陸の衝突と分裂～	(3)	(827)

()内は、2020年3月31日まで

3.4 資料登録実績

資料登録実績は、標本とアーカイブズを分けて、小計を算出し、資料に付随して登録した付随メディア数も示した。また、合計については、登録件数に加え、登録点数を算出した（47 ページを参照）。

分野	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
【資料】〈標本〉														
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754		1,333	1,281	1,507	1,981	9,879	10,136
植物群落									10	40	64		58	
コケ		2,670	14	83	6	7	61							
菌類・地衣類			2	459	218	1,717	1,001							
藻類														
植物その他				5			2							
•1 魚類		399	1,180	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879	1,635	2,583	3,127	2,377
哺乳類		1,432	65	1				417	170	8	21	64	194	634
鳥類												4	149	212
両生類														
爬虫類														
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616		36	147	9	93	12	397	136
甲殻類					4,218			12			15	439	559	1,520
動物その他					28	4	2	11						8
昆虫		26,839	817	742	623	6						1		
クモ														
化石		2,220	3,477	21	594	2,304		72	24	3		86	1	17
岩石			492	259	52	32			1,173	128		434		
鉱物		181		92					1,472			5	11,061	
地質・ボーリング		1											1	
はぎ取り														
地学その他														
衛星画像										401		27		234
•1 小計	0	204,466	8,358	8,887	12,559	12,678	5,260	1,879	6,051	2,749	3,335	5,636	25,426	15,274
【資料】〈アーカイブズ〉														
植物標本写真														
•2 魚類写真	1,345	4,949	5,091	5,364	6,005	6,440	7,110	11,522	7,211	7,525	4,424	977	2,964	2,303
哺乳類写真														
鳥類写真														
両生類写真														
爬虫類写真														
昆虫写真														
クモ写真														
衛星処理画像													70	42
景観画像													378	983
博物館活動														
菌類細密画														
甲殻類細密画												59	142	99
•2 小計	1,345	4,949	5,091	5,364	6,005	6,440	7,110	11,522	7,211	7,525	4,424	1,036	3,554	3,427
【資料】〈ライブラリー〉														
図書										11,355	886	772	900	970
雑誌										2,730	95	51	58	107
別刷り														
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,085	981	823	958	1,077
資料合計														
	1,345	209,415	13,449	14,251	18,564	19,118	12,370	13,401	13,262	24,359	8,740	7,495	29,938	19,778
【付随メディア】*2001年度のシステム更新により構築された。														
維管束植物								6						
非維管束植物														
植物その他														
魚類原画像														
魚類文書														
哺乳類											1		31	68
鳥類											98			28
両生類														
爬虫類														
無脊椎動物							112			9	1			1
昆虫原画像							798							
クモ原画像														
化石								4,100			2			
地学							100	886		73				
衛星画像										298	88	26		
菌類細密画														
甲殻類細密画												609	95	
小計							5,116	886		371	198	636	126	97

- *1 1995年度と1996年度の魚類の登録件数は、誤りを修正したため、年報第24号までの数値とは異なる。
- *2 魚類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第24号まで数値と異なる。
- *3 2014年度と2015年度のはぎ取りの登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
- *4 2015年度の両生類写真と爬虫類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
- *5 2015年度と2016年度の菌類細密画の登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
- *6 アーカイブズの甲殻類細密画の小計は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
- *7 付随メディアの登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
- *8 2017年度の図書、雑誌の登録件数は、誤りを修正したため、年報第23号までの数値とは異なる。

2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計		
												登録件数	登録点数	
13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	14,643	20,361	10,743	3,837	8,241	16,247	329,686	331,079	
				3		89						264	264	
				6,525		1			151		1	9,519	9,519	
	13,174	1,415	4,565	596	936	1,677	723	1,261	518	844	1,136	30,242	30,242	
2,062				1,368	906					239		4,575	4,575	
				247				1,391	80			1,725	1,727	
2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	2,013	2,371	1,942	2,723	5,706	4,453	55,239	107,815	
482	178	616	460	286	368	207	169	107	13	360	480	5,831	5,853	
281	76	209	434	196	102	30	244	120	59	28	45	3,090	3,096	
								286	52	141	10	1,280	1,280	
4	644	53	19	1	64	101	312	74	103	123	38	745	745	
314	4,626	4,165	3,228	1,592	449	700	543	3,789	1,250	1,188	3,272	32,772	32,772	
1,237	231	471	315	1,777	3,456	3,190	1,109	395	560	744	469	20,717	20,717	
3				10		31		4	10		2	114	114	
						8,846	11,629	11,466	3,073	7,333	6,082	77,457	77,457	
								20		333		353	353	
19	1,331	650	617	872	368	481	643	1,094	1,136	1,864	1,029	18,923	21,085	
1,008	2,266		172	200	160	205	304	1,845	1,564	2,100	2,170	14,564	14,564	
		4,297	1,956	225	107	2,512	738	5,375	1,400	1,707	2,921	34,049	34,082	
								1			1	2	6	6
						*3	7	*3	41			70	106	
							17			6		23	23	
81	36		135	24	60		55	57				1,110	1,110	
21,375	30,899	20,832	19,754	21,931	15,176	34,805	39,245	39,912	16,556	30,955	38,356	642,354	698,584	
4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	8,480	7,852	10,169	12,192	10,092	9,340	196,534	236,618	
								1	9	5	86	101	229	
								116	99	14	373	602	1,042	
						*4	21	34	20	56	22	153	342	
						*4	28	11	6	20	18	83	311	
										1,104		1,104	1,107	
										1		1	1	
17		7	6	3	8	1	4				4	162	162	
			1		1,099	115	144		8	13	283	3,024	3,024	
									1,079	39,633	6,706	3,859	51,277	51,279
								*5	*5	485	13	498	645	
	48	26	33	32	36	15	15		3	*6	67	575	575	
5,007	4,073	5,181	14,288	23,523	14,606	9,559	8,079	11,897	53,105	16,920	14,052	255,293	296,520	
1,299	531	564	643	1,798	1,756	1,939	1,468	1,234	*8	1,133	1,675	1,537	30,460	30,460
57	140	62	55	34	50	77	80	88	*8	90	69	73	3,916	3,916
								340					340	340
1,356	671	626	698	1,832	1,806	2,016	1,548	1,662		1,223	1,744	1,610	34,716	34,716
27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,588	46,380	48,872	53,471	70,886	49,619	54,018	932,363	1,029,820	
546	1,356		382		5,116	53	15	8	2			7,484	10,782	
												0	0	
				1,645								1,645	1,744	
15	1,397	3,477	2,113	22,124	3,974	8,222	8,654	9,904	9,664	9,588	7,999	87,131	112,270	
								6	2	195	3	206	226	
1		1				3	2			2	12	121	274	
							1	1	2			130	131	
							10	5	1	1	1	18	129	
		2					12	1		8		23	93	
159	32	33	6				3	7	4	3	6	376	592	
				1,195			2		9,829	115	1	11,940	12,136	
										1		1	1	
3	7	4	37	860	158	195	528	1,294	525	450	882	9,045	12,037	
131	908			13,518	160	30		16	3	555	1,065	17,445	31,024	
	10			492	84	55					57	1,110	1,110	
								458				458	538	
								814				1,518	1,518	
855	3,710	3,517	2,538	39,834	9,492	8,558	9,227	12,514	*7	20,032	10,918	10,026	138,651	184,605

3.5. ウェブサイトアクセス実績(トップページアクセス数)

教育局総務室 ICT 推進グループから送付されてくるウェブサイトアクセス数

月\年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
4月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979	11,071	15,489	15,131	15,404
5月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848	13,215	11,870	15,950	16,176
6月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055	15,225	14,086	12,910	14,200
7月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531	14,975	14,781	16,799	19,207
8月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083	16,654	19,838	22,899	25,040
9月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989	13,885	13,081	17,050	17,456
10月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232	13,843	14,690	17,037	18,089
11月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960	12,685	10,995	13,615	14,307
12月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984	11,129	9,720	11,474	12,054
1月				919	1,913	3,781	6,052	7,068	11,210	11,551	12,471	12,993	14,008	15,464
2月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583	11,680	11,580	13,607	14,965
3月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405	10,523	13,494	13,934	16,465
合計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200	157,356	162,617	184,414	198,827
1日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31	431.11	445.53	505.24	543.24

月\年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
4月	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	32,309	34,108	33,847	31,296	35,003	38,203	
5月	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	32,089	36,339	32,793	33,830	36,613	33,346	
6月	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	30,744	28,040	30,331	33,067	34,776	33,348	
7月	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	39,962	41,347	43,379	41,964	46,856	44,831	
8月	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	58,221	59,194	55,027	57,878	59,611	58,763	
9月	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	33,407	36,363	40,142	34,409	39,078	36,555	
10月	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	31,227	31,626	35,352	35,059	31,488	36,189	
11月	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	30,044	29,057	28,192	28,526	27,718	34,636	
12月	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	23,960	24,815	25,115	27,165	25,209	28,781	
1月	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	29,266	27,018	30,821	32,567	28,972	30,395	
2月	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	29,705	31,388	29,280	32,123	28,133	32,317	
3月	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	38,477	37,334	38,675	40,205	35,861	32,549	
合計	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	409,411	416,629	422,954	428,089	429,318	439,913	5,203,183
1日平均	527.23	536.89	595.42	624.31	799.16	1,013.31	1,121.67	1,138.33	1,158.78	1,172.85	1,176.21	1,201.95	

*印：マシントラブルのため、記録なし

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績(ページビュー数)

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
4月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695	166,484
5月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998	153,868
6月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450	144,236
7月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688	134,806
8月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450	148,590
9月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334	285,293
10月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688	225,939
11月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279	221,528
12月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850	294,780
1月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606	218,061
2月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702	255,931
3月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317	125,164
合計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057	2,374,680
1日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	8,376.65	4,598.52	6,505.97

月\年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
4月	162,602	309,246	91,705	92,795	99,257	166,540	107,702	
5月	313,999	163,432	143,909	109,061	93,503	135,032	113,327	
6月	212,569	171,152	92,868	135,356	101,096	284,671	140,252	
7月	152,539	139,031	108,716	113,189	103,761	132,036	364,318	
8月	177,790	154,394	100,596	95,387	110,866	138,800	119,873	
9月	82,260	195,767	138,967	110,293	76,050	292,529	122,094	
10月	154,416	136,219	523,166	158,321	146,460	91,936	124,846	
11月	149,742	158,264	103,959	115,347	88,389	107,602	125,917	
12月	225,794	154,851	95,505	114,781	79,371	58,432	148,417	
1月	123,939	153,369	185,669	77,331	84,827	80,193	90,129	
2月	117,098	209,135	323,135	87,150	96,391	125,974	154,174	
3月	106,299	137,904	107,145	135,892	113,430	117,955	173,945	
合計	1,979,047	2,082,764	2,015,340	1,344,903	1,193,401	1,731,700	1,784,994	27,587,086
1日平均	5,422.05	5,706.20	5,506.39	3,684.67	3,269.59	4,744.38	4,877.03	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の日本語版の数字

3.7. FishPix のアクセス実績 (ページビュー数)

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
4月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641	270,626
5月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441	160,802
6月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375	179,240
7月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507	205,817
8月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911	155,855
9月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732	341,199
10月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937	188,278
11月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063	272,550
12月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636	172,266
1月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540	244,346
2月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617	325,167
3月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119	102,502
合計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519	2,618,648
1日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	9,714.75	4,913.99	7,174.38

月\年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
4月	180,127	513,503	57,258	23,771	34,409	69,349	88,985	
5月	430,334	121,742	105,152	31,433	33,159	56,618	57,251	
6月	192,540	181,172	39,907	64,179	37,009	365,971	87,193	
7月	299,288	197,461	50,543	45,105	35,773	105,722	480,046	
8月	351,893	275,623	49,653	26,091	42,948	39,571	131,287	
9月	55,493	335,630	72,875	30,042	29,340	261,338	127,600	
10月	202,531	88,810	214,005	49,270	59,633	49,286	98,946	
11月	234,042	162,126	46,273	28,459	27,791	58,064	87,909	
12月	350,115	165,323	35,756	36,665	32,621	41,875	104,812	
1月	134,166	365,763	78,702	23,785	33,317	126,443	97,594	
2月	132,751	198,370	219,626	28,703	51,405	138,570	82,030	
3月	93,876	149,483	27,362	61,970	43,186	140,383	22,447	
合計	2,657,156	2,755,006	997,112	449,473	460,591	1,453,190	1,466,100	23,267,580
1日平均	7,279.88	7,547.96	2,724.35	1,231.43	1,261.89	3,981.34	4,005.74	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の英語版の数字

3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録 (参加者の→は各走開催中の人數動向)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
1	1997/10/17(金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
2	1997/11/ 7(金)	箱根美術館→強羅公園	32	26	30
3	1997/12/ 3(水)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	47	13	0
4	1998/ 1/28(水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
5	1998/ 2/25(水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
6	1998/ 3/11(水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
7	1998/ 4/ 3(金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
8	1998/ 5/27(水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
9	1998/ 6/17(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
10	1998/ 7/ 8(水)	箱根美術館→強羅公園	39	27	58
11	1998/ 8/26(水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
12	1998/ 9/30(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
13	1998/10/14(水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
14	1998/11/13(金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
15	1998/12/ 2(水)	本間寄木美術館	13	20	60
16	1999/ 1/20(水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
17	1999/ 2/ 3(水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
18	1999/ 3/23(火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
19	1999/ 4/16(金)	MOA美術館	150	25	100
20	1999/ 5/26(水)	箱根美術館→強羅公園	92	26	50
21	1999/ 6/29(火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
22	1999/ 7/22(木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
23	1999/ 8/25(水)	箱根町立箱根湿生花園→箱根武士の里美術館	25	30	20
24	1999/ 9/22(水)	彫刻の森美術館	14	19	40
25	1999/10/21(木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
26	1999/11/19(金)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	20	18	160
27	1999/12/ 9(木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
28	2000/ 1/19(水)	本間寄木美術館	10	18	50

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
29	2000/ 2/24(木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
30	2000/ 3/30(木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
31	2000/ 4/18(火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53
32	2000/ 5/19(金)	パール下中記念館	22	15	23
33	2000/ 6/ 7(水)	箱根美術館→強羅公園	46	20	67
34	2000/ 7/13(木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
35	2000/ 8/23(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
36	2000/ 9/13(水)	報徳博物館	27	17	16
37	2000/10/12(木)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	10	21	60
38	2000/11/ 2(木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
39	2000/12/ 8(金)	箱根ビジターセンター→箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
40	2001/ 1/25(木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
41	2001/ 2/22(木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
42	2001/ 3/23(金)	彫刻の森美術館	5	16	30
43	2001/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
44	2001/ 5/16(水)	箱根☆サン=テグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
45	2001/ 6/ 8(金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
46	2001/ 7/19(木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老樾荘」	30	17	30
47	2001/ 8/30(木)	彫刻の森美術館(昼・夜 2回開催)	20→30	23→23	30→0
48	2001/ 9/27(木)	Antique Museum・江戸民具街道	20	16	30
49	2001/10/12(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	7	26	60
50	2001/11/ 9(金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
51	2001/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	50	16	30
52	2002/ 1/25(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
53	2002/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
54	2002/ 3/22(金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
55	2002/ 4/14(日)	MOA美術館	3	15	0
56	2002/ 5/16(木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
57	2002/ 6/14(金)	箱根ビジターセンター	17	15	42
58	2002/ 7/12(金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン→松田町自然館	10	12	16
59	2002/ 8/23(金)	彫刻の森美術館	15	26	0
60	2002/ 9/13(金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
61	2002/10/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	9	22	0
62	2002/11/ 1(金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
63	2002/12/12(木)	箱根園水族館	8	20	50
64	2003/ 1/17(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	12	18	22
65	2003/ 2/14(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20	22	60
66	2003/ 3/14(金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
67	2003/ 4/11(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
68	2003/ 5/15(木)	Antique Museum・江戸民具街道	27	18	45
69	2003/ 6/ 6(金)	生命の星・地球博物館→鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
70	2003/ 7/25(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージーゼ	20	19	13
71	2003/ 8/ 8(金)	MOA美術館	17	17	0
72	2003/ 9/30(火)	ポーラ美術館	63	23	0
73	2003/10/30(木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
74	2003/11/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	37	22	40
75	2003/12/11(木)	箱根園水族館	10	11	30
76	2004/ 1/16(金)	生命の星・地球博物館→本間寄木美術館	16	18	15
77	2004/ 2/20(金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
78	2004/ 3/18(木)	彫刻の森美術館	13	17	5
79	2004/ 4/16(金)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	26	19	40
80	2004/ 5/ 9(日)	箱根美術館→強羅公園→箱根写真美術館	43	19	0
81	2004/ 6/15(火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
82	2004/ 7/ 2(金)	ポーラ美術館	61	22	15
83	2004/ 8/20(金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
84	2004/ 9/ 3(金)	小田原城天守閣	14	11	0
85	2004/10/15(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	20	18	38
86	2004/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田原箱根ベゴニア園→箱根おもちゃ博物館→オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
87	2004/12/10(金)	MOA美術館	37	10	30
88	2005/ 1/14(金)	箱根園水族館→箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
89	2005/ 2/25(金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
90	2005/ 3/17(木)	彫刻の森美術館	44	25	0
91	2005/ 4/15(金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
92	2005/ 5/18(水)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	15→23	10→11	40→40

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
93	2005/ 6/10(金)	ポーラ美術館	70	29	40
94	2005/ 7/ 6(水)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
95	2005/ 8/29(月)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
96	2005/ 9/28(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
97	2005/10/12(水)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
98	2005/11/29(火)	箱根園水族館	30	13	40
99	2005/12/ 8(木)	箱根町立関所資料館→箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
100	2006/ 1/14(土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10
101	2006/ 2/10(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージゼ	25→25	22→22	
102	2006/ 3/17(金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
103	2006/ 4/21(金)	ポーラ美術館	73	19	68
104	2006/ 5/10(水)	箱根駅伝ミュージアム→函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
105	2006/ 6/17(土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
106	2006/ 7/ 6(木)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根湿生花園	12→15	7→11	60→60
107	2006/ 8/31(木)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
108	2006/ 9/22(金)	箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
109	2006/10/13(金)	MOA美術館	53	15	45
110	2006/11/10(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
111	2006/12/ 8(金)	箱根ガラスの森美術館	30	14	26
112	2007/ 1/19(金)	箱根園水族館	24	20	34
113	2007/ 2/23(金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
114	2007/ 3/ 9(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
115	2007/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
116	2007/ 5/16(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
117	2007/ 6/29(金)	鈴廣のかまぼこ博物館→湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
118	2007/ 7/13(金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
119	2007/ 8/28(火)	箱根町立箱根関所→箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
120	2007/ 9/ 8(土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
121	2007/10/26(金)	箱根町立箱根湿生花園→彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
122	2007/11/13(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
123	2007/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→箱根写真美術館→強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
124	2008/ 1/18(金)	箱根園水族館→箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
125	2008/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34
126	2008/ 3/19(水)	本間寄木美術館→小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
127	2008/ 4/23(水)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	12→40	5→13	0
128	2008/ 5/21(水)	箱根美術館→強羅公園	30→30	12→10	64→65
129	2008/ 6/24(火)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	14→38	13→14	64→64
130	2008/ 7/15(火)	彫刻の森美術館→箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
131	2008/ 8/29(火)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根神社宝物殿→箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
132	2008/ 9/16(火)	箱根町立箱根関所→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	3→4	11→8	50→50
133	2008/10/29(水)	箱根ラリック美術館→箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
134	2008/11/ 7(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
135	2008/12/10(水)	小田原箱根ベゴニア園→箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
136	2009/ 1/30(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
137	2009/ 2/17(火)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
138	2009/ 3/19(木)	松永記念館→小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
139	2009/ 4/21(火)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	18→39	5→10	0
140	2009/ 5/15(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
141	2009/ 6/12(金)	小田原フラワーガーデン→松永記念館	12→10	11→15	0
142	2009/ 7/17(金)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
143	2009/ 8/28(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
144	2009/ 9/29(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
145	2009/10/16(金)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	17→9	5→11	39→0
146	2009/11/27(金)	箱根町立郷土資料館→小田原箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
147	2009/12/11(金)	箱根ラリック美術館→箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
148	2010/ 1/29(金)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	12→31	11→11	0→30
149	2010/ 2/ 5(金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館→小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
150	2010/ 3/ 5(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
151	2010/ 4/27(火)	彫刻の森美術館	11	6	0
152	2010/ 5/18(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
153	2010/ 6/ 8(火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
154	2010/ 7/ 2(金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根町立芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
155	2010/ 8/27(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
156	2010/ 9/17(金)	箱根ビジターセンター→ポーラ美術館	11→60	7→12	0

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
157	2010/10/15(金)	真鶴町立遠藤貝類博物館→真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
158	2010/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田原市郷土文化館→小田原城	19→21	6→6	0
159	2010/12/10(金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
160	2011/ 1/16(日)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
161	2011/ 2/18(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
162	2011/ 3/ 4(金)	鈴廣のかまぼこ博物館→小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
163	2011/ 4/27(水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
164	2011/ 5/17(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
165	2011/ 6/ 8(水)	箱根ガラスの森美術館→小田原城	23→9	8→4	47→0
166	2011/ 7/ 8(金)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	13→63	7→27	0
167	2011/ 8/24(木)	松永記念館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0
168	2011/ 9/ 3(土)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	10→6	6→5	0
169	2011/10/14(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
170	2011/11/18(金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
171	2011/12/16(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュベリ	50→65→17	5→9→4	0
172	2012/ 1/20(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	16→13	4→4	0
173	2012/ 2/ 3(金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
174	2012/ 3/ 2(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
175	2012/ 4/20(金)	小田原市郷土文化館→彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
176	2012/ 5/18(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
177	2012/ 6/21(木)	箱根マイセンアンティーク美術館→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
178	2012/ 7/ 6(水)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	26→55	4→4	0
179	2012/ 8/23(木)	箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
180	2012/ 9/ 5(水)	箱根ビジターセンター→箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
181	2012/10/17(水)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
182	2012/11/15(木)	小田原城→箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
183	2012/12/13(木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュベリ	34→14	4→3	40→40
184	2013/ 1/17(木)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
185	2013/ 2/ 6(水)	小田原フラワーガーデン→すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
186	2013/ 3/ 1(金)	江戸民具街道→生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
187	2013/ 4/19(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	6→15	2→3	0
188	2013/ 5/17(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35
189	2013/ 6/ 7(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43
190	2013/ 7/10(水)	箱根ガラスの森美術館→箱根ビジターセンター	66→25	10→8	0
191	2013/ 8/23(金)	箱根町立箱根湿生花園→生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
192	2013/ 9/13(金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	22→60	8→20	0
193	2013/10/17(木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
194	2013/11/15(金)	箱根町立郷土資料館→小田原城→小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
195	2013/12/17(火)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュベリ	30→17	10→11	0
196	2014/ 1/24(金)	松永記念館→人間国宝美術館	14→11	8→7	0
197	2014/ 2/28(金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
198	2014/ 3/26(水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0
199	2014/ 4/25(金)	箱根駅伝ミュージアム	1	2	0
200	2014/ 5/16(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	34→34→34	19→19→19	0
201	2014/ 6/13(金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	13→11	7→5	0
202	2014/ 7/ 9(水)	箱根ガラスの森美術館	31	8	0
203	2014/ 7/11(金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	3→7	4→4	0
204	2014/ 8/29(金)	箱根町立箱根湿性花園→箱根ビジターセンター	17→15	4→4	0
205	2014/ 9/25(木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→17→14	4→5→6	0
206	2014/10/24(金)	箱根町立郷土資料館→小田原文学館→小田原城	11→14→18	5→5→6	0
207	2014/11/ 7(金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	17→70	3→5	0
208	2014/12/ 5(金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュベリ	40→12	6→8	0
209	2015/ 1/23(金)	湯河原町立湯河原美術館→人間国宝美術館	14→18	3→3	0
210	2015/ 2/27(金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	20→3	7→1	0
211	2015/ 3/20(金)	徳富蘇峰記念館→小田原市郷土文化館→生命の星・地球博物館	22→11→21	3→3→3	0
212	2015/ 4/24(金)	小田原城→小田原市郷土文化館	39→20	4→3	0
213	2015/ 5/15(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→30→30	8→3→3	0
214	2015/ 6/26(金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	16→9	3→2	0
215	2015/ 7/ 8(水)	箱根ガラスの森美術館→ポーラ美術館	70→103	5→10	0
216	2015/ 8/21(金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→11	6→3	0
217	2015/ 9/25(金)	彫刻の森美術館→神奈川県立恩賜箱根公園	15→11	2→2	0
218	2015/10/16(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	24→18	3→3	0
219	2015/11/13(金)	小田原文学館→MOA美術館	5→37	2→1	0
220	2015/12/ 2(水)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュベリ	48→24	5→5	0

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
221	2016/ 1/ 8 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム	31→11	3→3	0
222	2016/ 2/26 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	14→5	1→3	0
223	2016/ 3/18 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→13	4→1	0
224	2016/ 4/22 (金)	本間寄木美術館	34	8	0
225	2016/ 5/13 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	11→11→10	2→1→2	0
226	2016/ 5/27 (金)	箱根関所→彫刻の森美術館	17→10	5→4	0
227	2016/ 7/13 (水)	星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ→箱根ガラスの森美術館	6→32	2→8	0
228	2016/ 8/26 (金)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ビジターセンター	3→8	4→5	0
229	2016/ 9/28 (水)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→8	4→4	0
230	2016/10/21 (金)	松田山ハーブガーデン→箱根町立郷土資料館	4→3	3→5	0
231	2016/11/25 (金)	小田原文学館→松永記念館	7→14	2→3	0
232	2016/12/ 2 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根ラリック美術館	13→19	3→4	0
233	2017/ 1/12 (木)	小田原城	54	5	0
234	2017/ 2/24 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	18→21	3→3	0
235	2017/ 3/17 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→10	2→1	0
236	2017/ 4/21 (金)	MOA美術館→小田原城天守閣	22→33	3→4	0
237	2017/ 5/19 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	14→14→12	3→2→2	0
238	2017/ 6/ 2 (金)	松田山ハーブガーデン→小田原市尊徳記念館	7→11	2→3	0
239	2017/ 7/12 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	5→27	3→7	0
240	2017/ 8/25 (金)	箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→9	1→1	0
241	2017/ 9/22 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園→本間寄木美術館	9→9→23	3→2→4	0
242	2017/10/27 (金)	小田原文学館→小田原城天守閣	10→12	2→3	0
243	2017/11/17 (金)	松永記念館→箱根町立郷土資料館	13→7	2→2	0
244	2017/12/ 1 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根神社宝物殿	30→27	2→2	0
245	2017/12/15 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	21→7	2→1	0
246	2018/ 2/23 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	7→11	2→3	0
247	2018/ 3/16 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	9→11	2→2	0
248	2018/ 4/20 (金)	箱根ビジターセンター→箱根湿生花園	14→14	4→3	0
249	2018/ 5/16 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	15→15→15	4→4→4	0
250	2018/ 7/18 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	1→24	4→10	0
251	2018/ 8/24 (金)	生命の星・地球博物館→小田原市尊徳記念館	14→10	2→2	0
252	2018/ 9/14 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園	16→9	2→2	0
253	2018/10/19 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	10→8	4→3	0
254	2018/11/ 9 (金)	小田原文学館→松永記念館	8→13	1→1	0
255	2018/11/16 (金)	徳富蘇峰記念館→箱根町立郷土資料館	8→18	4→1	0
256	2018/12/ 7 (金)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	5→14	1→1	0
257	2018/12/13 (木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	24→8	1→1	0
258	2019/ 2/ 8 (金)	MOA美術館	20	3	0
259	2019/ 3/ 8 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	5→8	1→3	0
260	2019/ 3/15 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	5→6	1→2	0
261	2019/ 4/19 (金)	箱根ビジターセンター→箱根湿生花園	15→14	1→1	0
262	2019/ 5/15 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	7→7→7	3→2→2	0
263	2019/ 7/ 5 (金)	小田原文学館→小田原市尊徳記念館	19→10	2→1	0
264	2019/ 7/17 (水)	星の王子さまミュージアム→箱根ガラスの森美術館	9→20	1→1	0
265	2019/ 8/23 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	4→3	1→1	0
266	2019/ 9/ 6 (金)	箱根駅伝ミュージアム→生命の星・地球博物館	3→6	1→1	0
267	2019/ 9/20 (金)	箱根ドールハウス美術館	7	2	0
268	2019/10/ 4 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園	6→6	1→2	0
269	2019/10/25 (金)	中川一政美術館→遠藤貝類博物館	7→6	2→2	0
270	2019/11/15 (金)	二宮町ふたみ記念館→箱根町立郷土資料館	40→23	5→2	0
271	2019/12/ 6 (金)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	8→19	1→1	0
272	2019/12/12 (木)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館	39→38	1→1	0
273	2020/ 2/ 7 (金)	小田原フラワーガーデン	10	3	0
274	2020/ 3/ 6 (金)	松永記念館→生命の星・地球博物館	中止	中止	中止

3.9. 来館者アンケート

来館者の来館回数、満足度等のアンケートを行った。また、イベント開催中にアンケートを実施することで、広報物(チラシ等)の効果を調べる基礎資料とした。

3.9.1. 館内での満足度調査(シール式)

[調査方法]

エントランスホールにて、博物館観覧後の満足度を4区分の中から選択し、該当箇所にシールを貼ってもらった。

[調査期間]

2020年2月22日(土)～3月1日(日)

[回答数]

125点

期間中入館者数4,698名、調査協力率2.7%

[調査項目]

4区分(満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満)

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
113	11	1	0
90.4%	8.8%	0.8%	0.0%

3.9.2. 常設展示室での利用者アンケート(シール式)

[調査方法]

1階常設展示入口内にポスターを掲示して、自身の居住地域の欄にシールを貼ってもらった。

[調査期間と時間]

2019年4月27日(土)～5月6日(月) 午前9時～午後4時30分

2019年7月4日(木)～7月19日(金) 午前9時～午後4時30分

[集計結果]

調査期間の入館者数とアンケート協力者数

期 間	入館者数	協力者数	協力者の割合
2019年4月27日～5月6日	22,926	4,660	20.3%
2019年7月4日～7月19日	17,672	1,602	9.1%
全期間の合計	40,598	6,262	15.4%

居住地域(大区分) ※関東地方に神奈川県は含めていません。

期 間	神奈川県	関東地方	北海道	東北地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州・沖縄地方	外国
2019年4月27日～5月6日	2,668	1,317	20	59	329	84	18	18	28	119
2019年7月4日～7月19日	915	431	6	5	123	22	4	8	9	79
全期間の合計	3,583	1,748	26	64	452	106	22	26	37	198

居住地域(神奈川県内-中区分)

期 間	横浜市	川崎市	相模原市	県西地域	県央地域	湘南地域	横須賀三浦
2019年4月27日～5月6日	825	265	180	295	298	662	143
2019年7月4日～7月19日	244	78	40	101	147	251	54
全期間の合計	1,069	343	220	396	445	913	197

居住地域(近隣都県)

期 間	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	山梨県	静岡県
2019年4月27日～5月6日	36	46	31	220	152	832	24	227
2019年7月4日～7月19日	12	8	17	71	72	251	17	86
全期間の合計	48	54	48	291	224	1,083	41	313

居住地域(外国)

期 間	中国	韓国	台湾	香港	タイ	マレーシア	インドネシア	シンガポール
2019年4月27日～5月6日	21	10	3	0	7	1	4	1
2019年7月4日～7月19日	10	2	3	4	1	0	0	8
全期間の合計	31	12	6	4	8	1	4	9
期 間	フィリピン	ベトナム	インド	その他アジア	イギリス	フランス	ドイツ	その他ヨーロッパ
2019年4月27日～5月6日	11	1	6	1	4	6	3	2
2019年7月4日～7月19日	0	1	0	7	3	4	1	4
全期間の合計	11	2	6	8	7	10	4	6

期 間	アメリカ	カナダ	その他北米	その他南米	オーストラリア	その他 オセアニア	アフリカ諸国
2019年4月27日～5月6日	20	7	1	4	3	1	2
2019年7月4日～7月19日	19	3	1	1	6	1	0
全期間の合計	39	10	2	5	9	2	2

居住地域（県内市町村－横浜市）

期 間	鶴見区	神奈川区	西区	中区	南区	保土ヶ谷区	磯子区	金沢区	港北区
2019年4月27日～5月6日	60	52	22	11	40	33	29	48	51
2019年7月4日～7月19日	17	16	7	4	9	11	7	14	22
全期間の合計	77	68	29	15	49	44	36	62	73
期 間	戸塚区	港南区	旭区	緑区	瀬谷区	栄区	泉区	青葉区	都筑区
2019年4月27日～5月6日	114	58	36	36	32	28	41	88	46
2019年7月4日～7月19日	22	9	14	23	12	14	10	19	14
全期間の合計	136	67	50	59	44	42	51	107	60

居住地域（県内市町村－川崎市・相模原市）

期 間	川崎区	幸区	中原区	高津区	多摩区	宮前区	麻生区	緑区	中央区	南区
2019年4月27日～5月6日	16	36	39	34	51	45	44	20	65	95
2019年7月4日～7月19日	11	13	20	8	12	6	8	9	24	7
全期間の合計	27	49	59	42	63	51	52	29	89	102

居住地域（その他の市町村）

期 間	小田原市	南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	箱根町	真鶴町	湯河原町
2019年4月27日～5月6日	209	19	3	11	8	3	32	3	2	5
2019年7月4日～7月19日	57	6	0	2	4	5	12	0	2	13
全期間の合計	266	25	3	13	12	8	44	3	4	18
期 間	平塚市	藤沢市	茅ヶ崎市	秦野市	伊勢原市	寒川町	大磯町	二宮町	横須賀市	鎌倉市
2019年4月27日～5月6日	138	197	104	84	83	21	7	28	72	52
2019年7月4日～7月19日	49	50	43	58	24	13	11	3	12	19
全期間の合計	187	247	147	142	107	34	18	31	84	71
期 間	厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	愛川町	清川村	逗子市	三浦市	葉山町
2019年4月27日～5月6日	92	60	53	42	36	13	2	7	2	10
2019年7月4日～7月19日	69	16	23	15	13	7	4	10	3	10
全期間の合計	161	76	76	57	49	20	6	17	5	20

居住地域（小田原市詳細－小区分）

期 間	緑	新玉	幸	万年	十字	片浦	早川	大窪	山王網一色
2019年4月27日～5月6日	9	1	4	4	10	0	8	9	9
2019年7月4日～7月19日	1	1	3	0	3	0	3	0	0
全期間の合計	10	2	7	4	13	0	11	9	9
期 間	足柄	芦子	二川	久野	東富水	富水	桜井	酒匂小八幡	下府中
2019年4月27日～5月6日	5	10	5	10	11	18	21	8	24
2019年7月4日～7月19日	2	3	1	3	2	6	6	4	5
全期間の合計	7	13	6	13	13	24	27	12	29
期 間	富士見	豊川	上府中	曾我	下曾我	国府津	前羽	橋北	
2019年4月27日～5月6日	4	13	9	0	0	7	4	6	
2019年7月4日～7月19日	0	1	2	0	6	2	1	2	
全期間の合計	4	14	11	0	6	9	5	8	

3.9.3. 特別展観覧者へのアンケート

[調査方法]

特別展実施期間中に特別展示室内にアンケート用紙を設置し、入室者に記入してもらった。

[調査期間]

8月15日～11月10日の開館中(74日間) ※特別展期間100日の74%

[アンケート回答数]

490枚

[調査結果]

年齢の内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	その他	合計
298	18	24	39	19	19	29	44	490
60.8%	3.7%	4.9%	8.0%	3.9%	3.9%	5.9%	9.0%	100.0%

来館者の居住地

神奈川県	東京都	静岡県	埼玉県	千葉県	山梨県	その他	合計
287	69	66	18	22	11	17	490
58.6%	14.1%	13.5%	3.7%	4.5%	2.2%	3.5%	100.0%

特別展の開催をどこで知ったか

チラシ	ポスター	県のたより	キャンパスおだわら	おこながわサイエンスサマー	新聞	tvkデータ放送	当館ウェブサイト	当館Twitter	当館以外のTwitter	Facebook	知人・家族から	来館して初めて知った	その他	回答無し	合計
58	25	10	1	6	7	1	42	3	2	3	86	137	116	17	514
11.3%	4.9%	1.9%	0.2%	1.2%	1.4%	0.2%	8.2%	0.6%	0.4%	0.6%	16.7%	26.7%	22.6%	3.3%	100.0%

上記、特別展の開催をどこで知ったかにチラシと回答した人（58人）の、チラシ入手先の内訳

学校	他の美術館博物館	当館内	宿泊施設	図書館	駅	勤務先	照ヶ崎海岸	その他	回答無し
8	11	5	3	4	1	2	1	1	22

上記、特別展の開催をどこで知ったかにその他と回答した人（116人）のその他の内訳

学校行事	インスタグラム	テレビ番組	こまたん	子ども会	その他	回答無し
82	3	1	1	3	21	5

3.9.4. 講座参加者へのアンケート（記入式）

[調査方法]

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

[調査対象]

博物館講座のうち、ボランティア入門講座、雨天等中止講座を除く 38 講座について、講座終了後にアンケートを行い、509 名の回答を得た。なお、講座が 2 日間以上にまたがっている場合は、その講座の最終日の終了後に調査した。

[調査結果]

講座参加者の世代等の内訳

小学校 低学年生	小学校 高学年生	中学生	高校生	学生	一般成人	65才以上	教員	合計
55	87	27	2	11	213	58	56	509
10.8%	17.1%	5.3%	0.4%	2.2%	41.8%	11.4%	11.0%	100.0%

過去の講座への参加について

今回が初めて	過去1年以内に参加有	それ以前に参加有	未回答
300	141	67	1
58.9%	27.7%	13.2%	0.2%

どこで(何で)講座を知りましたか（複数回答有り）

県のたより	学校で配られた情報	その他の情報誌	博物館HP	家族・友人	友の会	博物館催物案内	新聞・テレビ・ラジオ等	そのほか
48	14	13	284	57	17	78	2	26
9.4%	2.8%	2.6%	55.8%	11.2%	3.3%	15.3%	0.4%	5.1%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容がおもしろかった	内容がつまらなかった	内容がわかりにくい	教え方が良かった	もっとはやくてよかった	もっとゆっくりがいい	説明がわかりにくい	講座の内容が違った
464	0	5	321	20	18	9	19
91.2%	0.0%	1.0%	63.1%	3.9%	3.5%	1.8%	3.7%

また参加したいですか（複数回答有り）

もっと上のレベルに参加したい	同じ内容なら参加したい	もっと下のレベルへ参加したい	もう参加したくない
229	291	55	3
45.0%	57.2%	10.8%	0.6%

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

4.1.1. 博物館基礎研究（総合研究）

『入生田菌類誌資料 第2巻』刊行に向けた菌類調査

[研究期間] 平成29年度～令和1年度

[研究担当者] 折原貴道・大坪 奏・出川洋介

[研究内容]

本研究は、2011年に公開された『入生田菌類誌資料 第1巻』に続く、同資料第2巻の刊行に向け、メンバー体制や目標掲載種数をより拡大させて小田原市入生田周辺での菌類調査を行い、地域の菌類相に関する先駆的かつより実用的な資料の完成を目指すものである。

本課題の実施にあたっては、博物館菌類ボランティアメンバーに加え、博物館友の会「菌学事始め勉強会」メンバーや菌類を専攻する学生など、総勢58名が参加し、市民参加型調査の形態をとった。2019年度にはこれらのメンバーからなる「生命の星・地球博物館 入生田菌類誌調査グループ」が結成された。『入生田菌類誌資料 第2巻』（注：本課題を進める過程で、名称を『新・入生田菌類誌（仮称）』と変更した）の掲載種原稿は、形態的特徴の記載のほか標本情報、生態写真・顕微鏡写真、DNA バーコーディング領域（核リボソーム RNA 遺伝子 ITS 領域）の塩基配列情報、線

画などからなり、執筆は各自の興味に応じて担子菌門・子囊菌門のきのこ類、植物病原菌類、接合菌門その他の微小菌類、地衣類、および変形菌類の各グループに分かれて行われた。DNA 抽出や PCR 等の分子実験についても、メンバーが中心となって行われた。

課題の実施期間中に（2017年4月1日～2020年3月31日）、メンバーらにより計750点の入生田産菌類の標本が採集され、当館に収蔵された。これらをもとに原稿執筆を進め、掲載種原稿は現在までに76種の原稿が集まった（一部は未完成）。しかし、未提出の原稿も全体の4分の1ほど残されており、これらの完成とそれに続く編集が喫緊の課題である。冊子体の出版にあたって、予算の確保が難航し、一時期、事業の継続が困難になったが、2020年2月に印刷・出版のための外部助成金が採択され、これを元手に出版の実現に向けて準備を進めている。なお、『新・入生田菌類誌（仮称）』の出版費は本研究の予算には計上されておらず、「入生田菌類誌調査グループ」により令和2年度中に発行される予定である。また、本研究の成果の一部は、令和2年度の当館企画展においても公開される予定である。

4.1.2. 博物館基礎研究（個別研究）

相模湾およびその隣接海域における魚類の分類および生物地理学的研究

[研究期間] 平成29年度～令和1年度

[研究担当者] 瀬能 宏

[研究内容]

2017～2019年度までの3年間に当館に収蔵されている資料（標本および画像）中心とした調査を行った。その結果、相模湾および隣接海域に出現する沿岸魚類について以下の分類学的・生物地理学的新知見が得られた。

【分類学的研究成果】

新種記載：ゲッコウスズメダイ（タイプ産地：城ヶ崎海岸）、パンダゲンロクダイ（分布地：駿河湾）、オトヒメベラ（日本産の個体群は未記載種；論文受理済み）。

再同定種：ウシマンボウ（マンボウの誤同定；相模湾2例目）、ムラモミジハナダイ（チビハナダイの誤同定）。

【生物地理学的研究成果】

日本初記録種：アマノガワギンガエソ（駿河湾）、デイゴハナダイ（伊豆大島）、ヤシヤカマス（相模湾）。

相模湾初記録種：ギンザケ、トミハダカ、セボシイソカ

サゴ、ヒュウガカサゴ、イブシギンヤセムツ、ヌメリテンジクダイ、ツルギエチオピア、フチドリズメダイ、キスジトラギス、スジクロハギ、イレズミニザ、クロモンツキ、テンジクタチ。

駿河湾初記録種：ミツボシカスベ（南限）、ツマグロアオメエソ、イトヒキヒメ、ルソンベニテグリ、アオマトウダイ（北限）。

東京湾初記録：ヒメオコゼ、セレバスゴチ、ニセクロホシフエダイ、キグチ、ウミシヨウハゼ、コツキノワガレイ

静岡県・神奈川県初記録：タネカワハゼ（北限更新）。

調査海域において北上傾向あるいは増加傾向が認められた熱帯・亜熱帯・暖温帯性魚類は以下の通りである：カタボシイワシ（記録増加）、ガンテンイシヨウジ（定着）、オニボラ（北限・東限）、チャイロマルハタ（北限・東限）、トビハタ（記録増加）、ゴマフエダイ（記録増加）、ナミフエダイ（伊豆半島初記録）、オキフエダイ（記録増加）、ニセクロホシフエダイ（東限）、クロコシヨウダイ（標本に基づく神奈川県初記録）、エリアカコシヨウダイ（北限）、ユゴイ（記

録増加)、オオクチュゴイ(東限)、テンジクカワアナゴ(東限)、タメトモハゼ(東限)、チワラスボ(東限)、ミナミサルハゼ(東限)、カマヒレマツゲハゼ(北限・東限)、ヒトミハゼ(神奈川県初記録;北限・東限)、タネハゼ(東限)、ノボリハゼ(北限)、クチサケハゼ(関東初記録;北限)、ヒナハゼ(千葉県外房初記録;東限)、シジミハゼ(記録増加)、クロホシヤハズハゼ(東限)、クロコハゼ(東限)、ミナミヒメハゼ(東限)、クロホシマンジュウダイ(記録増加)、カシミフグ(北限・東限)。

博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築

[研究期間] 平成29年度～令和1年度

[研究担当者] 大西 亘

[研究内容]

自然史博物館に集積された標本と、標本を証拠として得られた研究成果の間に存在する引用・被引用の関係性を元に、相互参照可能なデータベースを構築した。それにより、(A) 自然史研究の証拠である博物館標本の存在を可視化するとともに、(B) 広範な利用者に対する博物館標本の利用機会の創出を図った。具体的には、地方自然史系博物館に収蔵された植物標本を対象として、植物標本とそれらを証拠として引用している学術論文や学術系著作などの引用著作物が存在するものを抽出し、引用・被引用の相互参照が可能なデータベースを整備した。また、データベースの構築を通じて、自然史系博物館資料における「博物館資料－引用研究成果」データベース整備のために有効な手法と解決すべき課題の整理を実践的に行うことを研究の目的とした。

第一段階として、“被引用”資料情報と“引用”研究成果情報の収集を行った。まず、“被引用”資料情報を効率的に収集する手法についての調査を行った。続いて、引用情報を備えた資料データベースと研究成果情報データベースと

の連携の仕組みを構築した。

第二段階として、“被引用”資料情報を効率的に収集する手法とその課題について体系的な整理を行った。第一段階でも対象とした、引用情報を備えた資料データベースと研究成果情報データベースとの連携の仕組みの構築については、公開・発信可能な形でデータベースの構築を行った。さらに、第三段階へ向けて“被引用”資料情報を多様な利用者へ発信するための効率的な手法について実践的に調査を行った。

第三段階として、第一、第二段階で構築した、資料データベースと研究成果情報データベースとの連携の仕組み、および“被引用”資料情報を多様な利用者へ発信するための効率的な手法についての情報を用いて、引用情報を備えた博物館収蔵資料データベースを、研究成果情報データベースと連携する形で構築した。

島根県の古浦層から産出したイノシシ科臼歯化石の分類学的研究(2)

[研究期間] 平成31年度(令和1年度)

[研究担当者] 大島光春

[研究内容]

本研究では、島根県松江市美保関町に分布する古浦層から産出した、日本最古となるイノシシ科臼歯化石の分類学的な位置を検討する。既にユーラシア大陸の前期中新世イノシシ類10属(Harris & Liu, 2007)のうち、*Iophodont* や下顎しか知られていないものを除いた *Hyotherium*、*Palaeochoerus*、*Pecarichoerus*、*Aureliachoerus*、*Conohyus*、*Taucanamo* の6属と比較を終えている。本標本は *Hyotherium* 属の右 M3 と考えられ、日本における *Hyotherium* 属の出現時期が前期中新世まで遡れる可能性が高い。しかし、*Hyotherium* 属の中で本標本のように M3 の近心側最大頬舌径(W1)と遠心側最大頬舌径(W2)がほぼ同じと記載された種はなく、結論を出せないままである。

4.1.3. 外来研究員による研究

ゴキブリ類の比較発生学的研究

[研究担当者] 藤田麻里

[研究内容]

系統学的議論の定まらない生物群の系統進化学的理解において、各群のグラウンドプランの構築が可能な比較発生学的アプローチは、有効な方法の一つである。昆虫類の98%は新翅類というグループが占めているが、この新翅類の初期の爆発的放散に直接由来した多新翅類の一群であるゴキブリ類は、昆虫類を理解する上で鍵を握る重要なグループの一つである。以上から、ゴキブリ類内の全グループを対象とした包括的比較発生学的検証を行い、類内のグラウンドプランの構築と系統進化学的議論の発展を目的に研究を行った。

本年度は、神奈川県で初確認されたウルシゴキブリ *Periplaneta japanna* Asahina, 1969 に焦点を当てて調査および観察を行った。ウルシゴキブリは、クロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa* やワモンゴキブリ *Periplaneta americana* といった家住性害虫種を含むゴキブリ属(*Periplaneta*)に分類され、日本在来の野生種として知られる。本種は、これまでに伊豆諸島から四国、九州、琉球列島まで分布が知られており、2018年には、初めて神奈川県三浦市の油壺マリンパークの駐車場で雌成虫1個体が発見された(内船・永嶋, 2019)。研究担当者は、2019年3月に、横須賀市自然・人文博物館の内船俊樹博士のご協力のもと、上述の三浦市の同サイトにて調査および採集を実施し、周辺の朽木の樹皮下にて、単独あるいは数個体による

小集団をいくつか確認、最終的に成虫 2 個体（雌雄各 1 個体）と、幼虫 24 個体の合計 26 個体を採集した。幼虫の内訳は、若齢（体長～12 mm）4 個体、中齢（体長 12 - 19 mm）14 個体、老齢（体長 19 mm～）6 個体であった。成虫の同定に関しては、本種とよく類似したクロゴキブリとは、概ね体サイズ・体色・前翅長と腹端との関係から、より詳細には肛上板の形態比較により 2 種を見分けることが可能である。しかしながら、幼虫に関しては、これまでのところ同定に利用できる有効な形態形質が明確にされていない。このことから、得られた幼虫の飼育実験と各個体の後胚発生の観察により種同定の検証を現在行っている。今後、他種との比較を行いながら、幼虫期における種同定形質の探索を継続する他、発生学的研究の基盤となる、累代飼育系の構築にも取り組んでいきたい。

小笠原諸島におけるヒメカタゾウムシ類の生態について

[研究担当者] 加賀玲子

[研究内容]

本研究の目的：近年小笠原では、干ばつ等の過激な気候変動、外来種（グリーンアノール等）の生息域の広がりにより、ヒメカタゾウムシ類は遺伝的な研究も十分にされないままに、個体数が急減する個体群も出てきた。まずはその生態、特に幼虫の食性や行動、蛹期の生息場所等の調査と、個体群ごとの成虫の後食植物について調査し、保全に向けての基礎的なデータとなることを目指す。

今年度は 6 月と 10 月の 2 回、それぞれ 10 日間ほどの現地調査を行った。その結果、土壌性のツチヒメカタゾウムシ類については、母島個体群で 2018 年 6 月を最後に生息が確認できていない場所があり、2016 年～2017 年の大干ばつ、2018 年～2019 年の干ばつや、リクヒモムシの捕食圧の影響が懸念される。引き続きの調査が必要である。スジヒメカタゾウムシは、主に海岸近くにあるクサトベラを後食しているが、このほかにツルナ、オガサワラアザミ、ウラジロエノキなどの摂食が確認された。ヒメカタゾウムシ亜属の種でも、食性の調査を実施し、摂食対象は多様なことがわかってきた。また、6 月の母島における調査では、昨年度は低温で発生が遅れ、そのため、発生初期からの観察をすることができた。ヒメカタゾウムシは 10 日ほどの間に、いっせいに羽化することが確認された。このことにより、外来種等による影響の個体数評価をする上では、調査時期を慎重に設定する必要があることがわかった。

今後の課題：ヒメカタゾウムシ類の種ごと、地域ごとの後食植物をリスト化、夜間調査により、夜の行動、夜行性か昼行性かについても注目していきたい。産卵場所、幼虫期、蛹期の調査については、飼育下における観察も検討する。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

[研究担当者] 中村進一

[研究内容]

今年（2020 年）から向こう 3 年間、神奈川県自然保護課の事業で「神奈川県レッドデータ種」の調査活動がなされる。元々、神奈川県内における蝶類のうち、RD 種（レッドデータ種）に選定されている種について、調査を続けて来ていたので、活動に拍車がかかった思いである。神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について考察を重ね、今までの纏めも含め検証したいと思っている。

一昨年（2018 年）は複数回の調査をしたがシルビアシジミを確認することが出来ずにいた。しかしながら、その同年（2018 年）三浦市で本種を確認したとの報告が専門誌に掲載された。そのことを受けて、昨年（2019 年）は綿密に調査方法を工夫して三浦半島内のシルビアシジミの探索をした結果、極めて少数だが横須賀市内の 1 地域で確認が来た。その生息地の環境は極めて不安定で、宅地開発や整備事業で短時間で消滅をする可能性がある。また、決して多くない食草ミヤコグサも背丈の高い草や外来植物に覆われ衰退をしてしまう恐れがある。保護策を講じなければ、直ぐに姿を失ってしまう種の典型である。

本県の天然記念物であるギフチョウについて、昨年も継続して生息状況調査をしていて、強く感じたことは食草のカンアオイの衰退が著しい。そのことを県文化遺産課に進言したが、何の返答も現在まで無い。まず、食草の保護と繁栄を考えなければ、ギフチョウが衰退するのは「火を見るより明らか」である。県文化遺産課に積極的な動きを期待する。

水生動物に対するアメリカザリガニの影響調査

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

2015 年に、新潟県十日町市松之山、松代地区のアメリカザリガニが未確認である 5 地点、アメリカザリガニが採集されたか、痕跡や生息情報が確認された 14 地点、合計 19 地点において、アナゴカゴとタモ網により水生動物を採集した。

この採集調査開始前の、カゴワナの試行調査では、アメリカザリガニ未確認地点において、アカハライモリ成体、クロゲンゴロウ成虫が、比較的安定して捕れるように見受けられた。しかしアナゴカゴの本調査では、アカハライモリ 2 地点、クロゲンゴロウ成虫 2 地点で採集され、シマイシビルは採集されなかった。これらの生物が採集された地点はいずれもアメリカザリガニ未確認地点であったが、安定して捕れるとはいえず、アメリカザリガニの影響を受けていない生息地の指標生物とまではいえなかった。

これには採集法の違いによると考えられる。本調査では網の目合 8 mm のアナゴカゴを午後に仕掛けて翌日の日中に引き上げた。一方で試行時には、網の目合 2 mm の角型のカゴワナを併用し、午後に仕掛けて夜間に引き上げた。本

調査時にもアナゴカゴの中にクロゲンゴロウやシマイシビルは入っていたかもしれないが、夜が明けると網目から逃げてしまった可能性が考えられる。

今後、アメリカザリガニの影響の指標を定めるためには、生物調査法を詳細に設定する必要がある。

本州中部の変形菌相の研究

[研究担当者] 矢野倫子

[研究内容]

令和元年度も変形菌の採集記録が少ない本州中部の亜高山帯において調査を継続した。数年に亘って採集を続けている富士山に重点をおいて標本データの収集に努めた。令和元年度は平成30年度に続き、特に富士山南面(静岡県域)の亜高山帯において、標高約2,300 m、約2,000 m、約1,700 mに50 m×50 mのコドラートを設定し、標高による発生状況を比較するための調査を行った。

令和元年度は、富士山静岡領域変形菌調査の一環として、富士宮登山口(南面亜高山帯)において、標本採集を平成31年4月から11月にかけて計11回行った。その結果は、目視による子実体採集標本と基物の温室培養による子実体標本を併せて288標本、5目10科21属であった。今後、2019年~2021年まで計画している調査結果と合わせて富士山亜高山帯変形菌発生の特徴について、より詳細な分析を行う予定である。

神奈川県の不完全菌類に関する研究

[研究担当者] 杉本 泉

[研究内容]

本研究の対象地としてほぼ月例で菌類調査を行ってきた神奈川県内の小田原市入生田に加え、今年度は箱根仙石原、西丹沢でも調査することができた。2019年4月から2020年3月までの1年間で、小田原市入生田において11回、横浜市瀬谷区周辺で6回、西丹沢イデン沢1回、箱根町仙石原湿原で2回の野外調査を行い合計約200点の不完全菌類を採集した。形態観察により同定できた分類群は以下の37属であった。属まで同定できた標本は全体のおよそ25%に留まった。

Aegerita, *Alternaria*, *Beltrania*, *Brachiosphaera*, *Candelabrum*, *Chaetopsina*, *Cladosporium*, *Codinaea*, *Constantinella*, *Dendrosporium lobatum*, *Discosia*, *Epicoccum*, *Fusarium*, *Gracilistilbella*, *Helicosporium*, *Helminthosporium*, *Mariannaea*, *Melanographium*, *Milosporium*, *Monochaetia*, *Mycogone*, *Nocturisporium*, *Onchopodiella*, *Periconia*, *Phaeoisaria*, *Sclerographium fuligineum*, *Selenosporella*, *Stemphylium*, *Synnemacrodactylus stilboidea*, *Synnematomyces capitatus*, *Trichodema*, *Trichothecium*, *Tubercularia*, *Uvarispora*, *Verticillium*, *Volutella*, *Xenocylincladium*

これらのうち、今年度初めて観察できたものは *Brachiosphaera*, *Beltrania*, *Dendrosporium lobatum*, *Discosia*, *Gracilistilbella*, *Onchopodiella*, *Selenosporella*, *Stemphylium*

Synnemacrodactylus stilboidea, *Synnematomyces capitatus*, *Xenocylincladium* の11属であった。

また今年度見つかった不完全菌類のうち、*Sclerographium fuligineum* は分生子柄束という分生子果を形成し、地上に放置されたタケ上に発生する。日野・勝本(1956)により宮崎県で採集され新種記載された後、2005年の丹沢大山総合調査において2例目となる標本が採集されている。(出川・岡田ら, 2007)

本研究では2017年に吾性沢下流で本種の発生を確認し分離培養することができ、今回は入生田梅・竹林において新たに発生が確認された。今回確認された分生子果は、斜めに倒れたタケの外側表面だけでなく内側表面にも発生していた。

新年度も継続観察を行いたい。COVID-19による緊急事態宣言のため自宅周辺での観察が主になると思われる。分生子形成様式についての学習を進め、同定できる属を増やしたい。

神奈川県における糞生および節足動物腸内生接合菌類相の調査

[研究担当者] 渡辺 舞

[研究内容]

菌界全体の系統進化を考える上で、接合菌類は初期に陸上進出した菌類という点で重要なグループであるが、その分類学的研究は遅れている。接合菌類には、動物の糞上に発生するもの(糞生菌)や節足動物に内生するもの、動植物遺体分解するものなど、多様な生態的特徴を有する菌が含まれる。中でも、節足動物の腸内生接合菌であるハルペラ目、アセラリア目は、国内での研究が著しく遅れているため、本研究ではこれらを調査し多様性を把握し、分類学的検討を行うことを目的とした。なお、本年度の研究開始当初には糞生菌も対象とする予定であったが、スケジュールや研究実施環境の都合上、調査を行うことができなかったため、節足動物腸内生接合菌のうちアセラリア目の調査のみを行った。

神奈川県レッドリスト更新に伴う調査で、フナムシの腸内に生息する *Aseellaria ligiae* の分布を調べた。本種は自然度の高い環境でのみ生息すると考えられ、過去の調査では泥干潟である江奈湾(三浦市)でのみ分布が知られており、その生息地の減少から神奈川県レッドリストに加えられていた。今回、江奈湾に加えて、近隣の岩礁である毘沙門湾のほか、他の干潟として相模川河口(高木望氏調査)、人工的な環境として海の公園、江奈湾から遠く離れた地点として、真鶴半島の岩礁を調査地とした。2019年5-7月に、1地点約20匹のフナムシを採集し、解剖して腸内での本菌の有無を調べた。調査の結果、すべての調査地で本菌の生息が確認された。なお、一部のフナムシは採集後冷凍保存し後日解剖を行ったが、一旦凍結させた検体からも本菌の有無を調べることができた。以上の結果から、本菌の分布

が泥干潟に限らないことが明らかになったが、生息に適した環境条件については、より調査地や調査個体数を増やし、精査する必要がある。これらの成果は論文にまとめ報告する予定である。

地衣類の共生系の再形成手法の改良

[研究担当者] 石原 峻

[研究内容]

本研究では、真菌類(地衣菌)と藻類(共生藻)からなる共生体である地衣類を用いて、地衣類の共生系を培養環境下で人工的に形成させる実験系(地衣体再形成手法)の改良や検証を行うことを目的としている。そのために、野外で採集して冷凍保存した数種類の地衣類から、地衣組織培養法を用いて、組織培養物や地衣菌、共生藻の分離培養株を得る。そして、これらの培養物を材料として、再び共生系を構築させる地衣体再形成実験に取り組む。平成31年度・令和1年度は、以下の実験および調査を行った。

[培養実験を行う環境・設備の整備]

本研究を進めるための準備として、2019年の4月以降に培養実験に用いる器具を量販店や通販サイトなどで随時購入した。12月には試験管や購入した実験器具の洗浄を行った。2020年1月にはMYスラント培地(麦芽エキス20g/L, 酵母エキス2g/L, 寒天20g/L)の試作を行い、博物館の化学分析室の設備で作製できることを確認した。

来年度には、地衣組織培養物の作製を開始し、培養サンプルを置く場所の整備やMY培地以外の種類の培地の試作なども行ってゆく予定である。

[培養サンプルとなる地衣類の採集・冷凍保存]

2019年10月には神奈川県相模原市緑区にて、11月には山梨県山中湖村にてサルオガセ類(*Usnea spp.*)を採集して、後日培養試験に供するために、その日のうちに博物館の標本制作室のディープフリーザーに冷凍保存した。採集したサルオガセ類の同定は、大阪市立博物館の外来研究員である山本好和博士に依頼中である。2020年3月には神奈川県真鶴町にてウチキクロボシゴケ(*Pyxine endochrysin*)を採集し、これも同様に冷凍保存した。

来年度も、培養サンプルの種類を増やすために、地衣類の野外採集を随時行う予定である。

伊豆・小笠原弧における浅海性魚類の多様性解明

[研究担当者] 栗岩 薫

[研究内容]

日本周辺海域において唯一の海洋島環境であり、巨大な島弧である伊豆・小笠原弧上の島嶼群、伊豆諸島・豆南諸島・小笠原群島・火山列島について、(1)網羅的サンプリングによる浅海性魚類相の作成による種多様性の解明、および(2)ハタ科アカハタを用いた集団ゲノミクスによる遺伝的集団構造の形成史の解明、を目指した。(1)については、その特徴的な魚類相をまとめて前年度の日本魚類学会で発

表した以降はあまり進捗せず、今年度は論文文化によりやく手を付けたところである。ただし、火山列島における調査で採集した正体不明のウツボ科キカイウツボ属の1種については、日本初記録種として国際誌に論文を投稿し、現在査読を受けているところである。(2)については、次世代シーケンサーを用いたアカハタの高精度全ゲノム配列の決定および脳・心臓・肝臓・筋肉の4組織におけるRNA Seq.を終了した。それぞれの概要は以下のとおりである: 全ゲノム配列(約110.8 Gbp, Q20-93.0%, Q30-86.3%)、RNA Seq. (脳: 6.7 Gbp, Q20-97.9%, Q30-94.0%, 心臓: 7.6 Gbp, Q20-98.3%, Q30-94.8%, 肝臓: 7.7 Gbp, Q20-98.4%, Q30-95.1%, 筋肉: 6.9 Gbp, Q20-98.2%, Q30-94.8%)。さらに、高濃度ランダムプライマーとシーケンスアダプター配列を用いてジェノタイピングを行うGRAS-Di (Genotyping by Random Amplicon Sequencing-Direct)解析を行った。現在、これらにより得られたデータを元に集団ゲノミクス解析を進めている。

ミミズのエコ分類学

[研究担当者] ロバート ブレクモア

[研究内容]

当年度の発表等をつぎに示す。

May 2019. MAFF/IPCC "Agriculture is the Solution" meeting (invitee), Biwako.

May 2019. "Global Landscape Forum" short presentation, Kyoto.

October 2019. International ICEF Climate Conference in Tokyo.

March 2020. Climate2020 Worldwide Online Conference participant. Online.

Several publications were completed as listed below, others are in progress.

Blakemore, R. J. (2019a). Humic Carbon to Fix Food, Climate and Health. *Climate* 2019. Veop. 3. 1.

<https://www.preprints.org/manuscript/201904.0109/v1>
<https://www.preprints.org/manuscript/201904.0109/v1/download>

Blakemore, R. J. (2019b). Soil Carbon and Biomass: Flat Out Wrong? *Science eletter*

<https://science.sciencemag.org/content/365/6455/eaav0550/tab-e-letters>

Blakemore, R. J. (2020 in press). Addendum to "Soil Syst. 2018, 2, 64" on SOC & NPP. *Soil Systems*. 4(2): in press.

*Blakemore, R. J. (2018a). Critical Decline of Earthworms from Organic Origins under Intensive, Humic SOM-Depleting Agriculture. *Soil Systems*. 2(2): 33. <https://www.mdpi.com/2571-8789/2/2/33>

**Blakemore, R. J. (2018b). Non-Flat Earth

Recalibrated for Terrain and Topsoil. Soil System 2 (4): 64. <https://www.mdpi.com/2571-8789/2/4/64>

*This paper has 13,500 "reads" by March, 2020.

**This paper has 9,250 "reads" by March, 2020.

丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する (継続)

[研究担当者] 門田真人

[研究内容]

静岡県立ふじの国環境史ミュージアム刊「東海自然史(12)」3月号に伊豆半島松崎町の中部中新統湯ヶ島層群産の蓋つきヤバサザエ *Turbo yoshiharuyabei* が共著で掲載された。日本古生物学会誌 *Paleontological Research*, vol. 24, no. 1, 1月号に静岡県女神山産石灰岩より新種のサザエ類化石 *Turbo (marmorostoma) histrioides* sp. nov. 産出が共著で掲載された。いずれも中新世の石灰岩よりの産出で、これら熱帯系サザエ類化石は産地の地層が中新世の約 1500 万年ころに熱帯海洋域で生成されたことを意味していて大地変動を知る手がかりである。

南の海から来た丹沢山地の地学的遺産である枕状溶岩露頭、サンゴ石灰岩露頭などの保全活動を丹沢地学愛好家たちと実施した。特に 2019 年秋、関東地方に甚大な災害をもたらした 19 号台風による地学野外観察地点の復旧整備を 4 回実施した。そのひとつ、令和 2 年 1 月 4 日(仲間同士では石の日と自称)は 50 人近い有志が南丹沢皆瀬川の谷底にてアオサンゴ群体化石の保全作業を実施した。

以上の他に丹沢山地を中心に地学普及活動、講演、出前授業、巡検案内を 11 回実施した。また自身で採集所有化石の寄贈を各機関へ行っている。

西丹沢「小菅沢に分布する枕状溶岩露頭調査」のまとめを神奈川地学 84 号に投稿中である。

神奈川県産クモ類の調査と標本収集 (V)

[研究担当者] 水山栄子

[研究内容]

今年度は以下の内容で調査研究を行った。

神奈川県のクモの調査及び標本の採集

1. 横浜市緑区新治

2019 年度は 7 回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

2. 葉山町長柄

2019 年度は 7 回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

3. 横浜市戸塚区舞岡

2019 年度は 5 回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

標本の整理

神奈川県産クモ類のコレクション構築に向けて、採集標本の同定を行い、当館に標本を収蔵、ミュージアムにカテ

ゴリーを作成し、順次登録中。

その他

クモの教材を作成し、当館主催の夏休み昆虫ひろばにて使用

当館主催の昆虫観察会においてクモの観察を指導

瀬戸内海周辺のサヌキトイドの蛍光 X 線分析値から見た判別群

[研究担当者] 高橋 豊

[研究内容]

昨年度の踏査地域・下記の地域で、地質調査に基づく XRF 分析資料の採集と XRF 分析の準備、一部サンプルの XRF 分析をすすめた。

①松山市から北に北条市地域：沿岸部に点在する良質で黒灰色なサヌキトイドの採取と蛍光 X 線分析を実施。

松山市高浜の磯に点在する良質のサヌキトイド 6 試料、高浜対岸の興居島南端の 2 試料、太山寺周辺の 6 試料、鹿島の 8 試料、恵良山の 6 試料

②松山道後の崩壊地のサヌキトイドの採取と分析

道後温泉東谷の露頭の 4 試料、砥部の中央構造線と平行して走る小断層に沿う小河川にみる露頭の 5 試料

③砥部の南に展開する久万高原南部地域のサヌキトイドの採取と分析。

丸山の 4 試料、障子山の 4 試料、桂ヶ森の 4 試料、皿ヶ嶺の 8 試料

④香川県坂出市白峰山、白峰神社、五色台に見られるサヌキトイド白峰溶岩の分布の確認のための試料採取と分析 坂出市白峰山、白峰神社、五色台経由で北の海岸線に出るルート沿いの露頭 6ヶ所、五色台に見るサヌキトイド安山岩の確認。露頭 2ヶ所

⑤香川県坂出市から西に、三豊市荘内半島までのサヌキトイドの踏査、XRF 分析試料の採取と分析

観音寺岩体の稲積山、七宝山、志保の 6 試料

⑥小豆島のサヌキトイド安山岩に注目し、皇踏山、大麻山、碁石山、三郡溶岩類にも注目し、採取済みの試料の分析を試みた。

⑦中央構造線付近にみるサヌキトイド安山岩 27 試料の全岩化学分析。

新居浜市角野露頭の 2 試料、西条市大畑露頭の 2 試料、丹波町湯谷口露頭の 2 試料、川内町根引峠露頭の 2 試料、川内町河之内清水橋付近露頭の 15 試料、砥部町長仙人寺露頭の 2 試料、砥部町五本松露頭の 2 試料

神奈川県内の標本にもとづくタケ亜科植物の分布特性と開花歴の研究

[研究担当者] 支倉千賀子

[研究内容]

標本にもとづくタケ亜科植物の分布特性と開花歴の研究のため本年度はタケ亜科植物のうち県内の山地に広く自生

するスズダケ属スズダケ *Sasamorpha borealis* (Hackel) Nakai の標本調査を主に行なった。

本館収蔵庫において 1950 年代ごろから近年までに採集されたスズダケの県内標本 180 枚余りを確認した。標本の多くは箱根と丹沢の山地で採集されてきたものであるが、三浦半島でもわずかであるが採集され続けており、現在もスズダケが三浦半島に生育し、その分布は箱根・丹沢から大きく離れた特異なものであることがわかった。

また、スズダケなどのササ類ではこれまで標本の同定が難しかったため、それを利用した開花歴調査がされてこなかったが、180 枚余りの中には年代が大きく異なる開花標本が含まれることがわかった。

さらに、スズダケは全国的には北海道中央部から鹿児島県南部までの主に太平洋側の山地に広く分布するが、県内との比較において重要な県外標本（花付きを含む）も本館に収蔵されていることが確認された。

今後は収蔵されている県内外のタケ亜科植物標本の再同定と分布特性と開花歴の研究を継続していく予定である。

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

昨年度、足柄地域において確認したヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* のコロニーの繁殖状況及び季節変動について継続観察した。また、箱根・足柄山地の落葉広葉樹林とスギ人工林において、ハーブトラップによるコウモリ類の捕獲（生け捕り）調査を実施し、コテングコウモリ *Murina ussuriensis* およびコキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* の 2 種を記録した。種数、頭数共に少なかった。

日本列島の花崗岩マグマティズムと造山過程 (1) 領家一山陽帯花崗岩マグマティズムの継続時間とマグマプロセス

[研究担当者] 中島 隆

[研究内容]

領家一山陽帯花崗岩マグマティズムは インドシナ半島から華南、韓半島、シホテアリン、チュコツカにいたる後期中生代環太平洋花崗岩地帯の一部をなし、日本列島の屋台骨を形作る大規模なマグマティズムである。日本列島においてはその活動時期はおおむね白亜紀後半と言われてきているが、その花崗岩類の詳細な時空分布については近年 U-Pb 年代が多数発表され全体像が明らかになってきている。

領家一山陽帯花崗岩類は九州地方から中部地方まで 110-70 Ma の年代を示すが、その中で山陽帯花崗岩類は九州から中部まで西から東に向かって年代が若くなっていく傾向があることが知られている。領家花崗岩類中には散点的に苦鉄質岩が相伴って露出するが、それらの年代は近傍の領家花崗岩類の年代より有意に若くて近傍の山陽帯花崗岩類の年代にほぼ近く、山陽帯花崗岩類と同様の東西年代変化がみられる。苦鉄質岩の多くは領家花崗岩類と混交する同時性岩脈の産状を呈するが、これらの同時性岩脈は従来考えられてきたような花崗岩質マグマだまりの中でのプロセスではなく、領家花崗岩類が固結した 15-20 m. y. 後に苦鉄質マグマが侵入したことにより花崗岩類が局所的に融解して優白質メルトを生じ、苦鉄質マグマと混交して形成された可能性があることがわかった。

今回確認された同時性岩脈に伴う領家花崗岩類の年代は約 90 Ma、苦鉄質岩は 70-75 Ma であり、これらの地域では 15-20 m. y. の休止期があったことになり、同一花崗岩区内における固結した花崗岩マグマだまりの部分的再生事件とみることもでき、巨視的 110-70Ma マグマティズムの中で展開された素過程の一つとも考えられる。

領家帯一山陽帯は白亜紀ユーラシア大陸東縁の中部地殻～上部地殻が地表露出した同時間断面と考えられてきたが、それは 110-70 Ma の間を同時間とみる第一次近似であり、実際はその中で活動時期や地域をまたいでダイナミックに進行したイベントであったことが示された。年代学の進歩によりマグマティズムの詳細なプロセスが描述できる可能性が示唆されたと言える。

4.1.4. 外部資金助成等・共同研究等

学校・幼稚園の先生を自然観察の名人にする学習プログラムの開発研究

[助成金の種類] 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)

[課題番号] 15K01008

[研究期間] 平成 27 年度～令和元年度

[研究組織] 佐藤武宏 (研究代表者)・田口公則 (研究分担者)・高橋京子 (研究協力者)

[研究内容]

自然や身近な動植物に接することを目的とした幼稚園教育、自然科学の基礎教育が施される学校教育において、教

員自身が自然とどのように関わったらよいか分からないという問題点が指摘されている。そこで、博物館が自然観察や室内実習のノウハウを学校に提供し「先生を自然観察の名人にする」ための学習プログラムを開発することを目的として、研究を実施した。

幼稚園教諭・保育園保育士と、幼児教育の専門家、自然観察や自然遊びを実践している研究者などによる事例研究会を隔月で定期的開催し、自然観察や自然遊びが教育的にどのような影響を持っているか、子どもたちの発達や学習にどのような効果をもたらすかを検討した。

この検討結果を受け、教員や保育士を対象とした講演会

を開催し、小学校・幼稚園・保育園における生きものの飼育の方法やその意義について解説を行った。その上で、博物館で実施している、貝殻を利用した自然観察や室内実習を実際に体験してもらい、幼稚園や保育園で実践するための方法をレクチャーした。

検討した結果や、体験講座の内容を報告論文にまとめるとともに、幼稚園や保育園でも気軽に手に取ってもらえるようなフォトブックのようなかたちでドキュメント化した。

小型イタチ科動物の種間関係の解明を目指した毛形態による種同定法の開発

[助成金の種類] 公益信託乾太助記念動物科学研究助成基金

[研究期間] 平成 30 年度

[研究組織] 鈴木 聡

本州以南の日本の平野部から低山には、ニホンイタチ *Mustela itatsi* および外来種として西日本に分布するシベリアイタチ *M. sibirica* の 2 種のイタチ属動物が生息している。ニホンイタチは近年個体数が減少していると考えられており、絶滅危惧種に選定されている府県もある。特に個体数の減少が著しいとされる西日本の平野部では、シベリアイタチが個体数を増加させ、ニホンイタチは山間部に追いやられている可能性がある。2 種の種間関係を解明するためには分布情報の収集が不可欠であるが、2 種の判別は困難である。

これまでに頭骨、尾率、毛色、顔の模様、DNA による種判別方法が提示されてきた。それぞれの方法で適用可能な試料が異なるとともに、正確性やコスト面でのメリット・デメリットがあるため、いくつかの方法を併用して種判別する必要がある。本研究では、新たに毛の形態観察（毛色および微細構造）に基づくイタチ属の定量的な種判別方法を検討するとともに、野外で毛サンプルを効率的に採取する方法を検討した。

毛色および微細構造の比較には、背部および腹部の毛を用いた。毛色については RGB および HSB 色空間上での各パラメータの値を計測し、種間比較を行った。その結果、背部の毛ではすべてのパラメータで値に有意差があったのに対し、腹部の毛ではいずれのパラメータでも有意差がなかった。判別分析では、背部の毛を 70%、腹部の毛を 66% の確率で正しく種判別できた。微細構造については、走査電子顕微鏡で撮影した毛の表面構造を部位ごとに種間比較した。その結果、鱗片の数や形状に種間差が見られた。

野外における毛サンプルの採集方法の検討は、神奈川県小田原市および秦野市、福井県福井市および勝山市において、自作のヘアトラップを設置して行った。採集された毛に、イタチ属のものは含まれていなかった。ヘアトラップの構造、毛採集のための粘着剤およびイタチ属を誘引する仕組みについて、さらなる検討が必要である。

多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト

[助成金の種類] 多摩・島しょ広域連携活動助成金

[研究期間] 平成 29 年度～令和元年度

[研究組織] 樽 創：多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会 代表 羽村市

※実行委員

自治体委員：奥多摩町、青梅市、羽村市、福生市、日の出町、あきる野市、瑞穂町、武蔵村山市、昭島市、立川市、日野市、研究機関委員：首都大学東京教授 鈴木毅彦(自然地理学)、神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員 樽創(古生物学)、駒澤大学准教授 鈴木秀和(水文学)、協力研究者(実行委員会委嘱)、群馬県立自然史博物館生物研究係長 木村敏之(古生物学)、昭島市文化財保護審議会委員 むさしの化石塾 福嶋徹(古生物学)、首都大学東京教授 松山洋(水文学)、千葉大学大学院教授 百原新(古生物学)

[研究内容]

本プロジェクトは、多摩川水系の中・上流域、具体的には実行委員自治体の行政域及びその周辺地域を対象に、行政が保有するボーリングデータや化石の産出・保有状況、水道用井戸に関する情報などを基に、自然地理学・古生物学・水文学の三分野からあらたな調査、研究を進め、それぞれの研究者が大学や研究機関において蓄積してきた研究成果も踏まえて、地域内上総層群に関する基本的情報の構築を進めた。

自然地理学分野での新たな知見としては、八王子市上巻分方町の北浅川の山田層最上部に上巻分方小学校第 1 テフラ～第 4 テフラ (Kmic1⁴) が確認され、その年代として 1.7Ma～2.0Ma (Ma は百万年) が得られた。

古脊椎動物については、これまでミエゾウからアケボノゾウへ進化する中間種として報告されていた加住層産出のハチオウジゾウについて、加住層は Kmic (1.7Ma～2.0Ma) よりも上位である。また Kmic 近接の地層からアケボノゾウの特徴を持つ臼歯が見ついているという事実から、ハチオウジゾウという分類群に疑問を呈している。また、日野市域多摩川河床平山層から産出した“ヒノクジラ”について、従来ヒゲクジラ類と考えられていたが、骨の形態や内部構造の特長からハクジラ類であることが確認された。古植物分野では大型植物化石について、これまでの研究成果に新たなデータを加え、対象地域産出化石群について、初めて網羅的かつ体系的な区分を行い 9 つのグループ(フロラ)としてまとめた。

水文は対象地域内の水文環境と上総層群の関係について、井戸・湧水の調査を通じた研究が行われた。

[成果の公表]

- (1) 報告書 A4 223 頁 700 部 他
- (3) シンポジウム 令和 2 年 2 月 2 日(日) 羽村市生涯学習センター 小ホール 来場者 203 人

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

[土地概要]

	本館	連絡橋 EV 棟
所在地	小田原市入生田 499 番地	
敷地面積	22,460.90 m ²	153.60 m ²
現況	国道 1 号線と早川とにはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	

[建物概要]

	本館	連絡橋 EV 棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下 1 階地上 4 階建て	地上 2 階建て
建築面積	8,218.11 m ²	30.97 m ²
延床面積	19,020.14 m ² (地下駐車場 4,800.14 m ² 含む)	43.86 m ²
最高高さ	23.25m	

[各階別面積]

	面積	主要室
地下 1 階	5,852.14 m ²	駐車場・機械室等
1 階	7,427.00 m ²	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2 階	2,166.00 m ²	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3 階	3,017.00 m ²	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4 階	506.00 m ²	機械室等
塔屋	52.00 m ²	
合計	19,020.14 m ²	

[用途別面積] (本館)

エントランススペース	984.00 m ²
展示スペース	5,075.00 m ²
学習スペース	867.00 m ²
収蔵スペース	1,433.00 m ²
研究スペース	804.00 m ²
管理・その他	5,057.00 m ²
地下駐車場	4,800.14 m ²
合計	19,020.14 m ²

[建物仕上げ] 外部 (本館)

外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根)カラーステンレス (陸屋根)アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ

[建物仕上げ] 内部 (本館・主な箇所のみ)

エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	P B 下地ガラスクロス E P
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付け C L 及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレート O P

[設計・施工] (本館)

設計	
建築	㈱国設計
設備	㈱国設計
展示	㈱丹青社
造成	中野設計工務㈱
施工監理	
建築	㈱国設計
設備	㈱国設計
展示	㈱日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務㈱
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トヨコ理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	㈱日立製作所
展示	㈱丹青社
造成	㈱杉山組・㈱若林組・箱根建設㈱・㈱加藤組 ㈱吉沢組・日本鋼管工事㈱・㈱秋山組
外構	土谷建設㈱・㈱菊原建設
植栽	㈱加藤造園・㈱深谷造園・栄立造園土木 緑栄造園土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 6 年 12 月 20 日
展示工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 7 年 3 月 1 日

[設計・施工] (連絡橋 EV 棟)

設計・施工	中野設計工務㈱
建築	内田建設㈱
電気	㈱昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター㈱

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

[電気設備]

受配電設備	受電電圧 3相3線式 6.6kV 50Hz 変圧器容量 1,905kVA (乾式モールド形) 進相コンデンサー 327kvar 高圧母線 5系統 低圧幹線 102系統
自家発電設備	原動機 ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm) 発電機ブラシなし交流発電機 300kVA Pf0.8 (1,500rpm) 起動方式 直流電動機起動式
太陽光発電設備	出力電気方式 三相3線式 210V 公称出力 7.5KW システム構成 システム連携型
蓄電池設備	種類 シール形ポケット式アルカリ電池 公称電圧 103.2V (86セル) 容量 350Ah (5時間率) 用途 受配電機器操作・非常灯用
電話設備	交換機 デジタル交換機 局線 6回線 (12回線実装) 内線 120回線 (144回線実装)
電気時計設備	親時計 水晶発振式 (出力2回線) 子時計 アナログ式 29台 デジタル式 5台
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示一式
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備 インターホン設備・テレビ共聴設備

[空調設備]

空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式 中央式 各階ゾーンユニット方式+2管式 FCユニット併用方式 パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT 3台
空調機等	ユニット型空調機 16台 ファンコイルユニット 53台 ビルマルチエアコン 37台 パッケージエアコン 11組
換気設備	第1種及び第3種 給気ファン 7台 排気ファン 43台
自動制御設備	中央監視装置一式

[衛生設備]

受水槽	68 t
雨水槽	300 t
中水槽	28 t
中水処理装置	5t/h1台 (上水用)
加圧給水ポンプユニット	540ℓ/min 1組 (中水用)
加圧給水ポンプユニット	1,470ℓ/min 1組
汚水ポンプ	300ℓ/min 2台
雑排水ポンプ	300ℓ/min 2台
雨水ポンプ	1,000ℓ/min 6台
雨水ポンプ	200ℓ/min 2台
湧水ポンプ	200ℓ/min 2台

[ガス設備]

地下1階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温、レストラン、ともしびショップ等に供給

[昇降機設備]

1号機 乗用 (展望用車椅子仕様) B1F, 1F, 2F, 3F 停止 13人乗り 45 m/min (ロープ式)
2号機 乗用 (車椅子仕様) B1F, 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
3号機 乗用 (車椅子仕様) 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
4号機 荷物用 1F, 2F, 3F 停止 3,000 kg 30 m/min (油圧式)
連絡橋 乗用 (車椅子仕様) 1F, 2F 停止 11人乗り 45 m/min (油圧式)
エスカレーター (1200型・車椅子兼用) 1F~3F 30 m/min (電動式)

[防災設備]

自動火災報知設備 受信機 P型1級 70回線 防災連動制御盤 40回線 熱感知器・煙感知器 一式
消火設備 屋内消火栓 40箇所 屋内消火ポンプユニット 1400ℓ/min 1台 屋外消火栓 6箇所 屋外消火ポンプユニット 7000ℓ/min 1台 泡消火設備 (地下1階駐車場) 薬剤量 600ℓ, 泡ヘッド 696個 泡消化ポンプユニット 1,1200ℓ/min 1台 移動式粉末消火器 (駐車場他) 9台 連結散水設備 (地下1階部分) ヘッド数 12個 誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 165台 ガス漏れ警報器 検知器 12個 受信機 1台
非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵) 電力増幅器 360W 2台 電力増幅器 240W 1台 スピーカー 232個
排煙設備 排煙機 (廊下系統) 15,800 m ³ /h 1台 排煙機 (一般系統) 38,000 m ³ /h 1台
ITV設備 本館監視用 固定カメラ 8台 可動カメラ 8台 モニターテレビ 19型 4台×2箇所 連絡橋 EV 監視用 固定カメラ 3台 モニターテレビ 19型 3台×2箇所

[その他の設備]

自動扉設備 エントランスホール等の出入口に設置 7台
自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用) 東側前庭 8系統・3階テラス 11系統
カスケード設備 (人工滝) 間口 24m 高さ 3m 水量 2.5 m ³ /min 照明付き

5.2.2. 研究設備

【大型標本製作室】

品名	型番 (メーカー)	数量
ロックトリマー (岩石粉碎機)	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー (岩石粉碎機)	2002-EX (吉田製作所)	1台
大型岩石カッター (自動送り)	SC-14 (ニチカ)	2台
中型岩石カッター	MC-442 (マルトー)	1台
小型岩石カッター	MC-100 (マルトー)	1台
旋盤	FS450A (TOYOAS)	1台
超音波洗浄器	B-62 (Brainson)	1台
ふるい震とう器	NVS-200 (C.M.T.)	1台
岩石研磨回転台	RP-5 (マルトー)	2台
卓上帯のこ台	(PROXXON)	1台
遊星ボット型ボールミル	LA-P04 (伊藤製作所)	1台
解剖台		1台

【標本製作室】

品名	型番 (メーカー)	数量
卓上走査型電子顕微鏡 (エネルギー分散型 X線分析装置付き)	TM4000Plus (日立) AZtecone	1台
マイクロカッター	MC-201 (マルトー)	1台
自動メノウ乳鉢	(日本地科学社)	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol (ニコン)	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10 (オリンパス)	1台
プレパラップ (岩石薄片作成装置)	MG-300 (マルトー)	1台
プラノボール (精密研磨台)	Planopoi-V (Struers)	1台
ディスクプラン (岩石切断研磨装置)	Discoplan-TS (Struers)	1式
エポバック (岩石試料作成用真空装置)	Epovac (Struers)	1式
真空装置	G-50S (真空機工)	1式
自動染色装置	DRS-601 (サクラ精機)	1台
ミクロトーム	HM340 (カールツァイス)	1台
パラフィン伸展器	PS-52 (サクラ精機)	1台
パラフィン溶融機	(アルプ)	1台
荷重計測器	FGS-50V-L (日本電産シンボ)	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10 (日本電産シンボ)	2台
デジタルマイクロスコープ	VHX-900 (キーエンス)	1台
デジタルマイクロスコープ	VHX-6000 (キーエンス)	1台
透過型マルメー式微分干涉顕微鏡	BX50-33-DIC, BX51 (オリンパス)	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	SZX12 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	SZ61-1 (オリンパス)	5台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A (ニコン)	1式
ツルグレン装置	B-1 (伊原電子工業)	1台
植物標本乾燥機	(入江製作所)	1台
燻蒸器	(特許理化興業)	1台
ドラフト	(ダルトン)	2台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70 (SCALAR)	1台

【化学分析室】

品名	型番 (メーカー)	数量
精密天秤	RC210P (Sartorius)	1台
化学天秤	LaboratoryLC4200S (Sartorius)	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200 (Advantec)	1台
ビードサンプラー	NT-2100 (東京科学)	1式
ピストンシリンダー型高圧発生装置	A1型 (トライエンヂニアリング)	1式
マッフル炉	STR-11K (ISUZU 製作所)	1台
乾燥機 (DryOven)	ANS-111S (ISUZU 製作所)	1台
超音波洗浄器	UT53N (SHARP)	1台
超音波洗浄機	M5800-J (Bronson 製)	1台
エアコンプレッサー	PAS00S (日立製作所)	1台
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU (アドバンス)	1式
凍結乾燥機	VD-31 他 (TAITEC 他)	1式
限外濾過器	XX80 (MILLIPORE)	1台
HPLC 装置	PU-980 他 (日本分光)	1式
吸光光度計	MPR-4Ai (TOSOH)	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B (TAITEC)	1台
冷蔵庫	SMR-120YAG (SANYO)	1台
遠心分離機	CF8-300, CFA-12 (IWAKI)	2台
マルチポイントスターラー	F-6A (TAITEC)	1台
ディープフリーザー	BFH-110 (ESPEC)	1台
オートクレーブ	LBS-245 (トミー精工)	1台
ポータブルクリーンベンチ	APC4型 (iuchi)	1台
乾熱滅菌器	DS-450 (iuchi)	1台
サーマルサイクラー	TC-96GHbA (日本ジェネティクス)	1台
ドラフト	(ダルトン)	1台

【冷凍乾燥室】

品名	型番 (メーカー)	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203 (日立フリーザー)	1台
インキュベーター	PCI-301 (ASONE)	3台
凍結乾燥機	RLE II (KYOWAC)	1台

【試料分析室】

品名	型番 (メーカー)	数量
蛍光 X線分析装置	Primus II (リガク)	1式
試料固結装置 (Briquetting Machine)	MP-35 (島津製作所)	1台
走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV (日本電子)	1式
金蒸着装置	JFC-1200 (日本電子)	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5 (日本電子)	1台
炭素蒸着装置	SC-701C (サンヨー)	1台
一眼レフデジタルカメラ (ボディ)	D70 (ニコン)	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z (ブラス)	1台

【写真室】

品名	型番 (メーカー)	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol (ニコン)	1式
軟 X線非破壊検査装置	CMB-2 (ソフテックス)	1台
中判カメラ	MamiyaRB67 (マミヤ)	1式
カラー撮影用照明	HMI-575 (broncolor)	2台
マクロ撮影装置	(オリンパス)	1式
一眼レフカメラ	F70, F90 (ニコン)	2台
レンズ用デシケーター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor (ニコン)	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X (ニコン)	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H (三菱電機)	1台
暗室用具		1式

【化石ラボ】

品名	型番 (メーカー)	数量
コンプレッサー	(日立製作所)	1台
サンドブラスター	CH-4000 (WULSUG)	1台
エアスクライパー (小型削岩機)	CP9361 他 (ChicagoPneumatic 他)	4台
デンティストドリル	(Sverital)	2台
実体顕微鏡 (エポバックス付き)	SMZ-2B (ニコン)	2台
集塵機	VF-5 (AMANO)	2台

【実習実験室】

品名	型番 (メーカー)	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT (オリンパス)	15台
偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL (ニコン)	7台
実習用実体顕微鏡	SZ40 (オリンパス)	24台
透過型落射顕微鏡	BX60F (オリンパス)	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンプラー	LV-100 (横河電機)	1台

【収蔵庫】

品名	型番 (メーカー)	数量
電気炉	MAX1200°C (石塚電気製作所)	1台
電気炉	MAX1500°C (石塚電気製作所)	1台
ボルトスライダー (トランス)	S-260-20 (200V) (YamabishiElectric)	1台
ボルトスライダー (トランス)	S-260-50 (200V) (YamabishiElectric)	1台
パワーコントローラー	(石塚電気製作所)	1式
パワーコントローラー	MODEL-S (Uチノー)	1式
ロックトリマー (改)	A型 (IWAMOTO)	1台
実体顕微鏡	SZH10 (オリンパス)	1台
測微計測装置		1台

【学芸部】

品名	型番 (メーカー)	数量
夜間暗視スコープ	M-994 (LittonElectricDevices)	1式
テレメトリー受信機	RX900 (TELEVILT)	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII (ヤエス)	2台
実体顕微鏡	SZH10 (オリンパス)	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A (ニコン)	2台
実体顕微鏡	SZ61-1 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	ファールブルフオト EX (ニコン)	1台

【その他】

品名	型番 (メーカー)	数量
水中撮影写真機材	(ニコン/アンティス)	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型 GPS	FG-0210 (エンバックス)	3台
大型体重計	TRU・TESTSR2000 (フジヤ商会)	1式

5.3. 面積表

[エントランススペース]

室名	面積 (㎡)
エントランスホール	782
(救護室)	(15)
(幼児室)	(13)
(ミュージアムショップ)	(26)
(ともしびショップ)	(35)
(ロッカー室)	(17)
レストラン	202
小計	984

[展示スペース]

室名	面積 (㎡)
ミュージアムシアター	467
1階総合展示室	2,348
(化石ラボトリー)	(32)
3階総合展示室	1,245
(CPUルーム)	(93)
ジャンボブック展示室	581
(ジャンボブック編集室)	(45)
特別展示室	434
(準備室1)	(74)
(準備室2)	(44)
小計	5,075

[学習スペース]

室名	面積 (㎡)
講義室	306
(講師控室)	(16)
実習実験室	139
ミュージアムライブラリー	211
書庫	211
小計	867

[研究スペース]

室名	面積 (㎡)
学芸員室	246
共同研究室	39
試料分析室	74
化学分析室	44
(化学天秤室)	(5)
クリーンルーム (1)	12
クリーンルーム (2)	8
標本製作室	173
燻蒸室	11
乾燥室	9
昆虫標本製作室	17
冷凍乾燥室	39
大型標本製作室	72
液浸標本製作室	13
液浸標本準備室	13
写真室	18
準備室	16
小計	804

[収蔵スペース]

室名	面積 (㎡)
収蔵庫1	1,260
収蔵庫2	77
液浸標本収蔵庫	96
小計	1,433

[管理スペース]

室名	面積 (㎡)
館長室	47
第1会議室	42
第2会議室	42
管理課事務室	91
企画情報部事務室	83
ボランティア・友の会事務局室	34
学習指導員室	49
司書室	39
電話交換室	13
更衣室	13
警備員室	29
(簡易宿泊室)	(14)
湯沸室	11
総合案内員室	24
中央監視室	29
機械室・電気室等	1,824
倉庫	119
トイレ	332
搬入口スペース	70
その他(廊下・階段等)	2,166
小計	5,057

[地下駐車場]

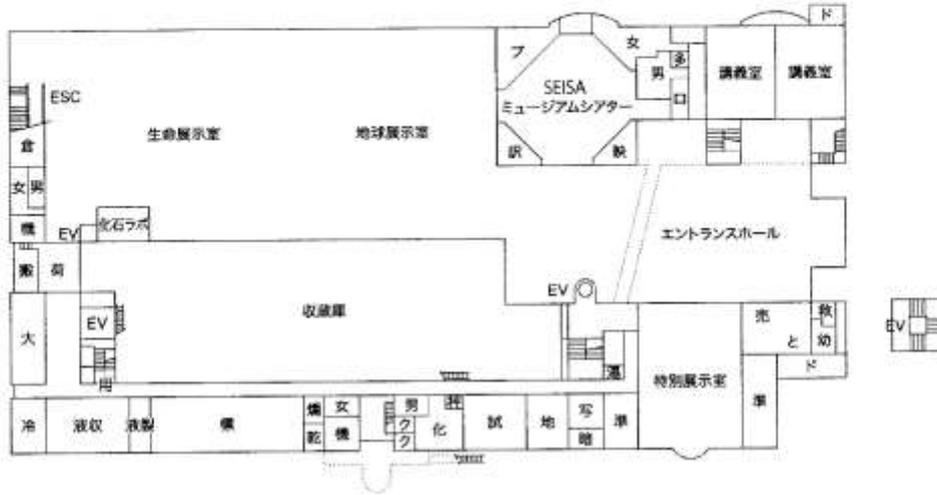
室名	面積 (㎡)
地下駐車場	4,800.14
(清掃作業室)	(32)
(トイレ)	(59)
(機械室)	(34)
小計	4,800.14

カッコ内の数字は内数

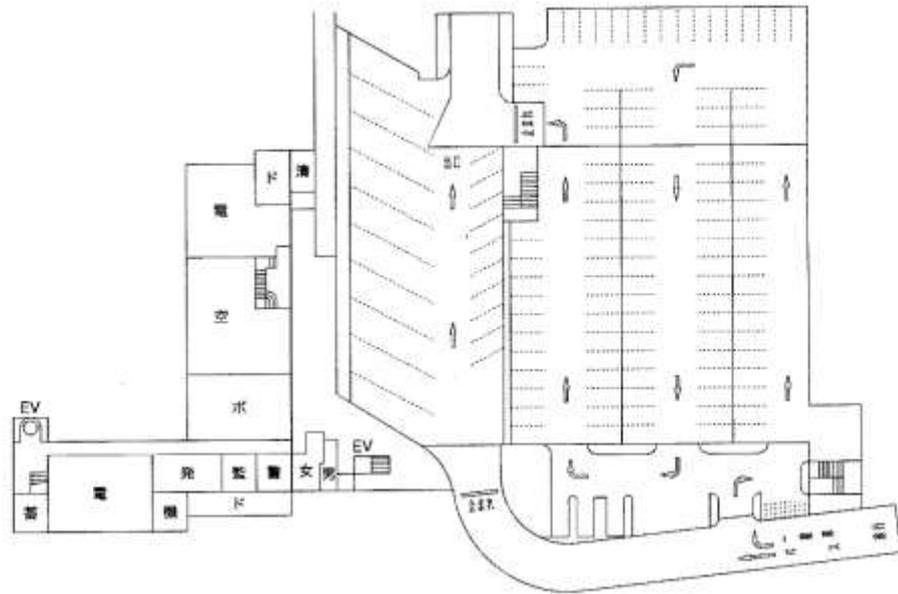
本館延床面積	19,020.14 (㎡)
連絡橋EV棟	43.86 (㎡)
総延床面積	19,064.00 (㎡)



1F



BF



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンボブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部室
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部(動物)研究室
植	2	学芸部(植物)研究室
古	2	学芸部(古生物・植物標本)研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア・友の会事務局室
交	2	電話交換室

略字	フロア	室名
会	2	会議室
共	2	共同研究室
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
書	2	書庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部(地球環境)研究室
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
プ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
液収	1	液浸標本収蔵庫
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
標	1	標本製作室
液製	1	液浸標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室

略字	フロア	室名
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第25号(2019年度)

発行日	2020年6月30日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田大二 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846 http://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	(株)あしがら印刷

編集担当 内田 功 (管理課)・平賀保彦 (企画普及課)・樽 創 (学芸部)

Web版については、42ページ以降の「寄贈資料」について、一部の寄贈者の方の氏名を掲載していません。